

遺傳微毒ノ治療方
針ヲ全身療法及局
所療法ノ二トス

全身療法

ナラズシテ、其他ハ後天微毒療法ノ方針手段ト特ニ異ナル處ヲ見ズ、之ヲ要スルニ全身療法トシテ、常ニ其營養状態ヲ顧慮スベキコト、局所療法トシテ、其糞尿ニ因スル不潔ヲ注意スベキコト等ハ蓋シ遺傳微毒治療上ニ於ケル特種ノ銘心スベキ要件ト云フベキナリ、

一般療法トシテ、從來乳母ニ水銀劑ヲ投シ又ハ羊、驢馬等ノ如キ動物ニ水銀劑ヲ與ヘ之ガ乳汁ヲ遺傳微毒兒ニ飲用セシメテ其乳汁中ニ含マル、水銀ノ効力ヲ兒ニ及ボサシメント企テタルモノ多カリシモ皆失敗ニ終レリ後カール氏ハ水銀ハ全ク乳汁ニ移行スルモノニアラザル事ヲ確證シ其失敗ニ終ルベキ理由ヲ證明セルヨリ今日ニ於テハ最早此ノ如キ間接的手段ヲトル者ナク皆直接ニ水銀劑ヲ應用セザルベカラザルヲ知ルニ至レリ兒ノ皮膚ハ之ヲ大人ニ比シ極メテ薄弱ナルヲ以テ容易ニ水銀疹ヲ發シ易ク、續テ濕疹ニ陥ルコト多キヲ以テ塗擦療法ハナルベク之ヲ避クルヲ可トス、若シ内用藥ヲ用ヒ得ザル場合ニ於テハ昇汞 (Sublimat) (一溶ニ一〇乃至二〇)ヲ命ジ止ムヲ得ズンバ胸、腹背部等ノ大部ニ灰白水銀硬膏 (Quecksilberpflastermilch) 殊ニラング氏賞用スヲ貼スベシ

甘汞内服法

(ツァイスル氏ハ第一ニ塗擦療法ヲ行フヲ良トシ其用ヒ得ラレザル場合ニノミ昇汞浴ヲ行フベシト云ヘリ) 下痢其他特別ナル合併症ナキ限り多クノ場合良好ナルヲ甘汞内服法トス

甘汞

〇・一五—〇・三

乳糖

五〇

右分十五包朝夕一包ヅ、

若シ右甘汞劑ヲ與ヘ屢々下痢アル者ニハ次ギノ散劑ヲ與ヘ其下痢ノ止ムヲ待チ前法ニ復ス

甘汞

〇・〇〇五

阿片丁幾

一滴

乳糖

〇・三

右一日三四分服

前法ヲ以テシテ尙ホ下痢止マサル時ハ寧ロ次ノ方法ヲ可トス

昇汞

〇・〇〇五

餛水

五〇〇

微毒性妊婦及遺傳微毒性兒ノ治療法

フインゲル氏法

右一日適宜分服
フインゲル氏ハ次ノ法ヲ用ユ

單寧酸水銀

〇・〇一—〇・〇二

乳糖

適宜

右一日三四分服

其他プロト沃度水銀ヲ賞用スル人アリ

プロト沃度水銀

〇・一五

乳糖

五・〇

右分五包朝夕一包ヅ、

沃度療法トシテハ沃鐵舍利別ヲ最良トス

沃度療法

沃鐵舍

各々一〇・〇

單舍

餽水

八〇・〇

毎日二—三茶匙

ツァイスル氏法

ツァイスル氏ハ特ニ營養不良ナル者ニ

全身療法ノ方針

乳酸鐵

〇・一五

右一日量トシテ數日間用ヒ後チ再ビ水銀療法ヲ行フヲ可トスト云
ヘリ

要スルニ遺傳微毒ハ全身療法トシテハ甘汞(Kalomel)ヲ最良トシ其用ヒ
得ラレザル場合ニ塗擦水銀硬膏貼用其何レカラ皮膚反應ノ如何ニ考ヘ
撰ミ(兒ニ由リ其反應ヲ異ニスルコト多シ)尙ホ之ヲモ用ヒ能ハザル場
合若クハ皮膚ニ膿胞潰瘍アル場合ニ昇汞浴ヲ撰ブベキヲ可トス遺傳微
毒ニ於テハ後天微毒ノ所謂第二期發疹期ニ既ニ内臟ノ症狀ヲ發シ來ル
ヲ常トスレバ治療中内臟ハ觀察ニ怠リナク且ツ潜伏期ニ於テモ一定ハ
間歇ヲ置キテ治療ヲ持續スルハ覺悟ナカルベカラズ佛國ニ於テハ假令
兒ニシテ現在健康ナリト雖モ兒ノ生前ニ兩親微毒アリタル場合ニ於テ
ハ其萬一ヲ防グ目的ヲ以テ佛醫ハ此ノ如キ兒ニハ多ク原因ナク突然ノ
死ヲ來スコトアリト唱フ驅微療法ヲ行フト云フ。
局所療法トシテ糞尿ノ不潔ヲ防グ事ノ必要ナルハ前ニ述べタルガ如ク
其他唾液及ビ諸多ノ分泌ヨリ來ル不潔ヲモ防ギ殊ニ口腔鼻腔等ニ對シ

局所療法

微毒性妊婦及遺傳微毒性兒ノ治療法

テハ常ニ綿球 (Wattebäuschchen) ニ消毒薬ヲ濕シ之レヲ以テ粘膜及ビ乳狀斑 (Plaque opaline) 皰裂 (Fissura) 潰瘍等ヲ拭ヒ頸部腋窩陰部大腿間ハ皴壁 (Genito-cruralien) 肛圍及之等ハ周圍部ハ屢々糜爛ヲ來シ易キヲ以テ微毒性發疹ノ有無ニ拘ラズ洗滌清潔トナシ濕疹ノ合併ナキ時ハ溫昇汞水ヲ以テシ若シ濕疹ノ合併アル時ハ溫硼酸水ヲ以テスルヲ可トス甘汞一〇乃至四〇炭酸マグネシウム二〇〇ノ合劑ヲ撒布シラング氏又ハ諸多ノ撒布藥ヲ以テ乾燥ヲ計ルベシ濕潤性丘疹 (Nässende Papel) 等アル者ニハ曹達水又ハ昇汞水ノ洗滌後降汞軟膏 (Päcipiatalsbe) ヲ用ヒ潰瘍ニハ水銀軟膏甘汞軟膏ヲ貼シ一般ニ洗滌ハ普通ノ灌溉的洗滌ヨリ溫浴的洗滌ヲ撰ブヲ可トス而シテ糜爛面ハ硝酸銀棒 (Lapisstift) ヲ以テ腐蝕シヨードグリチエリン液 (Jodglycerinlösung) ヲ塗布シ置クニシ

フルニエ氏ノ統計

フルニエ氏ノ統計ニ由レバ遺傳微毒中最モ死亡率多キハ父母共ニ微毒ニ罹レル時ニシテ兒ノ罹病率九十二%ニ對シ其死亡率實ニ六八・五%ヲ算シ次ニハ母ノミ罹病セル時ニシテ罹病率八四%ニ對シ死亡率六〇%ヲ數フ而シテ父ノミ罹病セル時ハ結果良好ニシテ罹病率僅ニ一八%ニ

治療成績

シテ其死亡ハ極メテ稀ナリト云フ之ヲ要スルニ兩親共ニ微毒ニ罹レル時ハ最モ危險大ニ母ノ罹病セル時之ニ次ギ父ノミ罹病セル時ハ其危險遙カニ前二者ヨリ少キナリ
蓋シ遺傳微毒兒ノ治療成績ハ尙ホ其父母ニ於ケル微毒ノ現症經過治療ノ適否個人的關係等ニ關スル處大ニ殊ニ父母ノ傳染後適當ナル治療ヲ加ヘ三年ヲ經過セルヤ否ヤニ關スルコト大ナルヲ以テ之等諸點ヲモ叢合シテ宜シク治療上ノ參考ニ供スベシ

惡性微毒療法 Die Therapie der Syphilis maligna

惡性微毒ハ又名
奔馬微毒トイフ
重症微毒ト區別セ
ラル

惡性微毒 (Syphilis maligna) ハ亦一名奔馬微毒 (Galopierende Syphilis) ト稱シ其症候殊ニ發疹ハ狀態破壞化膿壞疽ニ陥リ易キト共ニ其未ダ傳染後僅カニ四五ヶ月ヲ經過セザルニ早ク已ニ護謨腫ヲ生ズルコトアルガ如キ急激ノ經過ヲ取ルモノニシテ單ニ其微候ノ重症ニシテ且ツ發生部位ノ惡キ爲メ危險症狀ヲ發スル所謂重症微毒 (Syphilis gravis) トハ之ヲ全然區別セザルベカラズ未ダ如何ナル故ヲ以テ惡性微毒ヲ發スルヤ其原因不明

惡性微毒療法

諸大家ノ治療方針

ナルヲ以テ吾人ハ今日尙ホ之ニ充分ナル合理的治療ヲ施ス能ハズト雖
 從來諸大家ノ説ク所ニヨレバ主トシテ全身營養状態ノ不良ニ起因スル
 ガ如キヲ以テ先ヅ強壯劑 (Rohortanin) タルチットマン氏煎 (Decoction
 man)ヲ與ヘ其營養ノ快復ヲ待チテ水銀劑ヲ投ズベキヲ以テ至當トスル
 モハ、如シサレド時ニチットマン氏煎ヲ與ヘテ更ニ効ナキコトアリ
 スト氏ハ七例ノ内二例ハ反テチットマン氏煎ヲ與ヘテ其一般症狀ノ増
 悪ヲ認メタリト云フ又比較的營養ノ可ナル者ニ悪性微毒ノ傾向ヲ來ス
 一ナナキニアラザルヲ以テ一二ノ學者ハ悪性微毒ハ微毒ノ「クルツール
 ナチラン」Kulturationトハ人ヨリ人ニ傳ヘ年代ヲ經ルニ從テ微毒ノ輕症
 トナルヲ云フ少ナキ場合ニ來ルモノナラント云ヒ或ハ結核、腺病等ノ全
 身病合併ニ因スルナラントノ説ヲ主張スルアリ又ハ全然個人ノ特異性
 (Idiosyncrasie)ニ起因スト云フ人アリ其所説雜然トシテ一定スル所ナク
 從テ其治療法モ未ダ確定セラル、ニ至ラズ蓋シ全身營養障害アルト共
 ニ組織殊ニ皮膚ニ早ク變調 (Umstimmung)ヲ起スハ事實ナルモハ、如キヲ
 以テ全身營養ヲ高ムルト共ニ初期硬結多ク浸潤性及ビ皮膚發疹膿胞疹

全身療法

Impetigo 蝨殼疹 (Rupia)ニ對シ特ニ注意ヲ加ヘ初メヨリ破壞壞疽ニ陥ル者
 トシテ恐レ又早ク護謨腫ハ發生ニ備フルハ覺悟ヲ以テ治療セバ大過ナ
 カルベシ其他發疹ノ如キハ全身驅微療法ヲ行フニ由リテ自然ニ治療ス
 ル者ナリト輕視スルナク即チ換言スレバ悪性微毒ニ對シテハ全身ノ營
 養ヲ顧慮シテ全身療法ヲ行フト共ニ特ニ局所療法ニ向テ充分ノ注意ヲ
 加フルヲ必要トス
 全身療法トシテ從來多クハ場合水銀劑ハ其効ヲ現スナク時ニ反テ一層
 營養状態ヲ不良ナラシムル傾キアリ之レ想フニ恐ラク悪性微毒ニ於テ
 ハ全身營養状態不良ナル爲メ輸入サレクル水銀ノ充分「アンチリジン」
 (Antilysin)トナリテクルーゼ氏ノ所謂「リジン」(Lysin)ニ働キ得ザルト共ニ
 一面營養ヲ一層不良ナラシムル結果彼ノ「ブチル氏」(アレキシシ)「アレ
 シ」若クハメチニコフ氏ノ所謂「ミクロチターゼ」(Mikrocytase)ノ發生ヲ障害
 スルニ起因スルモノナランカ之レヲ以テ諸大家ノ云ヘルガ如ク初メニ
 先ヅ營養ヲ高ムルハ方針ヲ取リ只ダ例外トシテ其營養ノ比較的優良ナ
 ル者ニハミ初メヨリ水銀劑ヲ用ヒ蓋シ誤リ少ナカルベシ(前ニ述ベタ

悪性微毒療法

注射療法ノ不可ナル所以

寧口塗擦療法ナ可トス

チットマン氏煎及其作用

ルガ如ク悪性微毒ニ於テハ初期硬結浸蝕性ニ傾キ易ク且ツ皮膚ノ變調早ク來リ未ダ一年ナラズシテ護膜腫ヲ發スルコト稀ナラザルヲ以テ若シ患者水銀ノ使用ニ耐ヘ得ベクバ可成初メヨリ早期療法ノ手段ヲ取ルヲ良トス注射療法ハロス氏ノ實驗(アルホイン)ニ藏化水ヲ混合シテ注射セルナリセルガ如ク組織殊ニ皮膚變調ヲ起セルヨリ注射部ヨリ蠟殼疹又ハ護膜腫ヲ發スルコト少カラズシテ且ツ假令此ノ如キ變化來ラズトスルモ其吸收甚ダ不良ナルヲ常トスレバ可成的之ヲ避クルヲ可トシ若シ止ヲ得ズ注射療法ヲ必要トスルキハ重症ニ甘汞ヲ用ヒテ良効ヲ得タリト汞ヲ用ユルヲ良トスモリーリカン氏ハ重沃度汞ヲ用ヒテ良効ヲ得タリト云ヘリ最モ良好ナルヲ灰白軟膏ノ塗擦療法トス要スルニ水銀劑ト雖其種類方法及ビ時ト場合トヲ撰ビ適度ニ用フル時ニ於テハ決シテ從來信ゼラレタルガ如ク應用困難ナル者ニアラズ時トシテハチットマン氏煎ト共ニ用ヒ又沃度亞砒酸劑ト共ニ互用シテ著効ヲ奏スルコトナキニ非ズ古來常用セラル、モノヲチットマン氏煎(Decoctum Zittmann)トス本劑ハ「サルサバリルラ」(Sarsaparilla)ヲ主成分トスル一種ノ瀉下の強壯劑ニシテ「ス

強チットマン氏煎

バルリーダ又ハ其毒素ニ直接作用スル者ニアラズト雖瀉下作用ヲ以テ消化器ヲ清淨ナラシメ腸ノ消化吸收力ヲ充奮セシメ食欲ヲ催進シ新陳代謝機ヲ盛ナラシメ以テ營養ヲ可良トナラシムルモノナレバ古來ヨリ悪性微毒ニ常用セラレ、又水銀ヲ過量ニ用ヒタル場合ニ應用セラハ本劑ヲ分ツテ強弱ノ二劑トス

強チットマン氏煎 (Decoctum Zittmanni fortius)

サルサバリルラ根 一一・〇

餾水 三〇〇・〇

右ヲ一晝夜浸出シ之ニ

旃那葉 三三・〇

過泥子 〇・六

明礬 〇・六

小茴香 〇・六

甘草末 一・五

白糖 〇・六

悪性微毒療法

弱チットマン氏煎

ヲ加ヘテ三十分間煎出シ餽水ヲ注加シテ全量ヲ三〇〇・〇トナス

弱チットマン氏煎 (Decoctum Zittmanni nitius)

サルサバリルラ根 六・〇

餽水 三〇〇・〇

右一晝液浸出シ之ニ

小萱薺 〇・六

桂皮 〇・六

橙皮 〇・六

甘草末 〇・六

用法

ヲ加ヘテ三十分間煎出シ餽水ヲ加ヘ全量ヲ三〇〇・〇トス
用法。午前六時半頃藤中ニテ先ヅ一杯ノ茶ヲ飲ミ次デ三十分ノ後強
チットマン氏煎三〇〇・〇ヲ飲ムベシ(若シ一度ニ飲用シ能ハザル時ハ
半時乃至一時間内ニ)然ル時ハ午前中已ニ一回乃至三回位ノ便通ア
ルヲ常トス午食ハスープ(粥時ニ少量ノ肉及赤酒ヲ與ヘ而シテ午後
四時頃弱チットマン氏煎三〇〇・〇ヲ飲用セシム便通ハ其後五回乃至

ラング氏ノ濃厚
「サルサバリルラ」
根煎

六回來ルヲ常トス若シ餘リニ頻回下痢來ル時ハ翌日ヨリ旃那ヲ除
クベク尙ホ之ニモ拘ハラズ下痢止マザル時ハ一時本劑ノ應用ヲ中
止スベシ本劑ハ凡ソ十日乃至十二日間ノ使用ヲ以テ其効ヲ現スモ
ノナリ

ラング氏ハ濃厚サルサバリルラ根煎 (Decoctum Sarsaparillae inspissatum)ヲ應
用セリチットマン氏煎ヨリ弱ク瀉下作用ナキヲ以テ前法ヲ行ヒ能ハザル
場合ニ効アリ

サルサバリルラ根 三〇〇・〇

餽水 一〇〇〇・〇

右十二時間浸出シ後チ之ヲ煮沸シテ濾過シ其ノ濾液ニ五〇〇・〇ニサ
ツカリニイ」(Sacharin) 〇・〇一ヲ加ヘ一日ニ乃至三食匙ヲ用ユ

伊太利ニ於テハ花粉塊散 (Pulvis pollinis)ヲ用ユ本劑ハ「サルサバリルラ」ヲ主
成分トスル散劑ニシテツァイスル氏ハ此三・〇ヲチットマン氏煎ニ加ヘ用
ヒ又温水一五〇・〇ニ溶解シテ用ユベシト云ヘリヘブラ氏ハ之レヲ護謨
腫性微毒患者ノ三例ニ用ヒチットマン氏煎ト効價ヲ同フスルヲ報ゼリフ

花粉塊散

悪性微毒療法

ンゲル氏ニヨレバ其處方次ノ如シ

サルサバリルラ根 二五・〇

規那皮 二五・〇

浮石 一〇・〇

生アンチモニー 一〇・〇

胡桃核 二五・〇

右一五〇〇・〇ノ餾水中ニ煮沸シ其濾液五〇〇・〇ヲ一日ニ用ユ

其他ノ秘密藥

其他秘密藥トシテ用ヒラルモノニ「バルダナ」(Bardana) サポナリア(Sapona-
ria) 三色莖菜花 (Viola tricolor) 瑞香皮 (Cortex mezerij) 「ンベリア、インフラ

タ」(Lebelia inflata) 等ノ煎藥用ヒラル

結核、腺病、狼瘡等ヲ合併セル惡性微毒患者ニハ、肝油 (Lebertran) ヲ賞用ス

純沃度 〇〇・七

肝油 五〇・〇

右食鹽及ビ小麦粉ニ混ジ一日三食匙ヲ用ユ

沃度鐵劑

肝油ハ夏期使用シ能ハザルコトアリ然ルトキハ沃度鐵劑ヲ用ユ

沃鐵舍 二五・〇

單舍 二五・〇

餾水 一五〇・〇

右一日三乃至四食匙

沃度鐵 二〇

右葛蒲末及ビ「エクス」ヲ以テ適宜丸藥トナシ一日〇・四ヲ用ユ

近時沃度、フ、エ、ラ、ト、一、ビ、一日三乃至四食匙ヲ賞用スル人アリ又沃度

「グリヂイン」(Jodgildine) (一日二乃至六錠賞用セラル

惡液性貧血又ハ「マ、ラ、リ、ア、後」等ハ高度ハ貧血アル者ニハ鐵劑又ハ亞砒酸

劑ヲ用ユ

純白色亞砒酸 〇・一

鹽酸鐵 一・〇

鹽酸キニート 三・〇

右百丸ニ製シ一日二粒ヨリ始メ五粒ニ増加ス

溶解鐵液 (Ferri dialysat. solut.) 五・〇

亞砒酸劑

惡性微毒療法

日本ニテハ山飯來ヲ賞用セリ

我國ニテハ古來ヨリ水銀劑ヲ用ヒ能ハザル場合ニハ山飯來ヲ賞用セリ
山飯來ハ瀉下ハ効ナキモ利尿作用著シク甚ダ効アリト云フ其一二ノ處
方ヲ擧グレバ

ホーレン丁幾 (Tct. Fowler) 一・五
餽水 二〇〇・〇
橙皮舎 五〇・〇

右一日三食匙

アルゼン、フェラトーゼ

右一日四・〇乃至八・〇食後内服

鶏鹿散

鶏鹿散

精氣おころへ羸瘦したる者によし雞かしわご云ふものを川の羽爪嘴腸を去
り骨を黒燒ごなし肉はあぶり七巾に分ち置くなり(鹿角燒酎に三日浸し黒燒
ごなし四匁薩摩小人參(四匁山飯來(二十日)右四味末にして四十二帖ごなし毎
日山飯來三十目よろしき所甘草(四匁)右二味水八合入四合に煎じ二番に水四
合入二合に煎じ此汁一合にて粉藥一帖づつ服し雞肉一串を六つに分ち之を

支那ニ防風必効散アリ

二切づ、六度に食ふなり日に四度夜に兩度以上七日に飲みつくすべし
支那ニテモ楊梅瘡ヲ發スルガ如キ惡性微毒ニハ特ニ次ノ處方ヲ必要ト
セリ外科正宗ニ曰ク

防風必効散

治楊梅瘡濕熱太盛瘡高稠密元氣素實者服

防風。防己。荆芥。白鮮皮。連翹。槐花。蒼朮。皂角針。風藤。木通。

白芷。天花粉。木瓜。金銀花。蕃白草(各一錢)

甘草(五分) 土茯苓(四兩) 大黃(初起加三錢)

水三碗煎二碗ニ一次服。渣再煎一碗。服後飯酒一大杯。即靜睡一時許。更妙。

營養療法

局所療法

營養療法トシテハ養素ニ富ミタル滋養食物ヲ與フル外新鮮ナル空氣中
ニ運動セシメ其他諸多ノ溫浴水浴殊ニ鑛泉溫泉療法等ヲ行ハシムベシ
詳細ハ已ニ溫泉療法攝生法ノ條下ニ述ベタルヲ以テ茲ニ略ス
局所療法トシテハ一般ニ皮膚疹化膿破壞壞疽ニ陥ル傾キアルヲ以テ消
毒藥就中溫昇汞水ノ洗滌ヲ行ヒ殊ニ昇汞水ノ浴療法ヲ行フヲ可トス而
シテ患者尙ホ水銀劑ノ外用ニ耐ヘ得ベクバ水銀軟膏水銀レゾルピンヲ

惡性微毒療法

貼シ又水銀軟膏ムールヲ用ヒ其他ハ一般外科的療法ニ則リテ嚴密ナル
制腐的治療ヲ加フベシ

恐微毒病及恐水銀病療法

Die Behandlung der Syphilisphobie u. Merkurphobie

恐微毒病

恐微毒病 (Syphilisphobie) ノ輕症ナルモノハ世ノ文明ニ進ムニ從テ稍々増
加ノ傾キアンドモ其ノ眞ニ定型ノ症候ヲ呈セルモノハ吾人ノ極メテ
稀ニ見ル處ナリ本病ノ定型ハ來ルベキ微毒ノ慘害ヲ非常識的ニ恐怖シ
又其會テ微毒ニ罹リタルコトナク又微毒ヲシキ微候ヲ發シタルコトナ
キニモ拘ラズ僅カノ「アクネ」禿頭等ノ如キ病微ヲモ堅ク微毒ト信ジテ疑
ハズ其觀念固定的ニ固着シテ醫ノ説明慰安ヲ以テシテモ更ニ之レヲ氷
解セシムルニ足ラズ來ルベキ激烈ノ微毒症狀ヲ想像シテ之レヲ恐レ又
現在ヲ恐怖シ醫ニ質問スルコト一再ニシテ止マラス例ヘ一時醫ノ説明
ニヨリ慰安セラル、所アリト雖又直チニ恐怖感覺 (Angstempfindung) ニ襲
ハレ所謂商議旅行 (Consultationsreise) ヲ始メ甲醫ヨリ乙醫ニ次デ丙醫ニ其

發病ノ動機

先ズ神經衰弱ヲ治
セザルベカラズ

治療方針

微毒タルヲ訴ヘテ止マズ不安ノ結果多量ノ水銀劑ヲ自己ニ使用シ又ハ
沃度劑ヲ用ヒテ中毒スルコトアリ遂ニ其症候進ムキハコワレウスキ
氏ノ云ヘルガ如キ譫妄ヲ伴ヘル「ヒポコンデリ」狀トナリ強度ノ亢奮狀
態ニ陥リ或ハ自働的メランコリ一狀態ヲ呈シ自他ニ對シ危險ヲ與フル
ニ至リ稀ナラズニ自殺ヲ行フニ至ル其發病ハ動機ハ他人ノ微毒ノ慘狀
ヲ見テ其恐ルベキニ感ジ發病スルコトアリ或ハ醫ノ誤診又ハ故意的診
定ノ結果ニ起因スルコトアリ或ハ知り得タル自己ノ知識ヲ標準トシ其
微毒タルコトヲ自信スルニ發スルコトアル等其來ル近因ニ多々アリト
雖要スルニ神經衰弱ハ遠因アリテ發病スル者ナレバ之ヲ治療スルニ當
リテハ先ヅ第一ニ神經衰弱ハ治療ヲ行フヲ本旨トセザルベカラズ蓋シ
神經衰弱ナルモノハ其本人ノ精神的苦痛ヲ去リ之ヲ慰安シテ精神ノ安
靜ヲ與フルニヨリ初メテ治ニ導キ得ベキモノナレバ先ヅ恐微毒ナル精
神的苦悶ヲ第一ニ除去スル手段ヲ講ゼザルベカラズ此手段ニ二アリ(一)
ハ驅微療法ヲ加ヘテ假令微毒ナリトスルモ其全治ニ至ルベキヲ懇切
ニ説明スルコト(二)ニハ「ワ」氏反應ヲ利用シ立證的ニ其微毒ナラザルヲ確

恐微毒病及恐水銀病療法

「ワ」氏反應ノ立證
ハ著シキ効力アリ

證安心セシムルコト、多クノ場合患者ハ微毒ニ立證的判定法ナキ爲メ醫
ノ言ヲ信ゼザルコト多クレバ「ワ」氏法ハ誠ニ此ハ如キ際ニ利用セラレ比
較的意外ノ良成績ヲ與フモノナリ著者ハ曾テ稍々重症ナルモノニ「ワ」氏
法ヲ利用シ極メテ良果ヲ得タルコトアリ昨年伯林ノミューザム氏モ實際
微毒性ナラザル本病患者ニ此法ヲ行ヒ其陰性反應ヲ對照試驗ニ照ラシ
テ説明シ大ニ患者ヲ慰安スルヲ得テ良果ヲ得タリト報ゼリ尙ホ氏ハ恐
微毒病ハ時ニ已ニ微毒ニ罹リ居ルモノニモ發スルコトアルヲ以テ此ノ
如キ患者ニハ陽性反應アル間水銀療法ヲ加ヘ其陰性反應來ルヲ待テ水
銀治療ノヨク微毒ヲ全治セシムルコトヲ懇ロニ説明シ患者ノ慰安ニ勉
ムベシト云ヘリ要スルニ此ハ如クシテ患者ニ先ヅ一時的精神的ハ慰安
ヲ與ヘ其苦悶ヲ忘レシムルト共ニ一面藥物的精神的、理學的、神經衰弱療
法ノ精ヲ擧ゲテ出來得ル丈ケ充分ニ治療ヲ加フルトキハ其効甚ダ顯著
ナルヲ常トス

恐水銀病

恐水銀病 (Merksiphobie) ハ水銀ヲ用ヒントシ又之ヲ用フルニ由リテ發ス
ル疾病ニシテ恐微毒病ヨリ甚タ稀ナルガ如シ其症狀ハ水銀中毒症狀ト

全然其趣ヲ異ニシ全ク一種特有ノ神經的症狀ヲ呈シ皮膚粘膜ニ特別ナ
ル著シキ變化ナキニモ於テ「ロイマチス」様ノ神經痛ヲ骨及關節ニ感ゼ
シメ進ムニ從テハ精神的症狀ヲ發シ不安譫妄等ノ重症徵候ヲ來スニ至
ル本病モ遠因神經衰弱ニアレバ先ヅ之レヲ治スルヲ第一トス然レモ本
病患者ニシテ若シ微毒ヲ現在スルアレバ水銀劑以外ノ驅微藥ヲ用ヒ勉
メテ全時ニ神經衰弱ニ効アル者ヲ撰ブヲ可トス沃度、亞砒酸等ハ此目的
ニ適ヘリ宜シク惡性微毒ノ條ヲ參考シテ適當ノ治療藥ヲ撰ミ之レニ臭
素劑、コデイン等ヲ加味シテ用ユベキナリ本病ハ既ニ一種ノ神經病ナリ
假令實際水銀劑ヲ含マザル藥物ト雖其含マザルコトヲ患者ニ立證セザ
ル片ニ於テハ時ニ尙ホ恐水銀病ノ症狀ヲ呈スルコトナキニアラズ又之
レニ反シテ水銀劑ヲ含メル藥物ト雖醫ノ説明手段宜シキヲ得バ時ニ症
狀ヲ發セズシテ不知不識ノ間ニ用ヒシメ得ルヲ稀ナラズ之レ等ノ點ハ
醫ノ大ニ顧慮セザルベカラザル處ニシテ又其成否ハ全ク醫ノ手腕ニ待
タザルベカラズ蓋シ何レノ場合ニ於テモ滋養、溫水浴、礦泉、溫泉、氣候、轉地
療法等ヲ併セ行フヲ必要トス

腦微毒

腦微毒ノ療法 Behandlung der Gehirnsyphilis

腦微毒ハ腦膜及腦實質ニ單純性炎 (Einfache Entzündung) トシテ原發的又ハ續發的ノ慢性炎ヲ發スルコトアリ又血管ヲ侵シ屢々微毒性閉鎖性動脈內膜炎 (Endarteritis obliterans syphilitica) ヲ起シ血栓 (Thrombose) 栓塞 (Embolie) ヲ結果シ時トシテ粟粒性動脈瘤 (Miliare aneurysma) 腦出血 (Hirnblutung) ヲ來スコトアリ其他好ンデ硬腦膜蜘蛛膜下腔視神經交叉部及ビ其他ノ腦底部ニ護膜腫ヲ生ジ屢々精神障礙癲癇卒中様發作麻痺狂樣症狀ヲ呈シ重症トナレル者ハ昏睡ニ陥リ死スヲ尠ナカラズ就中最モ著シキハ卒中様發作 (Apoplektiforme Anfälle) 眼筋痙攣 (Augenmuskellähmung) ニシテ若シ四十歳以下ニシテ之等症狀ノ來ルアラバ第一ニ微毒ノ既往ヲ調査シ其既往症アル場合ニハ決シテ猶豫スルコトナク直チニ強力ナル驅微療法ヲ施サザルベカラズ

卒中様發作ハ常ニ必ズシモ血管ノ破裂ニヨリ來ルモノニアラズ反テ屢々「エンボリー」ニ起因スルコト多キヲ以テ比較的續發的症候ヲ殘スコト

卒中様發作

眼筋痙攣

塗擦療法ヲ最モ可トス

注射療法ハ常用セラレズ止ムナクシテ界外注射ヲ撰ブ

少クシテ治ニ向フアリ患者卒倒セル場合ニ於テ意識障害セラレル片ハ先ヅ千瓦ノ水ニ一食匙ノ酢ヲ混シ之ヲ直腸ニ注入シ充分ナル排便ヲ行ハシメ頭部ニ氷嚢氷枕ヲ用ヒシメ以テ嚴重ナル氷嚢法ヲ加ヘ即時強力水銀療法ヲ施スベシ又彼ノ脊髄勞ノ初期或ハ頭蓋底骨膜炎ノ結果トシテ發現シ來ル眼筋痙攣ノ場合ニ於テモ前旨ニ從ヒ患者ノ安靜就床ハ云フ迄モナク精神ノ激昂 (Erregung) 努力 (Anstrengung) ヲ減セシメ日々ノ便通ニ注意シアルコホル性飲料ヲ嚴禁シ出來得ルダケ強力ニシテ且ツ大量ノ水銀劑ヲ與フルニ勉メザルベカラズ

水銀劑ハ應用トシテハ灰白軟膏ノ塗擦療法ヲ最モ良トス普通一日五〇ヲ用ユルモフルニエ氏ノ言ヘルガ如ク凡テ腦微毒ノ際ハ危機一髮ニ迫レル場合ナルヲ以テ些少ノ齒齦炎 (Gingivitis) 流涎 (Salivation) ノ如キニ介意スルナク嚴重ニ大量ノ水銀療法ヲ持續シテ可ナリ若シ腦症狀甚ダ險惡ナルトキニ於テハ假令水銀中毒症狀ヲ發スト雖之ニ顧慮スルナク強力ノ治療ヲ持續スルヲ可トスル場合多シ注射療法ハ多クノ場合麻痺アリ且ツ組織ノ生活機能衰退セル場合ナルヲ以テ其吸收甚ダ不良ニシテ且

腦微毒ノ療法

沃度劑ハ水銀劑ト共ニ大量ニ併用スベシ

浴療川

糞尿中ノ水銀検査ヲ怠ルベカラズ

脊髄勞及進行性麻痺

ツ注射ニ因スル疼痛ノ爲患者ニ努力充奮ヲ與ユベケレバ賞用セラレズ若シ萬一塗擦療法ヲ行フ能ハザル場合ニ於テハ溶解性水銀劑殊ニ昇汞ヲ撰ビ之ヲ麻痺セザル部位ニ注射スベシ

沃。度。劑。ハ。水。銀。劑。ト。共。ニ。大。量。ニ。併。用。ス。ベ。シ。初。メ。ヨ。リ。一。〇。乃。至。一。五。ヲ。用。ヒ。テ。可。ナ。ル。ベ。ク。患。者。若。シ。内。服。シ。能。ハ。ザ。ル。ト。キ。ハ。直。腸。ニ。注。入。ス。ル。ヲ。良。ト。ス。浴。療。法。ハ。患。者。少。シ。ク。恢。復。期。ニ。向。ヒ。タ。ル。時。賞。用。セ。ラ。レ。桶。浴。(Wannenbad)トシテ行ヒ又殊ニ硫黃浴ヲ撰用ス何レノ場合ニ於テモ溫度ハR氏二十六度以上ニ上昇セシムベカラズ之レ高温ハ中樞神經系統ニ惡影響ヲ與フルヲ以テナリ

治療中ハ每週一回必ズ尿及糞便ヲ試験シ水銀劑ノ有効ニ吸收セラレツツアリヤ否ヤヲ驗シ若シ塗擦療法ヲ行ヘル場合ニ其吸收ノ認めラルルナキカ又ハ其吸收甚ダ不完全ナル場合ニ於テハ注射療法又ハ其他ノ方法ニ變換スベシ

ツアイスル氏ハ脊髄勞(Tubos)進行性麻痺狂(Progressive Paralyse)ノ場合ニ於テ稀ナラズニ水銀劑ノ惡結果ヲ與フルヲ實驗セルヲ以テ寧ロ沃度劑

後療法

脊髄及末梢神經療法

ヲ賞用スベシト云ヘリ然ル水銀劑ノ効果ヲ無視スルハ誤レリ

治療後ノ驅微療法ハ普通ノ場合ノ如ク一定ノ主旨ニ從テ繼續セララルベク殊ニ本病ノ後療法トシテ沃度劑ヲ永續スルコトハ最モ必要缺クベカラザルコトナリトス

脊髄及末梢神經ノ療法モ亦前述ノ主旨ニ從テ治療スベク當ダ驅微毒ノ如ク危險少キヲ以テ必ズシモ水銀ノ中毒ヲ顧慮セズシテ猛烈ニ行フノ必要ナキト且ツ治療ノ進行ニ連レ電氣療法溫泉療法等ヲ行ヒ得ル場合多キトノ差異アルノミ

各論

各論
第一章、全身療法
第二章、局所療法

各論ヲ分チテ全身療法 (Allgemeine Behandlung) 局所療法 (Ortliche Behandlung) ノ二トス

第一章 全身療法 Allgemeine Behandlung

全身療法
甲、方法
乙、藥物

全身療法ヲ如何ニ行フベキカ又如何ナル藥物ヲ撰用スベキカノ二點ヨリ方法 (Methodik) 藥物 (Medikamente) ノ二項ニ分チ論ズ

甲、方法 Methodik

第一、初期硬結期 Primärperiode

方法ヲ分チテ
第一、初期硬結期
第二、第二期
第三、第三期

未ダ猿ニ於ケル移植試験ノ成効(一九〇三年)並ニス、バルリーダ¹⁾ノ發見(一九〇五年)ナカリシ以前ニ於テハ初期硬結ノ診斷甚ダ困難ニシテ只ダ腺ノ特有ナル腫脹及ビ第二期症狀ノ發現ヲ待テ初メテ確定シ得タルノミナリシガ今ヤブルリー²⁾氏墨汁法並ニ改良ギームザ³⁾法ノ發見ニヨリ其診

斷一層容易ニ行ハル、ニ至リ即時治療室内ニ於テ其本性ヲ診定シ得ルニ至リタルヲ以テ吾人ハ今日最早只單ニ疑ハシキ糜爛(Verdächtige Erosion)トシテ彼ノジグムンド氏等ノ行ヘル如キ理由即チ若シ初期硬結タラズトモ燒灼法ハ害ヲ與フルモノニアラズト云ヘルガ如キ漠然タル意義ノ下ニ治療スルノ要ナキニ至リ初メヨリ適確ナル診定ノ下ニ其本性ニ適合スル治療ヲ撰ビ行ヒ得ベキニ至レリサレド實際ハ理論ヨリ困難ニ假令診斷漸ク定マルト雖亦其治療ニ至リテ吾人ハ一大困難ヲ感ゼズンバアラズ蓋シ全身症狀ノ來ル必然傳染時ヨリ平均六七週ナル場合ニ袖手其來ルヲ傍觀スルハ吾人ノ忍ビザル處ニシテ茲ニ何等カノ手段ヲ施シ其來ルベキ疾病ノ侵入竈ヲ破壊シ其病原體及病毒ヲ出來得ルダケ寡少無力ナラシメ以テ全身症狀ヲ輕減セシメント勉ムルハ常識ヲ以テシテ容易ニ其然ルベキヲ是認シ得ベキ處ニシテ此目的ヲ以テ起レルモノヲ頓挫療法(Abortive Behandlung)ト名ク初期硬結ニ頓挫療法トシテ燒灼法(Kauterisation)ヲ應用セルハ恐ラクジグムンド氏ヲ以テ始メトス氏ハ此法ヲ以テ組織ト共ニ病原體併ニ病毒ヲ腐蝕破毀シ以テ局部治癒機轉ニ好

頓挫療法、燒灼法

烙鐵

ホーランド氏ノ熱氣燒灼裝置

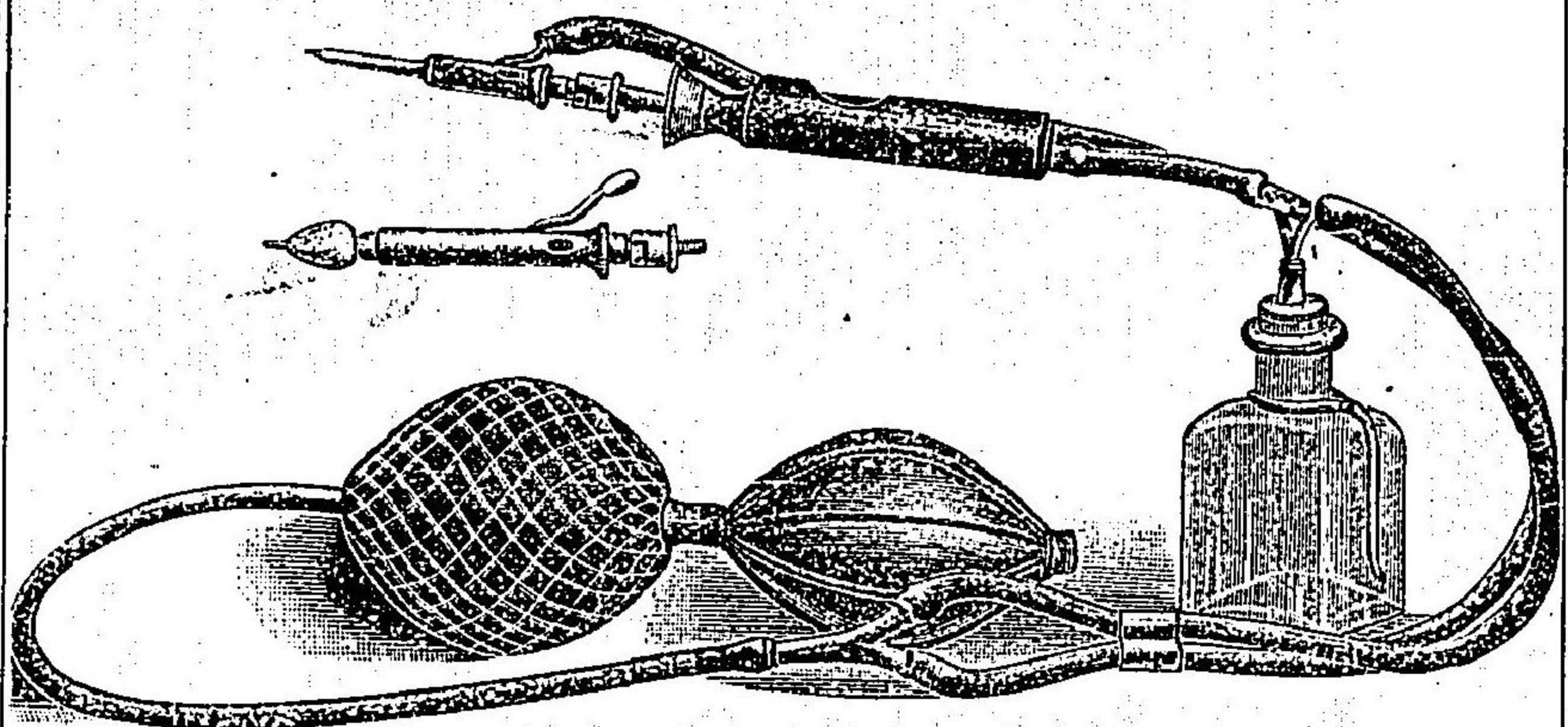
腐蝕藥

硝酸銀

礦酸、腐蝕加里

第七圖

ホーランド氏ノ熱氣燒灼裝置



影響ヲ與ヘ全身症狀ヲ輕カラシメントセリ烙鐵(Glühseisen)ハ殊ニ深部組織ニ及ブモノトシテ愛用セラレ又近時ホーランド氏ノ熱氣燒灼裝置(Heissluft-Brennapparat)最モ賞用セラル(上圖ヲ見ヨ)蓋シ之等ヲ以テシテ尙ホ未ダ全ク全身症狀ヲ防ギ能ハザルハ吾人ノ誠ニ遺憾トスル所ニシテ其他腐蝕藥(Caustika)用ヒラレ就中硝酸銀ノ如キハ一時最モ賞用セラレタルモノナリト雖其作用皮膚ノ表層ニノミ限ラル、ヲ以テ今ヤ殆ンド聲價ヲ失スルニ至レリ近時主トシテ用ヒラル、ル者ハ礦酸、腐蝕加里等ノ如キ皮膚ノ深層ニ

切除法ヲ以テシテ
更ニ全身症狀ノ發
現ヲ防止シ能ハザ
ルハ勿論ナリ

來ルベキ第二期ノ治療上ニ更ニ何等ノ害ヲ及ボサシメザル長所ヲ有シ
又水銀ノ早期應用ハ多クハ場合來ルベキ第二期以後ノ經過ヲ不良ナラ
シムルニ反シ切除法ニ於テハ更ニ此ノ如キ不利益ヲ認ムルナキ以上ハ
二點ヨリ考ヘ切除法ハ之レヲ行フテ治療上ニ且ツ又來ルベキ經過上ニ
何等ノ害ヲ與フル者ト考フベカラザレバツァイスル氏ノ云ヘルガ如ク
切除シテ局部ニ機能上ノ害ヲ與フルナク且ツ容易ニ第一期癒合ヲ以テ
治セシメ得ベキ限リ之レヲ行フテ決シテ利スルトモ害ナキモト言ハ
ザルベカラズ然レドモ切除法ヲ以テシテ全身症狀ノ發現ヲ防止スルコ
トノ不可能ナルハベルケレー、ヒル兩氏ノ廿四時間後ニ於ケル切除試験
及ビハーバス氏ノ十二時間、ホイス氏ノ十時間、ナイセル氏ノ八時間ライ
ス氏ノ五時間後ニ於ケル人體並ニ動物試験ノ陰性成績ニ鑑ミ明ニシテ
又實際臨牀上初期硬結タルヲ知ルハ尠クトモ二週間以上ヲ經過シタル
後ナルベキヲ以テ之ヲ感染後十四日以内ニ行フコトノ困難ナルハ推シ
テ知ルベキナリ殊ニ近時或ル一派ノ學者等ハ初期硬結切除ハ反テ「ス、パ
リ」ダノ血流媒介ニ因スル轉移ヲ早カラシムル者ナリトノ見解ヲ有シ

ザック氏ノ説

殊ニレナ氏ノ如キハ初期硬結切除後二三日ニシテ反テ舌面ニ「ス、パ
リ」ダヲ證明シ得タル發疹ヲ見タルコトアリト報ゼルヨリ考フレバ若シ此
ノ如キ事實ニシテ愈々多數ノ場合ニ確實ニ證明セラル、モノトセバ單
ニ局部療法ノ目的ヲ以テ切除法ヲ行フコトモ又一面ヨリ排斥反對セラ
レザルヲ得ズ之レニ對シザック氏ハホーランデル氏ノ燒灼器ヲ用ヒテ
切除スルルハ此ノ如キ「ス、パリ」ダノ轉移ヲ起サシムルコトナク其害ヲ
防ギ得ベシト云ヘルモ燒灼的切除法ヲ行フトキハ第一期癒合ヲ行ハシ
ムル能ハズシテ癩痕形成ヲ來サシメ局部ニ機能上ノ障害ヲ與フルヲ如
何ニセン
全身療法 (Allgemein Behandlung) = 早期療法 (Präventivallgemeinbehandlung) ト
待期療法 (Expectativallgemeinbehandlung) トノ二アリ而シテ普通ノ場合ニ
待期療法ヲ是トシ唯時トシテ例ヘバ悪性微毒包莖、鉸頓包莖及ビ侵蝕性
若クハ突出性ノ發育 (Orbitale Entwicklung) ヲナセル者又顔面其他ニ畸形
的癩痕ヲ殘ス恐レアル場合ニ特ニ早期療法ヲ必要トスルハ先キニ總論
治療開始ノ項ニ述ベタルガ如キヲ以テ今茲ニ論セス初期硬結期ニ於ケ

沃度劑ハ第一期ニ
川ヒテ害ナキノミ
カ反テ二三ノ場合
ニハ之レガ應用ナ
必要トス

ル全身の治療法トシテ特ニ注意ヲ加ヘント欲スルハ沃度劑ノ使用法ナ
リ。沃度ハ水銀劑ノ如ク微毒ノ治療上直接ニ作用スルモノニアラズシテ
フーングル氏ノ所謂間接 (Indirekt) ニ作用スル藥物ニ屬シ驅微藥トシ
テハ唯ダ單ニ水銀ノ力ヲ補フニ外ナラザレバ假令之ヲ早期ヨリ使用ス
ト雖本來ノ待期療法上ニ至大ノ關係ヲ與フルモノニアラズシテ却テ彼
ハ腺病性結核性素質ノ患者ニ向テハ強壯療法トシテ多クハ場合沃度鐵
(Jod Eisen) 沃度肝油 (Jodlebertran) トシテ用ヒラレ効顯ヲ與フルコト著ク又彼
ハ發疹期ニ臨ミテ隨伴症 (Begleitssymptom) トシテ來ル神經關節痛睡眠
不能熱發ロイマチス様疼痛等ノ諸徵候ニ對シテ就中殊ニ沃度加里ノ如キ
ハ極メテ顯著ナル偉効ヲ奏スルモノナルヲ以テ必要ニ際シテハ初メヨ
リ沃度劑ヲ使用シテ却テ害少ク利多キモノナルコトヲ思ハザルベカラ
ズ、

強壯療法

強壯療法 (Roborierende Behandlung) ハ初期硬結期ニ於ケル治療トシテ
最モ必要ナルモノナリ之レ微毒ノ經過ハ患者ノ身體強壯ナレバ強壯ナ
ルダケ善良ナルモノニシテ從テ其症狀モ亦輕易ナルヲ常トスレバナリ

電氣光線療法

微毒性横痃ノ別出

宜シク第二期症狀ノ來ル間ニ勉メテ滋養強壯ヲ加ヘ其抗抵 (Resistenz)
ヲ強カラシメ即チアレキシシ (Alexin) 若クハミクロフアーゲン (Mikropha-
gen) ノ發生ヲ豊富ナラシメ以テ來ルベキ發疹期ハ一大戰闘ニ備ヘ且ツ
「スバル」リ「ダ」ラシテ其「リジン」 (Lysin) ヲ充分ニ働カセ得ザラシメザルベ
カラズ即チ吾人ハ此ノ如クシテ來ルベキ全身症狀ヲ比較的輕易ニ經過
セシメ得ベキナリ

電氣光線療法 (Elektro u. Lichttherapie) モ亦初期硬結ニ用ヒラレ出來得ベク
ンバ其全身症狀ヲ防止スル處アラント試ミラレタレモ局處的ニ効果ア
ル外其効力更ラニ全身のニ及ブナシ

多發性無痛性鼠蹊腺 (Die multiple indolente Laisendrüsen) ハ屢々全身療法ノ
目的ヲ以テ別出セラレタリト雖其効更ニ全身症狀ニ及ブナキヨリ只ダ
患者ニ手術的苦痛ヲ與フル外利ナキモノト認メラレ今ヤ殆ンド願ミラ
レザルニ至レリ

第二 第貳期 Secundärperiode

第二期

第二期ノ初メ即チ微毒ノ全身症狀ヲ發現スル時期ハ正ニ全身療法ヲ開始スルニ最モ適當ナル時期ニシテ又最モ優秀ナル成績ヲ與フル場合ナルコトハ既ニ總論治療開始ノ項ニ於テ早期 (Präventiv) 待期 (Expectativ) 兩說ノ精ヲ比較研究シテ述ベタルガ如シ又此第二期ニ於テ如何ニ治療ヲ持續スベキカモ既ニ治療持續ノ項ニ於テ詳論セラレタリ之レヲ以テ殘ル處ハ如何ナル藥物ヲ如何ニ用フベキカニアレドモ其局處の治療例ヘバ乳狀斑 (Plaque opaline) 手掌鱗屑疹 (Psoriasis palmalis) 等ニ因スル處置ニ就テハ特ニ局處療法ノ項ニ述ブベケレバ今茲ニハ主トシテ第二期ニ於ケル全身の治療藥ノ撰擇ト其應用法ニ就テ述ブル處アルベシ

第二期ノ治療ハ之レヲ第三期ニ比シ又其第一回ノ治療ハ第二回ヨリモ強力ナルヲ要スルハ既ニ總論ニ述ベタルガ如クシテナイセル氏ハ之ヲ主療法 (Hauptkur) ト名ヅケフインゲル氏ハ強力療法 (Energische Kur) ト呼ベリ水銀劑ハ尙ホ今日ト雖其強力ナル點ニ於テ遙カニ他ノ驅微藥ニ優レルヲ以テ惡性微毒 (Lues maligna) ノ如キ例外ノ場合ハ兎ニ角普通微毒ニ對シテハ最モ強力ニ、且ツ最モ有効確實ナル藥劑ト認定セラル而シテ

水銀劑ハ尙今日ト雖第一位ヲ占ム

塗擦療法及筋間注射療法最モ強力的療法ニ適ス

之レガ應用ニハ塗擦法 (Friktionskur) 筋間注射法 (Intramuskuläre Injection) 最モ其目的ニ適フモノトシテ推奨セラレ内服其他ノ外部適用法 (Externe Applikation) 例ヘバウランデル氏ノ懸藥法 (Welanders Sackchenkur) 灰白粉 (Pulvis Cinereus) ンラシニコー氏ノメルコリントシヤルン (Blaschko's Merkolint-schurz) シローマイエル氏ノメルカラトール (Kromeyer's merkalator) 等ノ如キハ皆其作用弱キヲ以テ唯ダ強力療法ニ對スル所謂フインゲル氏ノ弱力療法 (Mildere Kur) ナイセル氏ノ副療法 (Zubehörling) トシテ用ヒラルルノミニシテ換言スレバ強力的ニ注入セラレタル水銀作用ノ持續ヲ保チ之レガ補充ニ任ズル迄ノ職ヲ有スルモノトセザルベカラズ蓋シ惡性微毒ハ場合ニ水銀劑ヲ用ヒ能ハザルハ既ニ屢々前ニ論ジタルガ如クニシテ此ノ如キ患者ニ對シテハ宜シク一般攝生法ニ從ヒ先ヅ滋養食強壯劑亞砒酸劑チットマン氏煎沃度肝油沃度鐵等ヲ與ヘ其惡液質狀態及貧血ヲ恢復セシメ其營養狀態ヲ可良ナラシメ然ル後始メテ弱水銀療法ヲ行フベキナリ出來得ベクンバ強力療法然ル先キニ著者ガ惡性微毒療法ノ項ニ述ベタルガ如ク水銀ハ個人ノ特異的關係ニヨリ假令甲ハ水銀劑ニ耐ヘ得ザ

惡性微毒ノ場合

沃度ハ水銀ノ附加
薬ナリ

沃度加里ハ今日ト
雖尙内服薬トシテ
其第一位ヲ失ハズ
唯ダ注射薬トシテ
「ヨヂピン」ニ劣ル
ノミ

ル場合ニ於テモ、乙ノ水銀劑ニ耐ヘ得ルコトナキニ非ズシテ、又人ニヨリ、
テハ假令悪液性ノモノト雖比較的水銀劑ノ應用ニ良結果ヲ顯ス、ナキ
ニアラザレバ、宜シク細心注意シテ其適用ニ勉ムベキナリ。
沃度ハ第二期ニ於テモ水銀劑ノ附加薬トシテ賞用セラレ、現今用ヒラル
、藥品トシテハ沃度「カリウム」(Jodkalium) 沃度「ナトリウム」(Jodnatrium)
「ヨドール」(Jodol) 「サヨヂン」(Sajodin) 「ヨヂピン」(Jodipin) 「ヨチラン」(Jochion) 沃度
「グリヂン」(Jodgadin) 等、其種類甚ダ多ク其優劣撰擇適應等、今茲ニ一々詳述
スル能ハズト雖要スルニ沃度加里ハ尙今日ト雖内服薬トシテ其第一位ヲ
失ハザル者ニシテ注射薬トシテ唯ダ「ヨヂピン」ニ劣ルアルハ、茲ニ附記
シテ注意ヲ加フルヲ要スルハ、微毒ハ第二期ニ入ルニ及ビ特ニ各組織ノ
抵抗ヲ減弱セシムル結果往々微毒本來ノ局處的疾病ノ外間擦疹 (Inter-
tigo) 濕疹 (Eczem) 足蹠多汗症 (Hyperidium Pedium) 頭部皮脂漏 (Seborrhoea Capitis)
等ヲ起サシムルコト多キコト之ナリ治者ハ宜シク全身療法ヲ行フニ際
シ之等ノ傾向ヲ察知顧慮シテ治療ニ遺憾ナカラシムルヲ要ス
「アトキシール」(Atoxyl) 及ビ其他ノ亞砒酸劑ハ第二期ノ末期ニ見ル再發

第三期
水銀劑

護腫腫中ニ「ス、バ
ハ第三期ノ發見
本第三期療法ニ根
ルニ至レリ

疹ニ特ニ良効ヲ奏ス然レノ場合ニ於テモ之レ等ノ藥物ノミヲ以テ
シテ完全ナル効顯ヲ得ントスルハ誤リニテ水銀劑ノ後ニ用ヒ又ハ間擦
法 (Zwischenkur) トシテ用ユルニヨリ初メテ著効ヲ顯ハスモノナルコトヲ
忘ルベカラズ殊ニ往々烈シキ腸刺戟、腎障害、視力障害ヲ伴ヘル眼底ノ病
理的變化ヲ來ス、アルヲ以テ常ニ之ガ注意ヲ怠ルナカラシムルヲ要ス

第三 第三期 Tertiärperiode

第三期ノ治療ニ於テモ水銀ハ總テノ場合其再發ヲ除キ且ツ之レヲ防グ
上ニ於テ必要缺グベカラザル藥物トセラル近キ既往ニ至ルマデ沃度ハ
第三期症ニ對シ獨特ノ効ヲ與フルモノナリトセラレ甚ダシキハ第三期
症トシ云ヘバ必ず先ツ沃度劑ヲ試ムベシト規定セラレタル程ナリシモ
護腫腫 (Gumma) 中ニ「ス、バ、ハ、ハ」發見セララル、ニ及ビ先ツ水銀劑ヲ以テシ
テ然ル後沃度劑ヲ用フルノ有理ナルト共ニ亦ヨク著効ヲ與フルモノナ
ルコトヲ知ルニ至レリ

今ヤフインゲル氏モ第三期症ニ水銀劑ノ必要ヲ認メリト雖初メ氏

ヤダーソン、ナイセル、土肥氏等ノ先見

ハ彼ノ英ノハッチンソン氏ト説フ同フシ第二期症ハ假定微毒菌ニ因リ起ルト雖第三期症ハ唯其毒素ノ爲ニ來ル者ナリト云ヒ水銀ハ第二期ノ藥物タルベク沃度ハ第三期ノ特效藥タルベシト提論シ第三期ニ於ケル水銀療法ノ必要ヲ認メザリシニ反シ當時ヤダーソン氏等ハ既ニ早ク第三期症ノ假定微毒菌ニ因スベキヲ推想シ唯其數ノ比較的寡キト其局處ニ働ク力ノ弱キ結果恰モ彼ノ結核菌ガ皮膚ニ來リ狼瘡ヲ形成スルガ如ク局部ニ護膜腫ヲ發スル者ナラント反對シナイセル氏モ亦タ其菌ガ少數ナルト共ニ生活力弱ク所謂變性シタル細菌ナルヨリ護膜腫ヲ發スル者ナラント認メ共ニ第三期ニ於ケル假定菌ノ存在ヲ推想シ第三期ト雖其菌ノ存在スル以上水銀劑ノ治療ヲ行ハザルベカラズト主張シ我が國ニ於テモスバルリーダ問題ノ起ル前三年早ク土肥氏ニヨリ病理上臨床第三期ト雖水銀劑ヲ必要トスト主張セラレタルガ當時尙ホ未ダ病源體ノ發見ナク其病理不明ナリシ爲メ吾人ハ只ダ理論上實驗上ヤダーソン、ナイセル、土肥氏等ノ説ニ替シ得タルノミニテ未ダ推理的ノ範圍ヲ脱スル能

護膜腫中ニ於ケル「スバルリーダ」ノ發見

ハザリシガスビッチェル、リッテル、ロイテル、グリーベン氏等ノ「スバルリーダ」ヲ明カニ護膜腫中ニ發見スルニ及ビ茲ニ初メテ具體的證明的ニ第三期症ト雖水銀療法ヲ必要トスル所以ヲ確認シ得ルニ至レリ殊ニ近時ニ至リ第三期症タル護膜腫ヲ唯單ニ毒素ノ刺戟ニ因リ起レルモノナリト認メシフイנגル氏ヲシテ移植試驗上其傳染性ヲ確メ得セシメタルガ如キハ誠ニ面白キ對照ナラズヤナイセル、ホフマン、ランドスタイテル氏等ノ諸大家モ今ヤ皆其傳染性ヲ認メテ疑フナクフイנגル氏モ亦氏ノ一九〇八年ノ著ナル花柳病學ニジクムンド氏ノ「水銀ハ微毒ハ直接藥ニシテ沃度ハ間接藥ナリ」テフ説ヲ是認シ而シテ水銀ハ「スバルリーダ」ヲ殺シ又之ヲ無害ニナス者ナリト揚言セリ之レヲ以テ考フルモ第三期症ニ水銀劑應用ノ必要缺グベカラザルヤ明ニシテ著者ハ昨年學丸、護膜腫(Orchitis summosa)患者ニシテ其既ニ外部ニ破壊セル者ニ試ニ局處療法ヲ加ヘズ唯單ニ防腐消毒ヲ施シ楊永注射療法ノミヲ加ヘ其成績ヲ檢スル所アリシニ其經過極メテ良好ニシテ其十回ノ注射ヲ以テシテ殆ンド常大ニ復

著者ノ例

沃度

溫泉療法

セシムルヲ得瘻孔亦瘻痕ヲ以テ治ニ就ケルヲ見タリ因ヨリ瘻丸ノ護謨腫ハ比較的第三期症中早期ニ來ル傾キアリ所謂第二期ニ於テモ來リ得ベキモノナレドモ右患者ハ初感後既ニ五年ヲ經過セルモノナレバ第三期ト見テ可ナルベク何レニシテモ著者ノ例ハ第三期症ノ産物タル護謨腫ヲ唯ダ水銀劑ノミヲ以テシテ治ニ就カシメタル實例ト見テ可ナルベキナリ

沃度ハ水銀ト併用セラレ又個々別々ニ用ヒラレ就中第三期ニ入り特ニ其症狀頑固ナルモノハ屢々好シテ數週數月ニ亘リ反復賞用セラレ殊ニ内臟微毒ニハ最も有力ナル治療藥トシテ賞用セラレ若シ腦微毒ノ徵アル場合ニハ特ニ前ニ述べタル腦微毒ノ項ニ從ヒ極メテ嚴密ナル水銀療法ヲ行フト共ニ大量ノ沃度劑ヲ投ズ

溫泉療法ハ第三期症ニ對シ最も必要ナルト共ニ又實ニ最も著効ヲ與フル好療法タルナリ沃度ヲ含ム礦泉(Jodhaltige Mineralquellen)ニ浴シ強力療法ヲ加フル片ハ恰カモ水銀療法後ニ沃度療法ヲ行フト同様ノ効ヲ與フルモノニシテ極メテ著効ヲ與フト雖之ニ反シ硫黃泉(Schwefelquellen)ニ浴シ

藥物ノ適用

ツ、塗擦療法ヲ施ス時ハ皮膚ニ不溶解性ノ硫化水銀ヲ形成シ其水銀ノ効力ヲ甚ダ弱キニ至ラシムル欠點アリ蓋シ硫黃泉ノ新陳代謝ヲ亢盛ナラシメ水銀ノ排除(Elimination des Quecksilbers)ヲ催進セシムルハ既ニ溫泉療法ノ項ニ述べタルガ如シ須ラク一定ノ水銀療法ヲ行ヒタル後テ後療法トシテ硫黃溫泉療法ヲ行ハシムベシ清潔ナル食鹽溫泉(Die reinen Kochsalzhaltigen Thermen)ハ身體ニ食鹽ヲ輸入スルニ因リ水銀ノ吸收ヲ善良ナラシムル者ナレバ強力療法ヲ行ヒタル場合ニ補助法(Hilfsmittel)トシテ行ハバ其効著シキモノアルベシ水浴法(Hydratische Behandlung)ハ之ヲ餘リニ早期ニ行フハ皮膚ヲ刺戟シテ反テ再發ヲ促スノ傾アルヲ以テ第三期症ノ治期ニ入レル者ニ一種ノ強壯法トシテ行フニ止ルヲ可トス

乙、藥物 Medicament

微毒ハ全身病ニシテ局所病ニアラズ然ラバ之ヲ治スルニ單ニ局所的ニ作用シ其症狀ヲ消散セシムル藥物ヲ以テノミニシテ之レガ根治ヲ遂ゲ能ハザルハ見易キノ理ニ宜シク其全身ニ働キ循環器(Zirkulationsorgan)

全身療法

水銀劑

ニ輸入セラレ以テ病毒 (Virus) ヲ排除 (Elimination) スルカ然ラズンバ之
 レヲ無害 (Unschädlich) ニスル作用アルモノヲ撰バザルベカラズ古來ヨリ
 此目的ニ用ヒラル、藥物ニシテ其最モ重キヲナスモノヲ水銀、沃度ノ二
 劑トス蓋シ水銀ト雖「ス、パルリーダ」ヲ化學的ニ直接ニ殺滅シ得ベシトハ信
 ゼラレズシテ全身症狀ヲ消滅セシメ且ツ其ノ毒素存在ノ表徴タル再發
 (Recidiv) ヲ全治セシメ此ノ如クシテ病毒ノ存在ヲ許サズ微毒ノ進行ヲ一
 程度ニ閉息セシムル者ト認メザルベカラズ沃度ニ至リテハ其作用遠ク
 水銀ニ及バズ再發ヲ全治スル力ナク又「ス、パルリーダ」ニ直接作用スル所ナ
 シジクムンド氏曰ク水銀ハ直接治療藥 (Direktes Helmitel) ニシテ沃度ハ間
 接治療藥 (Indirektes Helmitel) ナリト至言ト云ヒツベシ要スルニ沃度ノ作
 用ハ病毒ニ直接作用スルニアラズ先ツ患者ノ物質交換ヲ高メ營養ヲ
 良ナラシメ食慾ヲ進メ消化ヲヨリ可良ナラシメ其結果トシテ外貌健康
 状態ヲ可良ナラシムルニアレバ所謂一種ノ新陳代謝催進藥ト認ムベキ
 ニテ一般状態ヲ善良ナラシメ從テ身體ヲ強盛ナラシメ以テ體中ニ存在
 スル病毒ノ自然的排除ヲ強盛ニシ微毒的發現ヲ治癒ニ導クモノト認メ

沃度劑

ザルベカラズ

第一、水 銀 Quecksilber

水銀 (Quecksilber, Mercury 記號 Hg, 原子量 200.0) ハ天然ニハ主トシテ辰砂
 (Hg₂) 即チ硫化汞トシテ存在シ稀ニ遊離シテ存在ス其沸騰點ハ三六〇度
 ナレドモ既ニ常溫ニテ揮散スル性アリ此ノ揮散性ハ彼ノ塗擦療法ニ際
 シ水銀ガ微毒ニ著効ヲ與フル所以ニシテ水銀ハ又其不溶解ナル者ト雖
 組織液ニ透フキハ能ク之レニ溶解シテ水銀「イオーチン」 (Quecksilber-Ionen)
 ヲ生シ局所ニ對シテハ一種ノ化學的親和作用及「プロトプラスマ」並ニ
 么微體ニ對スル一種ノ毒的作用ヲ起シ組織ニ腐蝕、壞死ヲ起サシメ么微
 寄生體ヲ死滅セシメ全身ニ對シテハ蛋白質若クハ他ノ含窒素物トノ
 化合状態ヲナシテ循環器系ニ入り以テ身體ノ遠隔セル部ニ作用ス然レ
 且全身作用ハ場合ニ於テハ其力局所作用ハ如ク猛烈ナル能ハズシテ么
 微寄生體ヲ直接ニ殺滅スル力ナシ若シ強テ殺滅シ得ル程度ニ作用セシ
 ムルキハ組織細胞ハ原形質ハ同時ニ侵害セラレテ細胞ハ壞死破壊ヲ來

全身作用

局所作用

水銀「イオーチン」

黄、赤、降汞及灰
白軟膏ノ吸收良ナ
ル所以

注射用昇汞水ニ食
鹽ヲ加フル理由

ナ、ハ、ルヲ得ズ之レ水銀劑ヲ以テ、ハ直接體中、ハ、ス、バ、ル、リ、ハ、ダ、ラ、殺滅シ盡
シ能ハザル所以ナリ局所作用ヲ可成的避ケントスルニハ初メヨリ蛋白
様質若クハ含窒素物ト化合セル可溶性ノ形態ヲナセル藥物即チ酸化水
銀 (Quecksilberoxyd) トシテ用ユベシ之レ酸化水銀ハ蛋白様質ニ對シ特異
ノ親和性ヲ有シ其全ク不溶性ノモノト雖尙ホ能ク容易ニ吸收セラル
、ヲ以テナリ例ヘバ赤降汞 (Hydrargyrum oxydatum rubrum) 黄降汞 (Hydrargyrum
oxydatum flavum) ノ如キハ酸化水銀ナルヲ以テ其イオーチンハ局所ニ作用
スルコト少ナク從テ局所刺戟少ナクシテ而モ容易ニ吸收セラレテ遠達作
用ヲ與フル性アルガ如シ又灰白軟膏ハ吸收良ナルハ其新鮮ナル者ト雖
脂肪酸亞酸化汞ノ大量ヲ含有シテ其化合物溶解性ナルヲ以テナリ其他
注射藥トシテハ酸化水銀ノ含窒素有機化合物例ヘバ「アミド」「アミド」酸及
「ペプトン」トノ化合物費用セラレ又注射用昇汞 (Hydrargyrum bichloratum) ニ
食鹽ヲ混ズルハ一種ノ複化合物 (2 NaClHgCl₂ 2 NH₄ClHgCl₂) ヲ生ゼシメ水ニ溶
解シ易カラシメ且ツ蛋白ニ對シテ作用ヲ呈セザルニ至ラシムルタメナ
リ(尙ホ保存上久シキニ耐フル効アリ)

水銀ヲ微毒ニ系統
的ニ應用セルハ
アルメナール、カ
タ子チ氏等ニ初マ

水銀ハ醫療藥トシテ既ニ古キ印度醫學時代ノ頃ヨリ用ヒラレ殊ニ亞刺
比亞人ハ軟膏トシテ總テノ皮膚病ニ適用シアブールカセム (Aburkasem)
氏ノ如キハ屢々水銀ガ口腔病ヲ誘起スルヲ認メ其副作用ノ存在ヲモ知
レリ後チテヲドリッヒ氏 (Theodorich) ニ至リテ水銀軟膏ノ應用稍ヤ系統
的トナリシト雖未ダ主トシテ「レプラ」ニ用ヒラレタルニテ之ヲ微毒ニ應
用スベキハ彼ノ毫モ知ラザル所ナリシ其初メテ微毒ニ有効ナルヲ知リ
之レヲ系統的ニ應用シタルハ實ニアルメナール (Almenar) カタ子チ氏等
ニ始マル(二五〇二年)蓋シ微毒ノ流行ハ漸クアルメナール氏等ノ水銀ヲ
應用セル前七年即チ一四九五年頃彼ノ伊太利ノナーポリ市ニ流行セル
ヲ始メシ其以前果タシテ微毒ノ歐洲ニ存在シタリシヤ否ヤ甚ダ不明ニ
シテ之レヲ支那、日本ニ於ケル微毒史ニ徵スルモ其以前ニハ殆ンド其存
在ヲ確實ニ證スベキ者ナク之ヲ西洋ニシテハ一四九五年カール第八世ノ
軍隊ニ大流行ヲ來シタル記載之レヲ日本ニシテハ永正九年即チ一五一二
年唐瘡ト呼バレ又琉球瘡ト唱セラレテ西海ヨリ東帝國ニ侵入セシ記事
ヲ以テ汎ク世界ニ微毒ノ蔓延シタル證跡ノ初メトスルガ如キヲ以テ或

水銀劑ノ微毒ニ對スル作用

ハアルメナール以前ニハ微毒ノ存在スルナクシテ從テ之レニ向テ水銀劑ヲ應用スルノ機會全然ナカリシモノト考ヘ得ラレザルニアラズ若シ萬一然ラズトセバ微毒ヲ「レブラ」等ト混合同視シテ同一疾病ト認メタル結果特ニ微毒ニ應用セラレタル證據ヲ記載ニ殘サザリシ者トセザルヲ得ズ今ヤ茲ニ當時ヲ去ル凡ソ既ニ四百年其治療法ハ學術ノ進步殊ニ病理學ノ進步ニツレ格段ノ發達ヲ遂ゲタリト雖水銀劑ノ尙ホ且ツ驅微藥トシテ其第一位ヲ占ムルコトハ四百年前ト毫モ異ナルナシ

水銀ノ微毒ニ對スル作用ハ今日ト雖尙ホ不明タルヲ逃レズユスス氏ハ水銀ハ赤血球ノ抵抗ヲ増加シ其増生及ヘモグロビンノ量ヲ多カラシムルモノナリト云ヒシュレージンゲル氏ハ微毒ニ水銀ヲ用フルハ其血清ノ稠度ヲ恢復シテ再ビ「アルカリ」性トナラシメ且ツ「コロール」ノ含量ヲ舊ニ復セシムル者ナリト唱ヘ而シテユスス氏ハ組織中ニ於ケル蛋白質ニ於テ水銀ニ硫化水素ヲ通ジテ其水銀ノ組織中ニ於ケル状態ヲ調査シ進ンデ其作用ヲ解釋セント企テ又アルムクルスト氏モユスス氏法ニ改良ヲ加ヘテ硫化銀ノ視野ヲ妨害スルヲ避クル爲メ四%ノ硝酸ヲ加エテ之レヲ

ナイセル氏ノ
アンチリジン及
アンチトキシニン説
免疫學上ヨリ論セ

檢シボツヲ「ジーベルト」「フィシエル」志立氏等モ亦同ジク試験スル所アリタリ今日迄ニ知ラレタル所ニヨレバ水銀ノ存在ハ腎臟ヲ始メトシ血球等ニ至ル迄其分布状態 (Verteilungszustand) 畧ボ明白ナリト雖水銀ガ如何ニス、ハ「ハリーダ」ニ働キ又如何ニ其產出物ニ作用スル者ナリヤハ未ダ吾人ハ知盡シ能ハザル所ニシテ前記ユスス氏ハ少量ノ水銀ヲ持續シテ用フルハ赤血球ノ増加ヘモグロビンノ増生ヲ來シ從テ體重ヲ増加セシメ營養ヲ可良ナラシムル者ナラント云ヘルモ驅微ノ目的ニ向テ用ヒラル、水銀劑ノ分量ハ此ノ如キ少量ニ止ラズシテ往々貧血又ハ「カヘキシ」患者ノ耐ヘ能ハザルガ如キ多量ノ分量ヲ必要トスルモノナレバ寧ロ事實ノ上ニ於テハ害アリル營養ヲ催進スベシトハ考ヘラレズ又シュレージンゲル氏ノ血液調度説未ダ學者ノ賛同ヲ得ルニ至ラズ近時最モ勢力アル説ヲ

ナイセル氏ノ「アンチリジン」及「アンチトキシニン」説トス免疫學上ノ定則ニ從ヘバ人並ニ動物ハ外界ヨリ來ル病毒ニ對シ一種ノ抗抵 (Resistenz) ヲ有スルモノニシテ此抗抵ニハ例ヘバ胃ニ胃液アリ皮膚ニ上皮アルガ

外部抗抵

内部抗抵即チアレキシシ
ン

如キ外部抗抵(Ausschliche Resistenz)ト組織液及ビ血清中ニ存在シ以テ侵入セル病芽ニ對シ作用スル所ノ内部抗抵(Innerliche Resistenz)トノニアリ吾人ハ凡テ病芽ノ侵入ニ際シテハ先ヅ第一ニ外部抗抵ヲ以テ防ギ若シ能ハザル場合ニ於テハ之ヲ内部ノ抗抵ヲ以テ無作力(Machtlos)トナシ或ハ消亡(Vernichten)セシメテ身體ノ健康状態ヲ保持スルモノナリ其第二ハ抗抵力ヲ名ケテブレチネル氏ハアレキシシ(Alexin 防禦素ノ意味)ト云ヘリ即チアレキシシハ體液血清中ニアリテ常ニ殺菌作用ヲ備ヘ以テ外部ヨリ侵入シ來ル病芽ニ抗セントスル防禦上必要缺クベカラザル者ニシテ此者ハ種々ノ影響ニヨリ増減シ又個人ニヨリ其量ヲ異ニスルモノナレバ常ニ一定不變ノ量ヲ保ツ者ニアラズ營養ノ不良過度ノ勞働過度ノ精神感動、惡食糖尿、感冒、アルコール過飲、失血等ハ皆アレキシシノ減少ヲ來サシムルモノニテ滋養食、適度ノ運動等凡テ生活機能ヲ亢盛シテ營養ヲ可良ナラシムル者ハ皆其分量ヲ豊饒ナラシムル者ナリ茲ニ人アリ若シ「ス、バルリーダ」ノ侵襲ヲ蒙リ微毒ニ罹ルルハアレキシシハ「ス、バルリーダ」ヲ無作力ナラシメ進シテ之ヲ消滅ニ陥ラシメント防禦應戰甚ダ勉ム

クローゼ氏ノ「リ
ジシ」

藥理學上ヨリ論セ

「イオーテン」作用

ルモノニ「ス、バルリーダ」ハ又之レニ對スル應戰準備トシテ盛ニ「クローゼ氏」ノ所謂「リジシ」(Lysin)ヲ產生シ「アレキシシ」ヲ中和(Neutralisieren)セントスベシ之レヲ以テ「アレキシシ」ハ其豊富ナル後續ヲ得ルニアラザレバ又「ス、バルリーダ」ヲ無作力消滅ニ至ラシムルニ由ナキニ至ルモノニシテ此「アレキシシ」ノ後續ヲ完カラシメ其豊富ヲ保タンニハ身體ノ營養ヲ高ムルヲ最モ必要ニシテ吾人ハ之レニ由リ初メテ「アレキシシ」ヲ優勢ナラシメ以テ「ス、バルリーダ」ニ打勝チ得ルニ至ルモノナリトス營養佳良ナル者ニ微毒ノ經過輕ク之ニ反スル者ニ重ク又微毒ノ治療ニ營養問題ノ必要ナル所以ハ實ニ此理由ニ存ズ以上ハ免疫學上ノ推理論ナリ其藥理的ニ働ク所果タシテ如何水銀ハ局所ニ適用セラル、ヤ先ヅ其局所ニ於テ「イオーテン」(Ionen)ヲ生ジ其ノ一ハ局處ニ作用シ其ノ一ハ吸收セラレテ體中ニ輸送セララル即チ吸收セラレタル水銀「イオーテン」ハ循環器系ニ入りテ漸ク體中ニ達シ茲ニ始メテ驅微藥トシテ自己ノ任務ニ從事シ實驗ノ效ユルガ如キ効果ヲ顯ス者ニノ吾人ハ吸收セラレタル水銀ノ體中ニ於テ食鹽ト化合シ昇汞ヲ形成シ得ベキヲ知ルヲ以テ昇汞ノ力ヲ

若シ吸収セラレタ
ル水銀劑ガ直接ニ
「ス、ル」リ「ダ」
チ殺滅スルニヨリ
トモ他類ノ疾
病ニモ同様にシ
テ同作用ヲ及ボ
奏セサルベカラズ

化學的離解作用
電氣分析作用

以テ「ス、バル」リ「ダ」ヲ殺盡シ得ベキヲ考ヘ得ザルニアラズ然レモ組織中
及ビ「ス、バル」リ「ダ」中ニ發見セラル、水銀ノ交附量若クハ附着量ハ極メ
テ微々タルモノニシテ之ヲ以テノミノ水銀ガ直接ニ組織ニ働キ又「ス、バ
ル」リ「ダ」ニ働キ殺菌的ノ作用ヲ與ヘ得ベシトハ考フル能ハズ若シ假リ
ニ殺菌作用ヲ與ヘ得ベシトスルモ單ニ微毒ニ於テハミ特ニ水銀ノ著効
ヲ顯ハスハ理ナク其微毒タルト他ハ么微寄生體ニ起因スル他ノ傳染病
タルトヲ問ハズ均シク類似ノ効アルベキナルニ其最モ類似セル病形ヲ
有スル癩結核及ビ其病原ノ類似セル「ト」リ「バ」ノ「病」(Schlafkrankheit)等
ノ慢性傳染病ニ特效ナキヨリ考フレバ單ニ殺菌作用ニハミ起因ストハ
考エラレズシテ水銀ノ微毒ニ及ボス作用ハ水銀ノ直接的殺菌作用以外
直接ニ「ス、バル」リ「ダ」ノ「プロ」ト「プラ」スマ「ト」結合シテ起ル一種特別ノ作用ニ
起因スルカ若クハ化學的化合物ノ離解(Dissociation)ニ起因スルカ果タ電
氣分析作用(Ionenwirkung)ヲ起スニアルカ何レニシテモ其何レカヨリ生ズ
ル一種特別ノ產物ニ因セザルベカラズ若シ然ラズンバ之レニ反シテ罹
病セル患者自身ノ體中ニ於テ吸收サレタル水銀「イ」オ「ト」チ「ン」ノ作用ヲ其

「ナ」ゲルシユミツ
ド氏ノ説

「ア」ン「チ」リ「ジ」ン
ヲ以テ説明スルナ
最モ至當トセン

細胞ニ與ヘ其細胞ヨリ一種特別ノ產物ヲ生ジ間接ニ「ス、バル」リ「ダ」ニ作
用スル者ト認めザルヲ得ズ「ナ」ゲルシユミツド氏ハ水銀ガ細胞ナル微毒
病原體ノ「チ」ール「ボ」ー「デ」ン「ニ」繫留(Verankerung)シ以テ一時微毒ノ病原體ヲ
防止(Hemmung)スルニヨリ其効ヲ現ハス者ナリト云ヘルモ此場合ニ於テ
モ水銀ノ直接作用ニ因ルニアラズ水銀ト細胞トノ間ニ發生セル一種
特異ノ產物ニヨリ作用セラル、者ト考ヘザルベカラザレバ其所説ハ殆
ンド前説ト異ナルナキ者ト見テ可ナラン之レヲ要スルニ此ハ一種ノ特
別ナル產物ハ假令水銀ト「ス、バル」リ「ダ」トノ間ニ發生シ直接ニ「ス、バ
ル」リ「ダ」ニ作用スルトスルモ果タ細胞トノ體ニ發生ノ間接ニ「ス、バル」リ「
ダ」ニ作用スルトスルモ其歸スル所ノ作用ハ「ス、バル」リ「ダ」ハ生活要約ヲ
奪ヒ其虛ニ乗ジ「ア」レ「キ」シ「ン」ヲ「ス、バル」リ「ダ」ハ上ニ殺菌的作用ヲ逞フ
セシムルニ外ナラザレバ之ヲ説明スルニハ彼ノクル「ベ」氏ノ「リ」ヂ「ン」ニ
對スル「ナ」イ「セ」ル「氏」ノ「ア」ン「チ」リ「ジ」ン「説」ヲ以テスルヲ最モ至當トセン則チ
水銀ハ「ア」ン「チ」リ「ジ」ン「ト」シ「テ」ス「バ」ル「リ」
シメ己ムナク「ス、バル」リ「ダ」ヲ「ア」レ「キ」シ「ン」ノ爲メニ殺滅セシメラル、モ

白血球増加ト「アレキシシ」

バイフェル氏ノ「アンボチエプトール」説

喰細胞説

○ト推理シ得ベシ(水銀劑ヲ身體ヘ混入 (Einverleibung) シタル場合ニ白血球ノ増加スルハ近時ステルン氏始メ諸家ノ認ムルトコロナレバ水銀ハ一面ニ於テ「アレキシシ」ノ發生ヲモ多カラシムルモノト考ヘ得ベカラサルニアラズ又バイフェル氏ノ云エルガ如ク一種ノ「アンボチエプトール (Antibozepor)」トナリテ「アレキシシ」ノ作用ヲ補助スルモノトモ考ヘ得ベカラザルニアラズ又以テ參考ニ供スベキナリ之レヲ以テ考フレバ臨床上ニ見ル彼ノ所謂再發ナルモノハ「スバルリ」ニ對シ「アレキシシ」ノ力不十分ナリシカ又ハ「アンチリジン」ノ不足ナリシカニ起因セザルベカラズシテ則チ營養其他ノ關係上「アレキシシ」ノ發生少ナカリシカ又水銀ノ注入少ナカリシカ果タ其吸收不良ナリシガノ故ニヨリ「アンチリジン」ノ發生少ナカリシモノト認メザルヲ得ズ以上ハ主トシテ「ブフチル」氏ノ「アレキシシ」説クルーゼ氏ノ「リジン」説ヲ基トシ論ジタル者ナレドモ又多クノ實驗上水銀劑ヲ用ユル場合ニ白血球殊ニ多核白血球 (Polynucleäre Zeilen) ノ増加ヲ認メ又時ニ「エラジン」細胞 (Eosinophilic Leucocyten) ノ増生ヲ見ルヨリセバ之レヲ「メチニコフ」氏ノ喰細胞説 (Phagocytentheorie) ヲ以テ理解シ

「フイキザトール」説

「サブソニン」説

「アンチトキン」説

得ラレザルニ非ザルガ如シ即チ水銀ノ混入 (Einverleibung) ハ之等白血球ノ増加ト共ニ彼ノ所謂「メチニコフ」氏ノ「ミクロチターゼ」 (Mikrocytase) ヲ増多セシメ以テ「スバルリ」ガ「ヲヨリ」多ク喰盡シ得セシメ得ベケレバナリ其他混入セラレタル水銀劑ハ體中ニ於テ「フイキザトール」トナリテ水銀ノ「アンチリジン」トシテ作用スルカヲ補助シ以テ「スバルリ」ガ「ニ」作用スル者ナリ此説明シ得ベカラザルニアラズ(人類ニ水銀劑ヲ與フルハ白血球ノ増加スルハ既ニ歐西ニ於テ發表セラレタル多クノ業蹟ノ教ユル所ニシテ「デュツセル」ド「フノ」ステルン氏ノ如キハ二十五名ノ微毒患者ニ水銀療法ヲ行フト共ニ四日毎ニ一〇%ノ「ヌクレイン」酸〇・五ヲ與ヘタルニ白血球ノ増加著シク又治癒極メテ速カナリシト云ヘリ)其他「ラブソニン」論 (Opsonintheorie) ヲヨリ考フルトハ「水銀」ハ彼ノ白血球ノ増加ヲ起サシムルト共ニ一面「ライト」氏ノ「ラブソニン」トシテ亦白血球ヲシテ一層容易ニ喰盡 (Phagocytose) シ得セシムル者ト考ヘ得ベカラザルニアラズ以上何レハ方法ヲ以テ水銀ガ「スバルリ」ガ「ニ」働クモノトスルモ一面水銀ガ「アンチトキン」ノ作用ヲ有スルハ彼ノ關節痛頭痛其他ノ毒素症狀ヲ容易ニ

消散セシム得ルヲ以テ明白ナリトス
要スルニ水銀劑ノ作用ハ未ダ推理的ノ時代ニアリテ確實ナル立證的ノ時代ニ入ラザレドモ其微毒ニ有効ナルハ爭フベカラザル所ニシテ又實ニ吾人ハ用ヒテ實際常ニ良果ヲ收メツ、アルナリ以下水銀ノ治療法ニ就テ詳論セン

水銀療法ヲ分テ塗擦療法 (Einreibungs-kur) 昇汞浴療法 (Sublimatbadekur) 蒸烟法 (Raucherungskur) 注射法 (Injektionskur) 内服法 (Innerliche Darreichung)ノ五ニ大別ス

一、塗擦療法 Einreibungs-kur

塗擦療法 (Schniercur Inunctionscur 又 Friktionscur トモ云フ)ハ水銀ヲ含有セ
ル軟膏ヲ塗擦シ其水銀ヲ體內ヘ輸入セシムル方法ヲ云フ獨塊ノ藥局法
ニヨレバ灰白軟膏 (Ungentum cinereum 又 Ungentum hydrargyri cinereum)ハ一分
ノ水銀ト二分ノ脂肪(ラノリン及ビ單軟膏)ヨリ成リ嚴密ニ研磨精製セラ
レタル者ナラザルベカラズ即チ「ルーペ」下ニ於テ殆ンド水銀球 (Quecksilb

塗擦療法
獨塊ノ藥局法

日本藥局法

erkugelchen)ヲ認メ能ハサル程度ニ精製セラレタルモノナルコトヲ要ス
日本藥局法ニヨレバ

水銀軟膏ハ水銀三十分三〇〇(豚脂十八分一八〇)半脂四十二分(四二
〇)ヲ取り微温ヲ與ヘテ豚脂ト牛脂トヲ熔和シ冷後先ヅ其熔和物三
分ヲ取り少許ヅ、水銀ヲ加ヘテ研磨シ復タ肉眼ヲ以テ水銀球ヲ見
サルニ至リ熔和物ノ殘餘ヲ加ヘ最モ親密ニ研和シ製スベシ本品ハ
帶藍灰色ノ軟膏ニシテ肉眼ヲ以テ水銀球ヲ見ルベカラズ本品三瓦
ヲ取り「エーテル」ヲ以テ脂肪ヲ除去スルニ約一瓦ノ水銀ヲ殘留スベ
シ

近時費用セラル、モノヲ一分ノ水銀及二分ノ「レゾルビン」ヨリ成立スル
水銀「レゾルビン」 (Quecksilberesorbin) トス其他近來ニ至リ水銀「ゾーゲ
ン」軟膏 (Quecksilberwasogunsalbe) 水銀「ワセハール」 (Quecksilber Vasenol) 水銀「ク
リーム」 (Mercurcreme) 等用ヒラレ又水銀石鹼 (Quecksilberseifen) ナルモノ推奨
セラル

水銀「レゾルビン」

水銀「レゾルビン」 (Quecksilberesorbin) ハ甘扁桃油石鹼蠟膠質及ビ水分ヨリ

全身療法

成り賦形藥中ニ三・三・三分ハ一ノ水銀ヲ含メルモノト五・〇・〇ノ含有セルモノトノ二種類アリ又普通ノモノハ灰白色ヲ呈スレトモ其水銀劑ナルコトヲ秘センガ爲メ作ラレタルモノハ赤色ヲ呈セリ後者ハ硫化汞ヲ加ヘテ水銀特有ノ色ヲ隱セルモノニシテ共ニ惡臭ナク塗擦ニ向テハ寧ロ灰白軟膏ヨリ適度ノ稠度ヲ有セリ而シテレーデルマン氏ノ考案ニナレル度目附硝子管中ニ容レラレ販賣セラレ(時價凡ソ灰白ナルモノ二百五十瓦入一圓三十錢赤色ナルモノ一圓四十錢)用量ハ灰白軟膏ト異ナルナク三・〇乃至五・〇ヲ用フ發見者レーデルマン氏ハ共ニ同効ナルベシト云ヘルモ著者ノ實驗ニ因レバ灰白色ナルモノ可ナルガ如シ之レヲ灰白軟膏ニ比スルニ灰白軟膏ハ其研磨充分ナルモノト雖水銀ノ分布平等微細ナラズシテ之レヲ顯微鏡下ニ檢スルニ實際ニ於テ水銀球大小不正ニシテ平等ナラズト雖水銀レゾルビンハ平等ニシテ且ツ一齊ニ小ナリ從テ其効力灰白軟膏ニ優リ赤色ナルモノハ日常婦人ニ賞用セラレ

水銀ワゾーゲン軟膏 (Quecksilbervasogensalbe) ハハンブルヒノワゾーゲン製造會社ノ製品ニシテ水銀一トワゾーゲン二トノ比ニ混ゼルモノト各等

水銀ワゾーゲン軟膏

分ニ混ゼル五・〇・〇ノモノトノ二種アリ共ニ惡臭ナク速カニ吸收セラレ且ツ灰白軟膏ヨリ安價ナリ(時價凡ソ三・〇・〇十五錢)用量一日三・〇乃至五・〇ヲ普通トス

水銀石鹼

水銀石鹼 (Sapocincium) ウンナ氏之ヲ賞用シ特ニ脂肪ニ富メル人ニ適用セラル銀含量三・三・三分ノ一ニシテカブセル中ニ四・〇乃至五・〇ヲ入レ販賣セラレ用時ハ温水ヲ加エテ塗擦ス

塗擦用水銀劑ノ要約

其他古ク「モルリン」「エロプリン」油酸化汞複灰白軟膏等用ヒラレタレドモ近時主トシテ石鹼劑ヲ以テ製セルモノヲ賞用スルニ至リ最近ハ「ゲト」(Hagen)「ヴェロプ」(Veropur) 等ノ新藥出デタリ要スルニ塗擦水銀劑ハ其吸收容易ニシテ迅速且ツ確實ナルヲ第一ノ必要件トシ此目的ニ適フニハ(一)水銀球ニ大小不同ナク且ツ長キ貯藏ニ耐ユル(二)惡臭汚穢ノ程度少キ(三)塗擦ニ便宜ナル稠度ヲ有スル(四)等ヲ必要トス

適應 (Indikation) 塗擦療法 ハ「フ」(Fungus) 氏ノ所謂強力療法ニ屬シ注射法ト併セ賞用セラレハ方法ニシテ藥局法ニ示サルガ如ク灰白軟膏ハ其水銀ノ含量其量ノ三分ノ一ニ達シ水銀レゾルビンノ如キハ二分ノ一ノ大

適應

法
結核患者ト塗擦療

量ヲ含有セルモノアレバ他ノ水銀劑ニ比シテ其効力ノ著シキ又故アリト云フベキニテ本法ハ速カニ強力ナル水銀ノ効力ヲ要スル場合例ヘバ貴要ノ内臓、眼、腦、咽、喉等ノ微毒及ビ頑固ニシテ有痛性ナル骨微毒、破壞、侵蝕性ノ性質ヲ有スル潰瘍、若クハ鞍鼻 (Sattelnase) 等ヲ來サントスル重症ノ場合ニ賞用セラレ又再發ノ場合及ビ手掌足蹠ニ見ルガ如キ鱗屑疹 (Psoriasis) 等ニ用ヒラル素ヨリ注射療法ト雖同ジク此ノ如キ場合ニ撰用セラレベシト雖注射法ハ筋間注射法ニヨルトキニ於テモ尙ホ疼痛可ナリ著シク老人小兒ハ勿論強壯ノ男子ト雖時ニ耐ヘ能ハザルコトナキニアラズシテ且ツ消毒法ヲ嚴守セザルトキハ往々注射部ノ貯竈 (Depot) ヲシテ化膿ニ陥ラシメ時トシテ肺ノ「エンボリー」 (Embolie) ヲ來サシムルコトナキニアラザルヲ以テ實際上特ニ塗擦療法ヲ必要トスル場合稀ナラズ然レモ其吸收量ノ確實ナル點及時間ヲ撰バズシテ行ヒ得ル關係上外來患者ニ適スル點等ハ注射法ノ遙カニ塗擦法ニ卓越セル點ト云ハザルベカラズ結核患者ハ多クノ場合水銀ニ耐ヘズ自然惡性微毒ノ項ニ述ベタルガ如ク先ヅ營養療法ト共ニ沃度療法ヲ行フカ或ハ之レニ肝油ヲ併用スル

禁忌

等專ラ強壯療法ヲ先ニシ其營養狀態ヲ顧ミテ水銀療法ヲ開始スルヲ要スレモ若シ初メヨリ水銀療法ヲ行ヒ得ルルニ於テハ可成塗擦療法ヲ行フヲ可トス近時ゼルグント氏ハ結核ニ微毒ヲ合併セル場合ニ塗擦療法ヲ試ミ其効ハ只ダ一般驅微療法トシテ効アルノミナラズ反テ一面ニ於テハ之レヲ胸背部ニ塗擦スル故ヲ以テ局所的ニモ肺ニ對シテ良効アルベキ理ナリト云ヒ尙ホ氏ハ結核ニハ沃度加里ハ不可ニシテ亞砒酸劑ヲ可トスト云ヘリ又以テ參考トスベキナリ

禁忌 (Kontraindikation) 一般ニ皮膚機關ノ過敏ナルモノハ不可ナリ其他濕疹 (Eczema) 痒疹 (Prurigo) 鱗屑疹 (Psoriasis) 赤色苔鮮 (Lichen ruber) 天疱瘡 (Pemphigus) 等アルモノニモ適セズ外見上鮮白美麗ナル皮膚ヲ有スルモノハ多クノ場合水銀ニ耐ヘザルコト多ク屢々濕疹ニ罹ルコト多シ一般ニ皮膚強ク且ツ緊密ナルモノハ之レニ反シテ障害ヲ蒙ルコト少シト雖餘リニ毛ノ多生セルモノハ往々反テ毛孔 (Pore) ニ水銀刺戟ヲ起シ所謂藥疹 (Arzneimittelexanthema) ヲ發スルコト尠ナカラズ

分量

分量 (Dosis) ハ通常一日三〇乃至五〇〇ヲ適當トスウンナ氏ハ四年乃至十

四年ノ小兒ニハ一〇乃至三〇ヲ可トスト云エリ幼少ナル者及輕症ナルモノニハ普通少量ニ用ヒ之レニ反シテ脅迫的徵候(Bedrohliche Erscheinungen)アル者例ヘバ腦症アル如キモノニハ六〇乃至一〇〇ノ多量ヲ用フツァイスル氏ハ平常一日三〇ヲ通則トシ十日毎ニ一〇ヲ増加シテ五〇ニ至リ十日間持續シ總計二十五回乃至四十回ノ塗擦ヲ行フヲ常例トセリト時トシテ普通量ヲ以テシテモ彼ノ中毒療法ノ項ニ述ベタルガ如キ中毒症狀ヲ來スコトアリ内臟ノ急性的熱發性炎、觸接傳染様發熱性發疹等ヲ發シ且ツ輕度ノ下痢ヲ伴ヘル腸症狀ヲ來スコトアリ之ヲ以テ此ノ如キ際ハ直ニ治療ヲ廢スルコト必要ニシテ尙ホ結核性微毒ノ血痰、汞毒性齒齦炎、激症下痢、毛氈皮膚炎等ニ注意ヲ拂ハザルベカラズ

方法

方法 (methode) 塗擦療法ハ一定ノ順序 (Turnus) ヲ以テ一定ノ方法 (Methode) ニ從テ一定ノ部位 (Körperstelle) ニ行フヲ要ス、ジクムンド氏ニヨレバ

第一日 腓腸部

第二日 大腿ノ内外面(濕疹ヲ發シ易キ鼠蹊部ヲ避クルヲ要ス)

第三日 胸腹ノ側面(乳房ハ避クルベシ)

第四日 上肢ノ屈側

第五日 背部

以上ヲ一順(Eine Tour)トス而シテ

第六日 入浴

第七日ヨリ再ビ前法ヲ反覆ス

ウンナ氏ハ

第一日夕 兩側大腿

第二日夕 兩側下腿

第三日夕 兩上肢

第四日夕 胸腹

第五日夕 背部

第六日夕 蒸氣又ハ硫黃浴

第七日ヨリ再ビ前法ヲ反覆ス

其他上下肢各屈側面左右胸腹側面ノ總計六ヶ處ニ六日間塗擦シ第七日目ヲ入浴日トセル人アリ或ハ婦人等ニ對スル方法トシテ可成身體ヲ露

塗擦ハ可成的醫自
ラ行フベシ

出セシメザル主義ヨリ左右腓腸部左右前膊部左右上膊部ノ六ヶ所ニ六日間行フ方針ヲ取レルアリ其部位ハ必スシモ一定スルノ要ナシト雖可成皮膚ノ柔軟非薄ニシテ毛ヲ有セザル部分ヲ撰ビ且ツ餘リ僅カノ廣袤(Dimension)ナラザルヲ要ス之レ塗擦面大ナレバ大ナル丈ケ吸收蒸發亦盛ニシテ從テ其効果大ナレバナリ

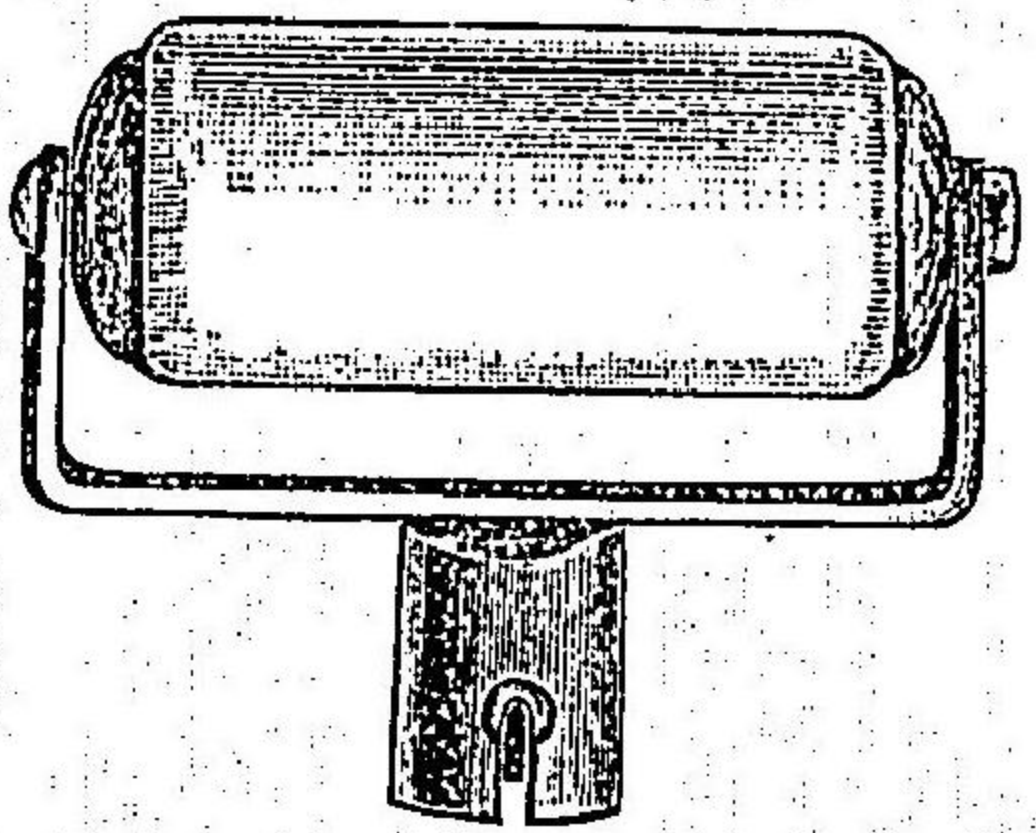
塗擦ハ可成醫自ラ行フヲ良トスルモ時ニ看護婦又ハ病人自己ヲ行ハシムルノ止ヲ得ザルコトアリ往々看護婦等ハ多數ノ患者ニ塗擦ヲ行フ結果トシテ不知不識ノ間ニ水銀ノ害ニ罹ルコトナキニアラズツッイスル氏ハ之ヲ以テ塗擦時手套又ハ豚ノ膀胱ヲ以テセル被蓋物ヲ以テ自己ノ手ヲ被ハシメ以テ塗擦セシムルヲ可トスト云ヘリ著者モ曾テ看護婦ニ此ノ如キ中毒例ヲ見タルコトアリ然レモ此ノ如キ場合ニ於ケル水銀ノ作用ハ唯單ニ手指手掌ノ塗擦面ヨリノミ來ルニアラズノ室内ノ水銀蒸氣及不知不識ノ間ニ看護衣ニ附着セル水銀球若クハ吸收セラレタル水銀蒸氣ノ關與スル所ナキニアラザレバ只ダ單ニ手掌手指ヲ被蓋スルニヨリテノミ此害ヲ全ク防ギ得ベシト云フ能ハズ從テ塗擦器ヲ用ユル場合ニ於

塗擦器

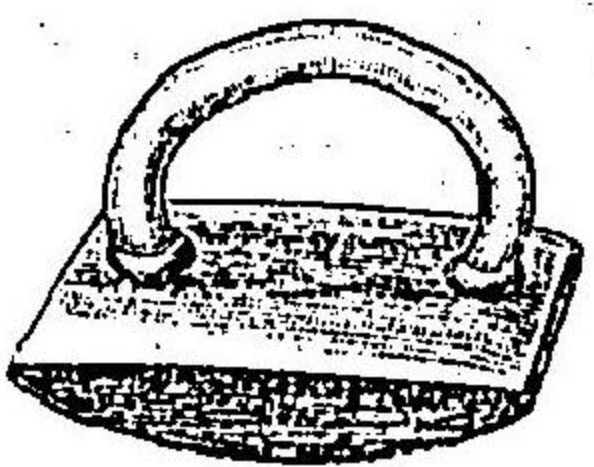
レールマン氏ノ
塗擦器
パッケンステッ
ル氏ノ塗擦器

テモ同理タルヲ逃レズト雖之ヲ用フルキハ其害ヲ幾分防ギ得ルト同時ニ手指ノ清潔ヲ保チ得且ツ醫自ラ行ヒ又ハ助手或ハ患者自身ヲ行ハシムル場合ニ於テモ手指ニ藥疹ヲ起サシメズ且ツ既存ノ皮膚病ニ害ヲ

第 八 圖
レールマン氏ノ塗擦器



第 九 圖
パッケンステッル氏ノ塗擦器



與ヘザル利益アルハ爭フ可ラズ』
塗擦器ニ數種アリ
レールマン氏及ビパッケンステッヘル氏ノ者專ラ賞用セララル近

時フライブルヒノヤコビー氏ハ電流ヲ應用セル一種ノ塗擦器ヲ發明セリ我ガ國ニモ二三ノ種類アリ

塗擦スルニハ先ヅ水銀劑ノ一定量即チ三・〇乃至五・〇ヲ取り此一部ヲレンス大ヲ越ヘザル一定ノ皮膚面ニ輕ク靜カニ且ツ丁寧ニ手掌面若クハ塗擦器ヲ以テ擦入シ殆ンド皮膚面ノ乾燥状態ヲ呈スル迄持續ス塗擦宜

全身療法

二二三

シキヲ得ルキハ、手指又ハ布巾ヲ以テ拭フモ、尙ホ灰白色ヲ殘シ、ルハ、以テ檢スルキハ、毛孔(Poren)内ニ多數ノ水銀小點(Punktchen)ヲ見ルベシ、而シテ次デ新ニ他ノ部ニ行ヒ同ジク前法ノ如ク塗擦シ漸次廣部ニ及ブヲ良トス

アーレンス氏法

塗擦部ハ初メ先ズ通常アルコールヲ以テ脱脂スルヲ法トスレドモ出來得ベクンバ之ニ先ンジ局部皮膚ヲ石鹼ニテ洗ヒ吸引器(Saugapparat)ヲ以テ皮膚腺内ノ異物不潔物ヲ汗脂ト共ニ排除スルヲ可トス、アーレンス氏ハ局部ヲベンチンニテ脱脂シ塗擦後キロゾタル(Chiroster)ヲ打粉スルハ、皮膚ニ薄キ臘層ヲ形成シ水銀蒸氣ハ發散ヲ防ギ以テ吸收ヲ良ナラシムベシト云ヘルモ、水銀ノ吸入ハ玆ニ全ク阻害セラル、ニ至ルベキヲ以テ只ダ單ニ局部皮膚ヨリ吸收セラル、水銀ニノミ其効果ヲ待タザルベカラザルニ至ルベシ蓋シ口内炎ヲ發シ易キ患者若クハ事情上日中ハ勿論夜間ト雖一室ニ籠リテ塗擦シ能ハザルガ如キ患者ニハ行フテ便益アルベシ通常塗擦後ハ單ニ脱脂綿ヲ以テ拭ヒ又ハ單ニ其上ヲ繙帶スルヲ常トスレドモ著者ハ輕ク常綿ニテ拭ヒタル後チ一層ハ常綿ヲ置キ此上

塗擦時間

フインゲル氏法

ヨリ繙帶スルヲ常トス之レ常綿ハ皮膚面ニ於ケル過剩ノ軟膏ヲ去ルニ適スルト共ニ脱脂綿ノ如ク吸收力ナキ爲メ水銀ノ皮膚ヨリ吸收セラル、ヲ牽制障害スルコトナク且ツ常ニ綿層間ニ放散シ易キ状態ニ於ケル水銀蒸氣ヲ包埋シ得ベケレバナリ

塗擦時間 (Zeit der Einreibungen) フインゲル氏ハ午前中ヲ可トシ就床前ニ行

ツァイスル氏法

フトキハ就眠後發汗ニ伴ヒ毛孔ヨリ再タビ水銀ヲ排除シ爲メニ豫期ノ効力ヲ得ル能ハズト云ヘリ然レモ他ノ一二ノ學者ハ水銀軟膏ニシテ果シテ水銀蒸氣トシテ働クモノナリトセバ塗擦法ハ之レヲ夕ニ行フモ妨グズト云ヒツァイスル氏ハ出來得ベクンバ之レニ加ヘテ硫黃浴ヲ取ラシムベシト云ヘリ氏ノ法ハ先ヅ患者ニ午後四時頃十分乃至十五分間ノ硫黃浴ヲ取ラシメ次イデ就床セシメ葦中ニ於テ第一回ノ塗擦ヲ行ハシメ次日ハ午後四時四十五分頃温湯及ビ石鹼ヲ以テ局部皮面ヲ全部清潔ニ洗ヒ清メシメ玆ニ再タビ硫黃浴ヲ取ラシメ又他部ニ塗擦ヲ行ハシムルニアリ然ルトキハ皮膚及ビ毛囊内ニ擦入セラレタル水銀軟膏ハ油酸水銀ニ變化シテ吸收セラレ又呼吸ニ伴フテ吸收セラル、ヲ以テ之レヲ五

硫黃浴
塗擦法
ノ併用

日本の家屋ニ於テ
ハ夜間ヲ撰ブナリ
トセシ然レモ口内
炎ヲ發シ若クハ發
スル傾キアルモノ
ハ日中ヲ可トス

日間毎日一定ノ順序ヲ以テ塗擦ヲ行ヒ六日ニ至リ初メテ入浴洗滌シ去ルニ比スレバ其成績遙カニ可良ナリト元來硫黃浴ト共ニ塗擦療法ヲ行フトキハ不溶解性ノ硫化汞ヲ形成シ其吸收ヲ阻害スルモノナレドモ入浴ハ一種ノ發汗法ニシテ兼テ皮膚ノ機能ヲ亢盛ナラシメ皮膚腺ノ排泄吸收作用ヲ高ムルモノナルヲ以テ塗擦法ニ硫黃浴(Schwefelbad)ヲ兼用スルハ假令一面ニ於テ硫化汞ヲ形成スル不利アリトハ云ヘ他面ニ於テ水銀ノ吸收ヲ促シ殊ニ腺口腺管内及ビ進ンデハ體內ニ蓄積セル水銀ヲ排泄シ中毒ノ危険ヲ減却スルノ利アルヲ以テ特ニ硫黃浴後ニ塗擦法ヲ行ヒ翌日ノ塗擦前ニ再ビ入浴セシムルノ方法ヲ取ルハ其害少ナク利却テ大ナルヲ思ハザルヲ得ズフライ氏ノ實驗ニ據レバ比較的水銀ニ對シテ非耐性ノ患者ト雖發汗法ヲ兼用スルトキハヨク一日七瓦ノ大量ニ耐ユルコトアリト云ヒレツツエル氏ハ入浴後ハ之レヲ入浴前ニ比シ著シク塗擦量ヲ増加シ得ベシト云ヘリ日本の家屋ハ唐紙障子ヲ以テ區割セラルト雖元來開放的建築ナルヲ以テ多クノ場合日中ハ塗擦療法ニ適セズ之レ餘リニ室大ニ且ツ空氣ノ變換劇シキヲ以テ水銀蒸氣ノ吸入ヲ行ヒ得

塗擦水銀ノ吸收

ルコト少ナク主トシテ吸收(Resorption)ニ因リ水銀ヲ體內ニ攝取セシメ得ベキノミナレバナリ之ニ反シ夜間ハ雨戸ヲ以テ全部ヲ密閉シ得ベキヲ以テ比較的西洋の家屋ト同一状態ヲ保ツニ至リ從テ水銀蒸氣ノ吸入ニモ適當ノ境遇ヲ與フルニ至ルヲ以テ日本の家屋ニ於テハ主ニ夜間ヲ撰ブヲ可トス蓋シ水銀口内炎(Stomatitis Mercurialis)ハ塗擦療法ノ場合ニ於テ其水銀ノ吸入量多キ場合ニ頻發スルヲ常トスレバ口内炎ヲ發スル傾キアルモノハ可成日中ニ行ハシムルヲ可トスフインゲル氏ハ就床前ハ不良ナリト云ヘルモ若シ口内炎ノ傾キナキハ假令就眠後幾分發汗ト共ニ水銀ノ排除セラル、トアリトスルモ一面ニ於テハ夜具内ニ水銀蒸氣ノ充滿飽和セラル、アリ吸入ニヨリ再ビ體中ニ攝取セラルベキ理ナルヲ以テフインゲル氏ノ云ヘルガ如ク全ク不利ナルモノト考フ能ハズ寧ロ口内炎ニ對シ抗抵強キモノニハ反テ就床前ニ行ヒテ其効一層顯著ナルモノアルコトヲ知ラザルベカラズ

塗擦水銀ノ吸收ニ關シテハ古來二説アリ一ハ皮膚ヨリ直接ニ吸收セラ
ル、ハ、モ、ノ、ナ、リ、ト、云、ヒ、他、ハ、氣、狀、體、ト、ナ、リ、テ、呼、吸、器、ヨ、リ、吸、入、セ、ラ、ル、ハ、物、ナ

リト云フ説即チ之レナリ初メニ勢力アリタルハ第一説ニシテ水銀軟膏中ノ水銀小分子ハ先ヅ汗腺皮脂腺ノ排泄管口ニ擦入セラレ次イデ鹽ノ作用及ビ組織液トノ蛋白結合ニヨリ昇汞及溶解性水銀蛋白ニ變化シ其吸收セラル、ヤ赤血球及組織液内ニ溶解性結合物ヲ形成シ以テ體中ヲ循環スルモノナリト云フニアリノイマン氏ハ組織的ニ汗腺皮脂腺ノ排泄管内ニ水銀ノ現在ヲ證明シテ其説ヲ確實ニセリト雖後ニ至リテウランデルナイセル氏等ハ皮膚ノ吸收ハ絶對的ノモノニアラズシテ其一部ハ呼吸器ヨリ氣狀體トシテ吸入セラル、モノナルコトヲ發見シ殊ニメルゲット氏等ハ水銀ハ室溫又ハ體溫ニテ容易ニ發散スベキ者ナルヲ以テ假令塗擦セズト雖單ニ室内ニ置キ又囊内ニ塗布シテ之ヲ懸垂スルニ於テモヨク呼吸器ヨリ吸入セラル、モノナルコトヲ唱へ而シテ此ノ如キ場合ニ於テ水銀ヲ尿中ニ明ニ證明シ得ベシト云エリフインゲル氏ハ第一説ニ追加シテ曰ク微毒發疹ノ治療ニ際シ其發疹ノ一部ニ塗擦スルトキハ之ヲ塗擦セザル他ノ發疹部ニ比シ早ク其發疹ノ消散スルヲ認ムルハ之レ全ク水銀ノ皮膚吸收ヲ證明スルモノニ非ズシテ何ゾヤト吾

塗擦水銀ノ排泄

人ノ實驗ヲ以テスルモ亦微毒患者ノ同室入院セル場合ニ於テ試ニ一名ノ患者ニノミ塗擦療法ヲ施ス時ニ於テ他ノ患者モ亦不知不識ノ間ニ驅微療法ノ効果ヲ受ケ之レガ檢尿ヲ行フニ明カニ其尿中ニ水銀ヲ證明シ得ルガ如キ例ニ乏シカラズシテ又護膜腫等ノ場合ニ於テモ局部ニ塗擦法ヲ行フトキハ之ヲ行ハズシテ單ニ全身療法ヲノミ施ス場合ヨリ經過良ナル如キ又以テ皮膚吸收作用ノ存在ヲ確證スル例ト見テ可ナルベキニテ要スルニ塗擦水銀ノ體中へ吸收セラル、道ニハ今日ニ於テモ吸收(Resorption)吸入(Inhalation)ハ二途アリトスルヲ至當トス

塗擦水銀ノ排泄ハ尿、尿、唾液、胆汁、汗液等ト共ニスルモノニシテ溶解性水銀劑ハ不溶解性銀劑ヨリ其排泄一層速ナルヲ常トシ從テ其効力後者ニ比シ永久的ナラザルモノナリ

塗擦法効果ヲ奏スルハ微毒ノ症狀日ニ増シ消散スル者ニシテ其作用スル程度ハ多クノ場合糞尿中ニ於ケル水銀ノ分量ニ比例スル者ナリト雖時ニ糞尿中ニ多量ノ水銀排泄ヲ認メテ効ナキコトアリ又ハ既ニ久シキ以前ヨリ水銀劑ノ使用ヲ廢止セル場合ニ於テ尙ホ且ツ水銀ノ排泄多

塗擦時ノ衛生及食餌關係

キアアリ之レ水銀ガ善良ニ働カザリシコトヲ證スルモノナレバ此ノ如キ時ハ寧ロ新鮮ノ空氣中ニ轉ビシメ硫黃浴又ハ水浴ヲ取ラシメ同時ニ植物性藥又ハ沃度劑ヲ處方シ沃度チットマン氏煎等ノ内服ニ耐ヘザルモノニハ沃度浴、酸性炭酸泉(Mineralische Säuerling)ニ入浴セシメ其他總論惡性微毒療法ノ條ヲ參考シテ治療ヲ加フベシ

塗擦時ノ衛生及食餌關係(Die hygienischen und diätetischen Verhältnisse)塗擦ハ新鮮ニシテ而カモ餘リ冷カナラズ且ツ餘リ運動セザル空氣中ニ行フヲ良トシ多少ノ湿度ハ必要ニシテ食物ハ出來得ル限り刺戟ナキ食物ヲ撰ミ而カモ滋養營養分ニ富ミ咀嚼シ易ク且ツ消化可良ナル食物ヲ用ヒシムベシ酒ハ攝生法中ニ述ベタル如ク酒客ニ於ケル特別ノ場合ノ外禁ジ衣ハ餘リ温ナラズ且ツ餘リニ狭小ナラザルモノヲ可トス狭小ナルモノハ皮膚ニ密着シテ水銀蒸氣ノ包埋ヲ不良ナラシムル害アリ又身體及ビ精神ノ亢奮ハ共ニ害アルベク其他一般ハ總論攝生法ノ項ヲ參考シテ知ルベシ

既ニ塗擦療法ヲ開始セル以上ハ可成定規的ニ持續シ輕度ノ不快、月經(

struction)等來ルコトアルモ治療ヲ中止スルノ要ナシ然レモ發熱ヲ來セルモノニハ一時中止スルヲ可トス

二、昇汞浴療法 Sublimatbadkur

健康ナル皮膚ハ只僅カニ昇汞ノ痕跡ヲ吸收シ得ルノミナレバ皮膚ニシテ無傷ナル場合ニ於テハ昇汞浴ハ効價ハ殆ンド之レヲ認ムルニ由ナシト雖表皮ニシテ假令小部分ト雖缺損セル場合ニ於テハヨク此眞皮露出面ヨリ昇汞ヲ吸收シ一ニハ局部ニ働キ他ニハ全身ニ驅微療法トシテ作用シ得ルモノハナルヲ以テ濕性丘疹(Nässende Papeln)膿胞性及ビ潰瘍性病變(pustulöse und ulcöse Prozesse)等アル場合ニ好ンデ用ヒラレ殊ニ小兒及哺乳兒ノ如キ注射及塗擦療法ヲ行ヒ難キ者ニ最モヨク適用ヒラル昇汞浴ヲ行フニハ

昇汞 一〇〇—三〇〇

餽水 四〇〇〇

右溶液ヲ一浴ニ混ジ能ク攪拌シテ入浴セシム浴器ハ木製ナルヲ

局所ニ働キ又全身ニ對シテ驅微療法ヲナス
小兒及哺乳兒ニ賞用セラル

温度、時間、回数

要ス

温度ハR氏二六―二八度ヲ良トシ時々温湯ヲ追加シテ温度ヲ調節ス
 通常三十分―一時間ヲ適當トシ毎日一回入浴セシメ浴後一時間就床
 セシムルヲ可トス若シ病變部手足等ニ限局セルキハ局所浴ヲ取ラシ
 ムルモ可ナリ

ツァイスル氏ハ

大人ニハ

一五・〇

昇汞

鹽酸アンモニウム

五・〇

餽水

一〇〇・〇

右溶液ヲ一浴ニ

小兒ニハ

二・〇―五・〇

昇汞

鹽酸アンモニウム

二・〇

餽水

一〇〇・〇



テ一方ニ積極(Anode)他方ニ消極(Kathode)ヲ連結シC氏三十五度ノ溫度ヲ保タシメ一浴ニ昇汞一二〇—一五〇ヲ投ジ一〇「ミリアンペール」ニ〇「ミリアンペール」ノ電力ヲ以テ十五分間持續セシメ後電流ヲ變換シテ又十五分間通電セシムクロンフルト氏ハ此場合ニ於ケル水銀ノ吸收及ビ排泄ヲ證明シラング氏ハ本療法ハ清潔ニシテ且ツ容易ナル點ニ於テ利益アリ別ニ害ヲ認メザルモ設備ニ高價ヲ支拂ハザルベカラザルハ誹謗ヲ招クノ原因ナリト云ヘリ

三、薰蒸療法 Raucherungscur

薰蒸法ハ其起源ヲ審ニスル能ハズト雖之レハ古書ニ徵スルニ歐洲ニ於ケルヨリモ東亞ニ於ケル起原反テ早キモノハ如シ

支那ニ於テハ紀元六五〇年ノ著ナル千金方ニ薰咳嗽之法アリ又西曆一六一七年ノ著ナル外科正宗ニ結毒者薰火收退瘡毒而沉於骨體也云々又一男子薰藥之誤六年後兩腿骨痛半年始腫ルノ記載アリ又我が國ニ於テモ早ク既ニ鎌倉時代ノ萬安方ニ薰法ノ記載アリ一六三〇年ニ

薰蒸法ノ起原ハ西
洋ヨリ反テ東亞ニ
於テ早シ

歿セル永田徳本ノ方ニモ薰藥十方アリ之ヲ歐洲ニ於ケル薰法ノ始メト認ムベキ一六〇〇年代(ポルグニニコラウス、アッセル氏等ハ銀朱ヲ薰劑トシテ用ヒ後ニヘンリー、レー及ビハインリッヒ、バシユキス氏等モ之ヲ用ヒタリ)ニ對比スルハ遙カニ東洋ニ於テ早ク之ヲ用ヒタルモノナルヲ知リ得ベキガ如シラング氏ノ著ニモ薰法ハ早ク東洋ニ於テ汎ク行ハレタル如シト記載シアリ之レヲ以テ見テモ亦其然ルヲ是認シ得ベケン

薰蒸法ハ日本支那ニ於テハ勿論西洋ニ於テモ其初メハ口鼻ヨリ其烟ヲ吸入セシムルヲ主トシ皮膚ヨリスルヲハ第二ニ置キタルモノハ如キニ反シ後ニ至リテハ主トシテ皮膚ヨリ吸收セシムルヲ本來トスルニ至ルモノハ如シ

グルウツク氏ハ薰蒸用トシテ水銀六〇乃至九〇ヲ芳香體ト混ジ之レヲ炭火上ニ投ジ患者ヲ被包シテ呼吸セシメ又バシユキス氏モ患者ヲ蒸氣浴槽ニ容レ甘汞銀朱ヲ水ト共ニ蒸發セシメテ吸入セシメタリ日本ニ於テモ本間玄調氏ノ瘍科秘録ヲ見ルニ「最も速効あるものは薰劑な

り蒸劑とても同じ水銀なれば格別の違ひもあるまじけれども蒸劑の蒸氣は呼吸に從て肺に入り肺より一身に達す云々ノ記載アリ又船越敬祐氏著微瘡茶談に次ノ記載アリ『微効散これを蒸方と云ひ或は嗅藥と云ふ主治延壽丸と同様にして延壽丸治瘡丸奇良湯生々乳をつびる、』
 『ごろしゆす』
 『かろめる』等及び諸藥効あらざる者を治すること神の如し光明朱一匁沈香五分麻木霜一匁艾五分辨柄七分右五味末にしよくませ巾二三歩長さ七八寸ばかりの紙袋をこしらへ其中へ藥末を入れ竹串の先を丸くして之れにてつき込みかたくつめ十五日ぶりの切りをつけ一日に一切分を二度にかゝしめ七八日にいたりて口中いたまざる者は二切分もかゝしむべし口中いたむときはやめ是もめんけんによりて増減すべし用ひ様先づ藥に火をつけ線香の如く火入にたて鼻と藥と三四寸間を置きつむりにひとへものをかぶりけむりのちらぬ様にして口に水を含み煙の鼻に入様にして嗅ぐなり口の水は勝手にかへてよろし人によりてはしやくり出することあり其時は嗅事をやむべし又こえをとむることもあり此人は嗅藥あはぬなり他の方を

フインゲル氏法

用ゆべし』

最近ノフインゲル氏ノ著書(一九〇八年)ニヨレバ先ヅ患者ヲ裸體トナシ穴アル椅子ニ凭ラシメ頸ニ至ルマデ其丈ケ床底ニ達スル彈力護謨性ノマ



ル據ニ氏ルスイヤツ

ンテラヲ以テ被ヒ
 椅子ノ下ニ銀朱(Niobert) 甘汞各二・〇
 ヲ混ゼル小皿ヲ水
 ヲ盛レル大皿ノ中
 ニ置キ茲ニ蒸氣ヲ
 開始スルキハ水銀
 及ビ水ノ蒸氣ハ患
 者ノ身體ヲ包裹シ
 沈着ス既ニ水銀蒸

ツァイスル氏法

發シ盡スキハ「マンテル」ニテ被ヒタルマ、一時間床ニ就カシムベシ云々ト又ツァイスル氏ハリース氏ノ法ヲ紹介シテ曰ク患者ノ顔面ヲ除ク外緻

全身療法

密ナル木綿ヲ以テ製セル婦人ノ被物(Kapuze)様長「マンテル」ヲ以テ包裹シ
 (第十一圖ヲ見ヨ)空氣穴ヲ有スル椅子ニ凭ラシメアルコール、ランブ「ヲ介
 シテ水銀一・五ヲ水ト共ニ蒸發セシメ一五分—二〇分ノ後チ患者ヲ床ニ

導クベシト右法ハ一日一回又ハ二

日毎ニ一回行フベクフインゲル氏

法ト同ジク共ニ水銀蒸氣ハ之レヲ

「マンテル」ニテ遮リ可成口鼻腔ヨリ

吸入セラルハ、ヲ避ケ主トシテ皮膚

面ヨリ吸入セシムルハ手段ヲ取レ

ルナリ

本法ノ効果ハ今ヤ殆ンド辛フジテ

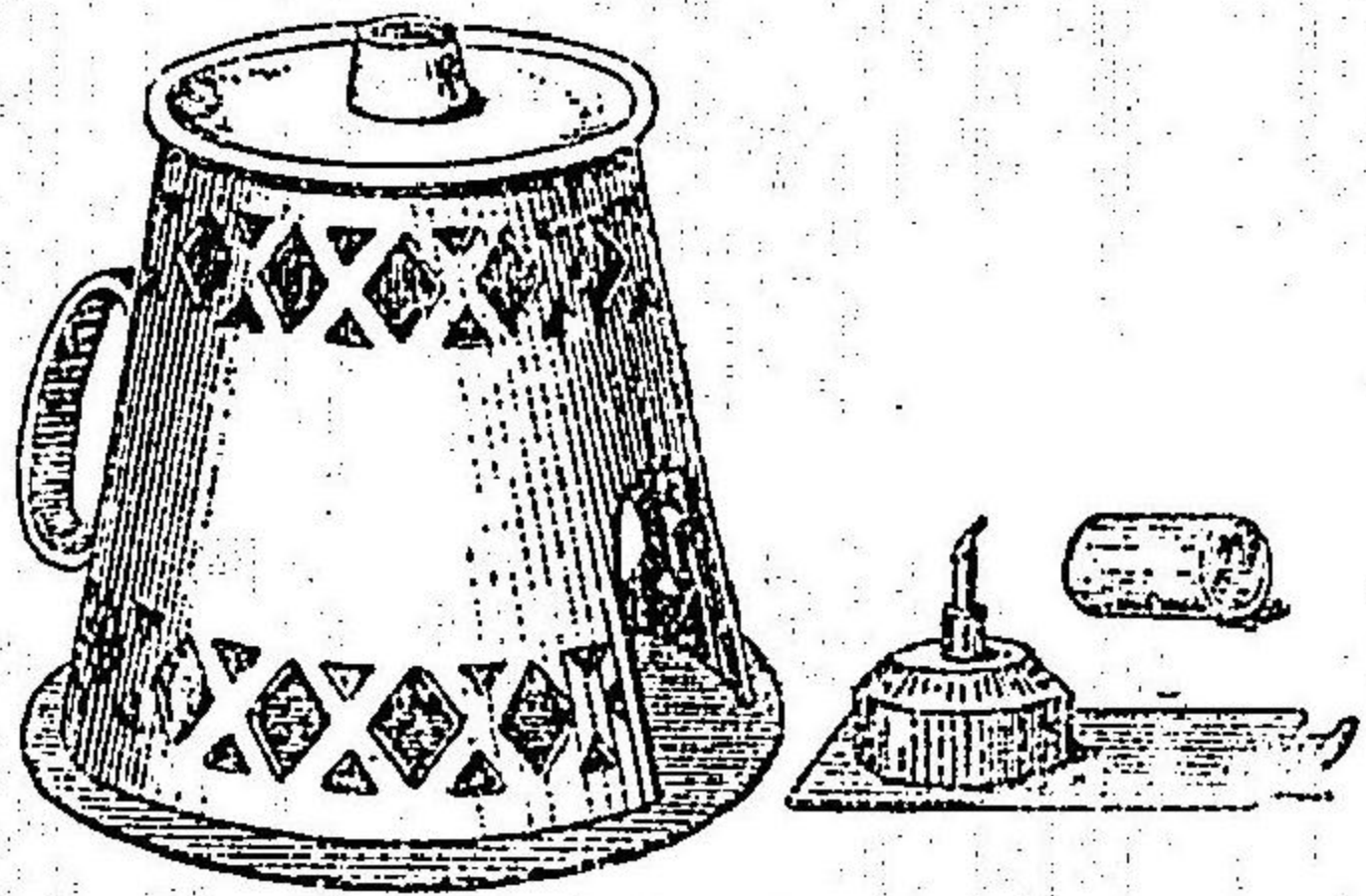
其存在ヲ認メラルハ、ハミニ「東西

諸大家ハ之ニ贊スルモハ甚ダ稀ナ

リ英國ニ於テハ彼ノ本法ノ崇拜者タル「ハーカー」氏以來ノ傳説今尙ホ民間ニ傳ハレル爲メ比較的本法ヲ行フモノ尠ナカラズト雖主トシテ田舎

蒸氣法ノ効果

第二十圖



ル據ニ氏ルスイアツ

地方ニ行ハル、ノミニシテ又米佛ハ英ニ關係多キ丈ケンレ丈ケ本法ノ
 信者少ナカラズト雖獨ニ至リテハ殆ンド之レヲ是トスルモノナクラン
 グ氏ハ皮膚ヨリ水銀ノ吸收セラル、ハ昇汞浴ト同ジカルベシト雖其吸
 收量僅少ナルヲ以テ本法ノミヲ以テシテ驅微療法ノ目的ヲ達セントス
 ルハ不可タラザルヲ得ズト云ヒツ「アイス」ル氏ハ五十五回中十例ノ齒齦炎
 ヲ認メレツセル氏モ本法ニ同意ヲ表セザリシ我ガ國ニ於テモ亦本法ニ
 關スル贊成者甚ダ稀ニシテ獨リ「加來」氏ハ本法ヲ全身並ニ局所療法ノ目
 的ニ應用シテ効果ヲ認メタリト報ゼリ(皮膚科及泌尿器科雜誌第九卷第
 七號)サレド氏ノ報告ニ據ルモ口内炎、下痢等ノ中毒症狀一三三四%(ベン
 デル氏ハクロ「マイエル」氏ノ「メルカ」ラトール「ヲ用ヒテ吸入療法ヲ行ヒ
 シニ其口内炎ヲ發セルモノ僅カニ五%ナリシト)ノ多數ニ昇レリ
 要スルニ本法ハ之レヲ近時ノ式ニ則リ可成口鼻腔ニ及ボサシメザル方
 法即チ「フインゲル」氏法ノ如ク「マンテル」ヲ以テ其煙ヲ口鼻腔ヨリ遮斷スル
 方針ヲ以テスルハ、ニ於テハ口内炎等ヲ發セシムルヲ比較的稀ナリト雖
 然ルハ、一面ニ於テ其効力ヲ減弱セシメ全身療法トシテ注射塗擦療法ニ

可及的鼻腔ニ及
 ボサシメ主トシ
 シムル場合
 シムル場合
 シムル場合

皮膚吸收ト共ニ口
鼻腔ヨリ吸入セシ
ムル場合

及、ハ、ス、所、謂、ナ、イ、セ、ル、氏、ノ、主、療、法、(Hauptcur)ニ、適、セ、ズ、且、ツ、特、ニ、本、法、ノ、長、所、ト、ス、ル、口、腔、及、上、氣、管、支、ニ、對、シ、テ、其、作、用、ヲ、充、分、ニ、ス、ル、能、ハ、ザ、ラ、シ、メ、其、効、果、ヲ、發、輝、ス、ル、コ、ト、少、ナ、キ、ニ、至、ラ、シ、ム、ベ、ク、之、レ、ニ、反、シ、舊、式、ニ、則、リ、全、身、ニ、蒸、烟、ス、ル、ト、共、ニ、口、鼻、腔、ヨ、リ、吸、入、セ、シ、ム、ル、ト、キ、ハ、之、レ、等、ノ、部、位、ニ、於、ケ、ル、微、毒、性、局、所、症、狀、ニ、對、シ、テ、局、所、療、法、タ、ル、効、果、ヲ、發、輝、シ、亦、全、身、ニ、効、果、ヲ、及、ボ、サ、シ、ム、ル、コ、ト、著、シ、カ、ル、ベ、シ、ト、雖、初、メ、ヨ、リ、中、毒、症、狀、ノ、來、ル、ヲ、顧、ミ、ズ、シ、テ、行、フ、ノ、勇、ナ、カ、ル、ベ、カ、ラ、ザ、ル、ノ、缺、點、ア、ル、ヲ、如、何、ニ、セ、ン、之、レ、ヲ、以、テ、今、ヤ、殆、ン、ド、顧、ミ、ラ、レ、ズ、ト、雖、細、心、注、意、シ、テ、行、フ、ニ、於、テ、ハ、加、來、氏、ノ、云、ヘ、ル、ガ、如、ク、必、ズ、シ、モ、往、昔、見、タ、ル、ガ、如、キ、危、險、ナ、ル、中、毒、症、狀、ヲ、來、サ、シ、ム、ル、者、ニ、非、ズ、シ、テ、一、ニ、ハ、ク、ロ、ー、マ、イ、エ、ル、氏、ノ、吸、入、療、法、(Inhalationscur)ト、同、様、ニ、口、腔、上、氣、道、ニ、對、シ、局、所、的、ニ、働、キ、他、ニ、ハ、塗、擦、療、法、ト、同、様、ニ、皮、膚、ヨ、リ、吸、收、セ、ラ、レ、テ、以、テ、全、身、ニ、効、果、ヲ、與、ヘ、得、ベ、キ、モ、ノ、ナ、ル、ベ、ケ、レ、バ、單、ニ、之、レ、ヲ、歴、史、的、ノ、治、療、法、ト、シ、テ、實、驗、的、治、療、界、ヨ、リ、沒、却、シ、去、ル、ハ、餘、リ、ニ、酷、ナ、リ、ト、云、ハ、ザ、ル、ベ、カ、ラ、ズ、況、ン、ヤ、上、氣、道、口、腔、等、ノ、重、症、發、現、例、ハ、鞍鼻(Sattelnaese)ヲ、來、サ、ン、ト、シ、又、ハ、鼻、咽、腔、ニ、侵、蝕、性、又、ハ、護、膜、腫、性、潰、瘍、勿、論、惡、性、微、毒、ナ、ラ、ザ、ル

本法ノ特效アル場
合

場、合、ヲ、發、シ、危、險、症、狀、次、テ、加、ハ、ル、場、合、等、ニ、於、テ、ソ、ノ、中、毒、症、狀、ヲ、顧、ミ、ル、ハ、暇、ナ、ク、極、メ、テ、嚴、密、ナ、ル、驅、微、療、法、ヲ、口、腔、上、氣、道、ニ、必、要、ト、ス、ル、場、合、ニ、於、テ、蒸、蒸、法、ハ、最、モ、有、効、確、實、ナ、ル、効、果、ヲ、奏、シ、得、ル、場、合、尠、ナ、カ、ラ、ザ、ル、ニ、於、テ、ヤ、

(附)

近來ニ到リ塗擦法ニ類シ而モ又蒸蒸法ニ類スル數多ノ治療法行ハル、ニ至レリ今之レヲ次ノ如ク區別シテ述ベン

A ウーナ氏ノ水銀硬膏(ムール) (Quecksilberplastermull) 及其他ノ類似療法

ウーナ氏ノ法ハ一定ノ皮膚例ヘバ背部胸部大腿下腿等ニ凡ソ四寸平方ノ水銀硬膏(バイエルドル會社製時價一メートル一圓六十錢)ヲ貼シ八日ノ後チ其部位ヲ變換シ其自然ノ吸收ヲ促スニアリ右品ハ旅行者海員等ニ適シウルフナイセル氏等モ其効ヲ認メリ殊ニナイセル氏ハ乳兒小兒ノ遺傳微毒ニ應用シ得テ便利ナリト云ヘリ之レニ類スルモノヲクインカー氏ノ甘汞貼塗硬膏(Kalomelspanndrop)ト

ウーナ氏ノ水銀硬膏「ムール」

クインカー氏ノ貼塗硬膏

ナイセル氏ノ「カ
ロメロール」軟膏
ヘルグスハイメル
及ウエラントル氏
法

ス用法ハ脾臟部ニ貼スルニアレモ其水銀ノ作用甚ダ弱ク餘リ推奨セ
ラル、ニ至ラズナイセル氏ノ「カロメロール」軟膏(Calomelsalbe)即チ Un-
scium Heyden 六〇瓦入六十錢モ亦塗擦ニ兼テ貼用セラル、モ之レ
又聲價ヲ博スルニ至ラズ獨リヘルグスハイメル氏ハ平手ヲ以テ灰白
軟膏ヲ打チ込法(Einkaschung)及ビウエラントル氏ノ毎夕六〇ノ灰白軟膏
ヲ「スパートル」ヲ以テ塗布シ後チ麻布ヲ以テ縋帶スル法即チ塗布療法
(Überstreichung)ハ今日ニ至ルモ尙ホ賞用セラレ殊ニ何レモウンナ氏
法ト同様旅行其他ノ如キ場合ニシテ難復ナル治療ヲ行ヒ能ハザルモ
ニ賞用セラル

B ウエラントル氏ノ懸囊法(Sackbehandlung)及其他ノ類似法

ウエラントル氏ノ
懸囊法
メルゲット氏ノ水
銀「フランテール」

ウエラントル氏ハ吸入療法(Inhalationscur)ニ絶對的ノ價值ヲ置キ「フラン
テール」製ノ囊内ニ水銀軟膏ヲ塗布シ患者ヲシテ日夜胸部又ハ背部ニ懸
垂セシムル方法ヲ行ヘリ之レヲ氏ノ懸囊法ト云フ
メルゲット氏ハウエラントル氏ニ先ンジ早ク既ニ水銀ノ體温ニヨリ蒸發
スルヲ利用シ其蒸氣ヲ吸入セシメン爲「フランテール」ニ水銀ヲ飽和セシ

「エーマン氏ノ
メルクリタル」
「エーゲル氏ノ灰白
粉」

メ即チ水銀「フランテール」(Flanelle mercurielle)トナシ之レヲ患者ノ枕ニ横
ヘ又ハ頸部ニ纏絡セシムルノ手段ヲ講ゼシモウエラントル氏法ノ如ク
用ヒラレザリキエーマン氏ハ「メルクリタル」(Mercurio)ト稱スル水銀
「アマルガム」(Quecksilberamalgam)ヲエーゲル氏ハ之レニ類スル灰白粉(Pu-
vis cinereus)ヲ共ニ「フランテール」囊内ニ撒布シ之レヲ胸部又ハ背部ニ懸
垂シテ其水銀蒸氣ノ吸入ヲ計レリ

「ブラシユコー氏ノ
メルクリント、シ
ユルツ」

「ブラシユコー氏ノメルクリント、シユルツ」(mercolintschurz)ハ九〇%ノ水銀
ヲ含有スル軟膏ヲ充分ニ平等ニ飽和セシメタル木綿ニシテ第一號ニ
ハ一〇〇(七十五錢)第二號ニハ二五〇(一圓二十五錢)第三號ニハ五〇〇
(二圓)ヲ飽和セシメ小兒用ニハ別ニ五〇ト一〇〇ヲ飽和セシメタル二
種アリ(共ニ七十五錢)用法ハ患者ヲシテ日夜之レヲ胸上ニ凝着セシム
ルニアリテ然ルモハ水銀ハ蒸氣トナリテ吸入セラル應用後口内炎、流
涎ヲ起シ又尿中ニ水銀ヲ證明シ得ルヨリ見レバ本品ノ効價アルヤ明
カニシテナイセル氏ハ氏ノ所謂副療法ニ適スト云ヘリ

C クロマイエル氏ノ「メルカラトール」(Merkalator)

「クロマイエル氏
「メルカラトール」

此装置ハ一種ノ吸入假面 (Inhalationsmaske) ニシテ一九〇八年クローマ
 イエル氏ガ水銀ハ水銀蒸氣トシテ呼吸器ヨリ吸収セラル、モノナリ
 テフ説(リンドフライシ、フライセル、レーリク、ユリユース、ベルヒ)ヲ基礎
 トシタルマン氏ノ水銀鼻腔塗布法、及ビクロンキスト氏ノ水銀吸入
 療法ヲ改良シテ得タル一種ノ水銀吸入 (Quecksilber Inhalation) 装置ニシテ



氏ルエイマーロク
 「ルートラカルメ」

メ其粘膜ヨリ直接ニ水銀ヲ體中ニ吸收セシメントスルニアリ、ベン
 ト、ヒ氏ガ二十名ノ微毒患者ニ試ミクル成績ニヨルニ全ク他ノ全身療法
 又ハ局部療法ヲ加ヘザル場合ト雖扁平「コンジローム」(Condylomata lata)
 ハ凡ツ十六日乃至廿日間ニ全治シ輕症發疹ハ五日乃至六日間ニ重症

其構成ノ主點ハ上下二重ノ(凡ソ
 五日間使用後上下ヲ取り換ヘ再
 ビ五日間使用シ得)水銀五・〇ヲ塗
 抹セル「ムール」(Mulle)ヨリ成リ之レ
 ヲ圖ノ如ク裝ヒ口鼻腔ヲ通ジテ
 水銀蒸氣ヲ呼吸器内ニ吸入セシ

績
 ベン
 テイ
 ヒ氏
 ノ成

績
 ツア
 イス
 ル氏
 ノ成

著者ノ實驗

適應症

ナルモノト雖二週乃至三週ニシテ完全ニ吸收消散シ就中微毒性、アン
 ギナ」(Angina luetica)ノ如キハ僅カニ四日ニシテ治ニ向ヒ八日ニシテ
 完全ノ治癒ヲナスト而シテ本療法ヲ行フニ當リ最モ願慮セラルベキ
 水銀口内炎 (Stomatitis mercurialis)ハ二十例中只ダ僅ニ一名ニノミ稍々
 重症ナルモノヲ見タルノミナリト云ヘリ又ツアイスル氏ハ包皮龜頭ノ
 「ゴム」腫ニ塗擦療法ヲ行ヒ効ナカリシ際、メルカトラールヲ用ヒテ却テ
 効アリタリト報ゼリ然レモ著者ガ十數名ノ患者ニ試ミタル所ニ由レ
 バ之レヲ注射療法ニ比シ又塗擦療法ニ對比シ未ダ劣レリトモ勝レリ
 ト云フ能ハザルモノ、如シサレドベンテイヒ氏ガ云ヘルガ如ク微毒性
 「アンギナ」患者ニハ比較的善良ニ奏功セリ想フニ之レ水銀蒸氣ガ全身
 的ニ作用スル外特ニ咽頭ニ對シテ局所的ニ働キ直接「スバル」リ「ダ」若
 クハ其病毒 (Virus)ヲ滅弱セシムル故ナランカ蓋シ其全身療法トシ
 テ其効驗ノ著シカラザル未タ以テナイセル氏ノ主療法 (Hauptkur)ニ
 適スト云フ能ハザルモ所謂副療法 (Nebenkur)トシテ治療ノ第二年以
 後ニ於テ再發症狀ナキ場合ニ用ヒ又ハ特ニ「アンギナ」症狀アル場合ニ

撰用シ得テ妙ナルモノナランカ本器ハ獨國ハンプルヒノ「バイエルド
ルフ」商會ヨリ發賣一個一圓セラル、モ今ヤ既ニ我國ニモ輸入セラレ
アリ

四、注射療法 Injectionsbehandlung

注射療法ヲ分チテ皮下注射療法 (Subcutane Injectionscur) 靜脈内注射療法
(Intravenöse Injectionscur) 筋間注射療法 (Intra-muskuläre Injectionscur) ノ三法ニ區
別ス

A 皮下注射療法 Subcutane Injectionscur

皮下注射ノ開祖ハヘブラ、スカレンチヲ、ベルケレー氏等ナルモ之ヲ専門的
ニ應用シ其學術ヲ發達セシメタルハレウイン氏(一八九七年)ナリトス後ニ
至リテクラツメル、バンベルケル、リーブライヒ、ウオルフ、スイルノフ、ストウ
コーウエン、コーナイセル、ドレーレ、ポント、ワットラ、スツェウス、キー、バルツェル
ユリエン、アラジヨウ、ウールマン、ルカジウ、ツマン、キーウ、イツ等ノ諸氏ニ

皮下注射法

由リ盛ンニ用ヒラル、ニ至リタルモ皮下ニ注射スルキハ疼痛激シク且
ツ屢々「アブセス」ヲ形成スルヨリ後ニ至リテハ其注射藥ノ溶解性タルト
不溶解性タルトヲ問ハズ主トシテ筋間ニ注射スル方法ヲ撰ブニ至リ今
ヤ唯溶解性水銀ノ場合ニ時トシテ稀ニ皮下ニ行ハル、コトアルノミ

B 靜脈内注射療法 Intravenöse Injectionscur

靜脈内注射方法

靜脈内注射ハ主トシテ「バッチェリー」氏ノ推奨セル方法ニシテ昇汞液ヲ上
肢又ハ下腿ノ靜脈内ニ注射スル法ナリ其法先ヅ局部ノ皮膚ヲ消毒シ靜
脈ヲ中心部ニ於テ壓迫怨張セシメ千倍ノ昇汞水一立方「センチメートル」
ヲ充タセル注射器ノ針ヲ靜脈内ニ刺入シ注射ト共ニ中心部ノ壓迫ヲ除
去シ靜カニ且ツ極メテ除々ニ靜脈ニ注入スルニアリ此際若シ誤テ靜脈
内ニ注射シ能ハザルトキハ皮下ニ浸潤ヲ起シ疼痛ヲ感ゼシムルヲ以テ
容易ニ其成否ヲ識別シ得ベシ而シテ注射後ハ沃度吻「コロジューム」(Jodform
collodium) ヲ塗り或ハ沃度吻「ガーゼ」ヲ置キ防腐的縋帶ヲ施セバ可ナリ
注射量ハ千倍乃至二千倍ノ昇汞液一立方「センチメートル」ヲ普通トスル

全身療法

二五七

吸收速ニシテ排泄亦速カナリ

ヲ以テ一回ノ昇汞注射量ハ一—二ミリグラムニ相當ス時ニハ增量ノ一日〇〇〇八ニ至リ重症ナルモノニハ初メヨリ〇・二%ノモノヲ〇〇〇四—〇〇〇五注射スルコトアリブラシユコー氏ハ〇〇〇六迄增量シ得タリト云ヘリ注射後ハ未ダ一二分時ナラザルニ既ニ早ク礦味ヲ感ジ五六分ノ後チ流涎ヲ起スコトアリ而シテ尿中ニハ凡ソ一時間ノ後已ニ水銀ヲ證明スルニ至ルモノニシテ本法ハ直接靜脈内ニ注射スルモノナルヲ以テ之ヲ淋巴系ヲ通ジテ吸收セラル、他ノ注射ノ場合ニ比シ其吸收早キヲ長所トスルモ從テ其排泄甚ダ速カナル短所ヲ有スルヲ以テ腦微毒ノ如キ非常ニ急ヲ要スル場合ニ救急ノ驅微療法トシテ應用セララルベシト雖強力ナル持續的療法トシテハ不適當ニ且ツ一面ニ於テハ不利益ナル危険ヲ來スコトナキニアラザルヲ以テ今日殆ンド賞用セラレザルニ至レリ

C 筋間注射療法 Intramuskuläre Injectionscur

筋間注射療法

筋間注射療法ニ用ヒラル、水銀劑ニ溶解性ナルモノト不溶解性絶對的

甲、溶解性鹽ノ注射
乙、不溶解性鹽ノ注射

ニ不溶解ナルニアラズ只ダ溶解ノ困難ナルヲ意味スナルモノトノ二種アリ前者ヲ溶解性鹽ノ注射 (Injection löslicher Salze) ト云ヒ後者ヲ不溶解性鹽ノ注射 (Injection unlöslicher Salze) ト云フ

甲 溶解性鹽ノ注射 Injection löslicher Salze

甲、溶解性鹽ノ注射

千八百六十一年ヘブラ氏ニヨリ初メテ昇汞水ノ注射行ハレ後チレウイン氏ニ至リ汎ク學術的ニ實施セラル、ニ至レリ然レモ之等諸多ノ氏ニヨリ行ハレタル注射法ハ多ク皮下注射ノ式ニ則リ行ハレタル方法ニシテ從テ疼痛甚ダ激シク時ニ膿瘍ヲ生ジ患者ヲ苦メタルコト尠ナカラザリシヲ以テ後ニハ筋間注射式ヲ取ルニ至リ茲ニ初メテ其害ヲ避ケ得ルニ至レリ溶解性水銀劑ハ其水銀含量少ナキト溶解性ナル丈ソレ丈吸收ノ速カナルト共ニ亦其排泄速カナルヨリ其効力ノ持續不溶解性鹽ニ及バズ假令毎日注射スト雖水銀ノ遺殘 (Residuum) 少ナクシテ其力繼續スルナキヲ短所トスルモ亦不溶解性鹽ニ比シ其吸收ノ速カナルヨリ急ニ水銀ノ効力ヲ要スル場合ニ適用セラレ速ニ急症狀ヲ消散セシメ得ベキ利アリ

適用

著者ハ急症ノ溶解性ニ至ル迄ノ散スルニ至ルヲ行ハシメテ注射スルヲ行ハス

水銀「アルプミナ
ト」
水銀「ペプトン」

ルヲ以テ著者ハ好シク混合下疳ニ侵蝕性ノ甚ダシキ者包皮尿道内ノ硬性下疳若クハ疳頓包莖 (Paraphimosis) 顔面ノ發疹聲音視力等ノ消滅セントスルガ如キ際或ハ流産ノ徵候アル時ノ如キ凡テ急ヲ要スル場合ニ一時溶解性鹽ノ注射ヲ行ヒテ其症狀ヲ阻止シ後チニ續テ不溶解性鹽ノ注射ヲ行フヲ費用ス實驗ニヨレバ一%ノ昇汞食鹽水注射ハ之ヲ腎筋内ニ施スキハ婦人ト雖能ク容易ニ其苦痛ニ耐ヘ毎日左右臀部交代ニ一〇宛注射スルトセバ七日乃至八日ニシテ効顯現ハレ十日ニシテ其効充分ナルヲ認ム之レヲ楊朮注射一週二回トシテ行ヒ同様ノ効果ヲ得ルニ五回ノ注射即チ十七日間ヲ要スルニ比スルニ時日ニ於テ七日早キノ利アリサレド其効ノ一過的ナル前ニ云ヘルガ如シ宜シク急症ノ消散ニ傾クアラバ直チニ不溶解性銀劑ノ注射ヲ開始繼續シ以テ其効ヲ永久的ナラシメザルベカラズ溶解性水銀劑ニシテ今日迄ニ使用セラレタル者其種類甚ダ多シ今其重ナル者ヲ擧グレバ
水銀「アルプミナト」 (Quecksilberalbuminat) ハスタウブクリングウルト、バンベルゲル氏等ノ費用セル者ニシテ又バンベルゲル氏ハ水銀「ペプトン」

血清水銀
水銀「フォルムア
ミッド」

水銀「ビチアヌ
ト」

「クロモニユー
ムペプトン」水銀
硝酸水銀「チキシ
テニール」

安息香酸水銀

「ズチニミッド」水
銀注射法

(Quecksilber peptonatum) ヲ費用セルモ其ニ其作用弱クシテ効少ナシ

其他血清水銀 (Blutserumquecksilber) 水銀「フォルムアミッド」 (Quecksilberformamid)

用ヒラル後者ハ速カニ排泄セラレ僅カニ有力ニ作用ス前者モ速カニ作用スルモ時トシテ烈シキ疼痛ヲ起スノ不利アリ尙ホ他ニ水銀「ビチアヌト」 (Quecksilber bichyanuratum) 「クロモニユームペプトン」水銀 (Chlornammonium Peptonquecksilber) ヲ用ヒタルコトアリワイスフロク氏ハ硝酸水銀ヲ

キシデ「ール」 (Salpetersäures Quecksilberoxydul) ヲ十日—十二日間初期硬結及ビ鼠蹊腺ニ注射シ其他醋酸、乳酸水銀「キシデ「ール」 (Essigsäures und milchsäures Quecksilberoxydul) 及ビ安息香酸水銀 (Benzoensäures Quecksilber) 等注射用トシテ用ヒラルタルモノ其種類甚ダ多シ

「ズチニミッド」水銀 (Sucinimid Quecksilber) 注射法

ツァイスル氏ハ常ニ不溶解性水銀劑ノ注射ニ反對シ殊ニ其偶發症ヲ忌ム人ナルガ氏ハ強力ノ注射ヲ必要トスル場合ニハ「ズチニミッド」水銀 (Sucinimid Quecksilber) ヲ愛用セリ

ズチニミッド水銀

〇五

昇汞注射法

コカイン 〇・二
餾水 一〇〇

右一週一回臀部内注射

昇汞 (Sublimat) 注射法

ツァイスル氏ハ昇汞ニアルコールヲ混ズルハ疼痛ヲ輕減セシムトテ
次ハ注射液ヲ費用ス

昇汞 一〇〇
再餾酒精 〇・五
食鹽 〇・五
餾水 一〇〇〇

右一日一回臀部内注射

レウイン氏ノ昇汞 (Sublimat) 注射法

昇汞 〇・一
食鹽 一〇〇
餾水 九〇〇

「ゾツオ」沃度水銀注射法

右一回一筒ヲ毎日又ハ隔日臀部内ニ注射ス

「ゾツオ」沃度水銀 (Hydrargyrum sozodolicum) 注射法

シユウインメル氏ハ次ノ注射液ヲ費用ス
ゾツオ沃度水銀 〇・八
沃度加里 一・六
餾水 一〇〇

右一週一回計五回乃至六回注射ス(一〇〇凡ツ時價七十錢)

青酸化汞 (Hydrargyrum Oxycyanatum) 注射法(ヒルシュ氏法)

青酸化汞 一〇〇
アコイン 〇・五
餾水 一〇〇〇

右毎日一筒若クハ隔日一筒(時價凡ツ一〇〇〇一圓二十五錢)

ヒルシュ氏ノ費用スル所ニシテ局部ニ疼痛ヲ與フルコトナク且ツ中
毒症狀ヲ起サズト我が國ニ於テモ遠山大野木田氏等ノ好結果ナル報
告アリ著者モ右注射液ノ昇汞ニ比シ疼痛ヲ與フルコト少キヲ認ムルニ

青酸化汞注射法

青酸汞

客ナラズマイエル氏ノ報告セル青酸汞 (Hydrargyrum cyanatum) ハ次ノ處方ニ從テ行ハルベキモ青酸化汞ニ比シテ中毒症狀多キヲ以テ賞用セラレズマイエル氏ハ九十五人ニ就キ良結果ヲ得タリト云ヒマグドナルド氏モ之ニ贊セルモ我國ニ於テハ百瀬氏ノ三十一人ノ患者ニ試ミタル成績ニヨレバ十一人ニ裏急後重下血赤痢様症狀ヲ發セリト

第一液

青酸汞

一・〇

一% 硼酸水

三〇・〇

第二液

アコイン

〇・四

一% 硼酸水

七・〇

右第一第二液ヲ混和シ一日一筒乃至二筒

「エネゾール」(Encsol) 注射法

「エネゾール」注射法

「エネゾール」

二・〇

餾水

一〇・〇

右毎日一筒(〇・〇二)ヲ注射ス

「エネゾール」ハ三八・四六%ノ水銀一四・四%ノ亞砒酸ヨリ成リ中毒スルコト少ナク其効顯著ナリ水銀排泄ハ注射後程ナク始マリ二時間ニ至リ最高度ニ達シ廿四時間後徐々ニ消滅スコイクチット氏ノ實驗ニヨレバ八百回ノ注射ニ於テ殆ンド疼痛ヲ感ズルモノナク平均二十乃至三十回ノ注射ニヨリ効顯アリトプレトン、ゴールドスタイン氏等モ其便利ニシテ中毒ノ危險ナキヲ云ヘリ著者モ之レヲ十名ノ患者ニ試ミ一日〇・〇二ニテ更ニ中毒セル者ヲ認メザリシ水銀ノ効力トシテハ昇汞ノ水銀含量七三・八〇%ニ對シ「エネゾール」ハ只ダ僅ニ三八・四六%ニ過ギザルヲ以テ其効昇汞ニ及ブクモアラザルモ亞砒酸ヲ含ムヲ以テ強壯的ノ作用アリ貧血性殊ニマラリヤ後等ハ微毒患者及ビ營養不良ナル微毒患者ニ用ヒラレ良効ヲ與フ

「ヘルモフェニー」

「ヘルモフェニー」(Hemopheny) モート氏等ヨリ用ヒラレ良効アリタリト一〇%ノ液ニ製シ注射用トシテ一立方センチメートルヨリ始メ時ニ〇・一五ノ含量ニ迄至ルコトアリ

「アズロール」注射法

「アズロール」(Asuro)注射法

最近ナイセル氏ノ報告セルモノニシテ四〇・三%ノ水銀ヲ含ミ比較的濃厚%ニ製シ用ヒ得ベキヲ以テ多量ノ水銀ヲ注入シ得ル利アリ則チ一%ノ昇汞一箇中ニハ水銀〇・〇一四八ヲ含ムニ對シ五%ノ本液一箇ハ〇・〇二三箇ナレバ〇・〇六ヲ注入シ得ル割合ナリ而カモ局所疼痛輕微ニシテ奏功速カニ且ツ容易ニ症候ヲ消散セシムルハ長所アリト蓋シ再發症ニ對シテハ其力足ラズ又強力療法ニ適セザルヲ以テ灰白油療法ト相俟テ利用スレバ蒙ル利益多カルベシ不溶性性鹽ニ比シテハ其貯蔵(Depot)ヲ形成セザル點ニ於テ利アリナイセル氏ハ昇汞ノ如ク蛋白化ヲ行ハズ且ツ排泄道ハ主トシテ腸ヨリスト云ヘリ處方ハ次ノ如シ(三〇・〇凡ソ七十五錢)

アズロール

五〇

餽水

一〇〇〇

右一日一箇乃至三箇注射用

不溶性性鹽注射ノ利益ニ三アリ

乙 不溶性性鹽注射 Injection unlöslicher Salze

現時最モ費用セラル、方法ニシテ殆ハ塗擦療法ヲ凌駕スル勢アリ之レ其應用(一)便利ニシテ外來患者ニ對スルト(二)毎日行フノ繁雜ナク一週一回若クハ一週二回行ヘバ足り(三)注射セル分量ハ日ヲ經ルニ從テ自ラ確實ニ吸收セラル、以上三點ノ利アレバナリ蓋シ其初メ注射法ノスカレンチヲ氏ニ由リ開始セラレタリシ當時ニ於テハ主トシテ皮下注射ノ式ニ則リ行ハレタリシヲ以テ疼痛烈シク又「アプセス」ヲ發スルコト稀ナラズ爲メニ誹謗ノ聲甚ダ高カリシガスミルノフ氏筋肉内注射ノ法ヲ開始スルニ及び其誹謗ハ變ジテ嘆賞ノ聲トナリ今ヤ我が國ニ於テ最モ費用セラル、方法トナルニ至レリ(英佛米ニ於テハ比較的盛ナラズ)甘汞(Calomel)ハ最モ早クスカレンチヲ氏ニヨリ用ヒラレ亦往時ヨリ費用セラル、藥劑ナリト雖モ其疼痛大ニ浸潤著シク「アプセス」形成ノ傾キアルハ之ヲ楊汞ニ比シ欠點トセザルヲ得ズ然レドモ其効ノ有力(Finegisch)ナルハ能クナイセル氏ノ主療法ニ適ス

甘汞

楊汞

ヨセーフ氏ノ無痛注射液

右一週一回一筒臂筋内ニ注射ス
日本人ニハ一週二回トシ半筒宛注射スルヲ賞用スル人多シ

ヨセーフ氏ハ次方ヲ推奨セリ

楊汞 〇・一
新オルトフォルム 〇・一
流動バラフィン 一・〇

右一週一回一筒臂筋内ニ注射ス

純甘扁桃油 一〇〇
甘汞 五〇
食鹽 五〇
アラビヤ護膜漿 二・五
餛水 五〇〇

右用法前方ニ同ジ

甘汞 五〇
流動バラフィン又ハワゼノール 五〇〇

右用法前方ニ同ジ

楊汞 (Hydrargyrum Salicylicum) アランジョウ氏ニ始マリ今ヤ最モ盛ニ用ヒラル

楊汞 五〇
流動バラフィン 五〇〇

ヨセーフ氏ノ無痛注射液

右一週一回一筒宛(一週二回半筒宛ニテモ可ナリ)注射ス

新。オ。ル。ト。フ。オ。ル。ム。ハ不溶解性ニシ且ツ末梢神經ヲ幾分麻痺セシムル作用アルヲ以テ不溶解性水銀劑ト混ジテ長ク局所ノ知覺過敏ヲ防グ効アリ所謂溶解性水銀劑ノ青酸化汞加アコイン劑ニ對シ不溶解性水銀劑ノ無痛性注射液ヲナス然レモ新オルトフォルムヲ加フルキハ其液甚ダ粘稠トナリ注射ニ困難ヲ感ズルヲ以テ自然注射針ヲ太カラシムルヲ要シ從テ注射時ノ疼痛ヲ大ナラシムル欠點アリ且ツシユミッド氏等ヨリ新オルトフォルム中毒ノ報告アリタル以來餘リ盛ニ用ヒラレザルニ至リ近時西歐雜誌ニモ此種ノ報告殆ンド其

楊汞 〇・一
新オルトフォルム 〇・一
流動バラフィン 一・〇

右一週一回一筒宛(一週二回半筒宛ニテモ可ナリ)注射ス

新。オ。ル。ト。フ。オ。ル。ム。ハ不溶解性ニシ且ツ末梢神經ヲ幾分麻痺セシムル作用アルヲ以テ不溶解性水銀劑ト混ジテ長ク局所ノ知覺過敏ヲ防グ効アリ所謂溶解性水銀劑ノ青酸化汞加アコイン劑ニ對シ不溶解性水銀劑ノ無痛性注射液ヲナス然レモ新オルトフォルムヲ加フルキハ其液甚ダ粘稠トナリ注射ニ困難ヲ感ズルヲ以テ自然注射針ヲ太カラシムルヲ要シ從テ注射時ノ疼痛ヲ大ナラシムル欠點アリ且ツシユミッド氏等ヨリ新オルトフォルム中毒ノ報告アリタル以來餘リ盛ニ用ヒラレザルニ至リ近時西歐雜誌ニモ此種ノ報告殆ンド其

「チモール」水銀

跡ヲ斷テリ飯田氏ハ注射回復三十回ニ至リ新「オルトフォルム」全量一・五ニ達セルモノ數名ニ就キ更ニ中毒症狀ヲ認メザリシヲ報ゼリ
「チモール」水銀 (Hydargyrum thimolicum) ハナイセル氏ノ賞用スル處タリ(時價凡ソ一〇〇五十錢)

チモール水銀

一〇〇

流動パラフィン

一〇〇〇

右一週一回一筒注射(一週二回半筒宛ニテモ可ナリ)

安息香灰白油

安息香灰白油 (Oleum cinereum benzoinatum) ハナイセル氏ガラング氏法灰白

油ノ腐敗シ易キヲ憂ヒ之レガ改良ノ目的ヲ以テ製作セルモノナリ二十分ノ水銀ニ五分ノ安息香「エーテル」ヲ加ヘ其「エーテル」ノ蒸發スルヲ待テ四十分ノ「パラフィン」ヲ混シ製ス水銀含量ハ三分ノ一量ニシテ恰カモラング氏ノ弱灰白油ニ相當スル性質ヲ有ス五乃至十日毎ニ〇・二ヲ注射ス灰白油 (Graenol) ハラング氏以來今尙ホ獨逸ニ於テハ比較的盛ニ用ヒラル本劑ハ其性質ヨリ云フキハ溶解性ト不溶性トノ中間ニ位スルモノニシテ水銀ハ極メテ微細ニ脂肪中ニ分配セラレ水銀含量ハ多キ丈ケ其

灰白油

強灰白油

効カ甚ダ顯著ナリ然レドモ中毒ヲ來シ易キハ其缺點トセザルヲ得ズラング氏ハ之レヲ強弱ノ二劑ニ區別セリ

強灰白油

水銀

一〇〇

ラノリン

五〇

ワリーブ油

五〇

弱灰白油

水銀

三〇

ラノリン

三〇

ワリーブ油

四〇

弱灰白油

注射法

強灰白油ハ二分ノ一ノ水銀ヲ含ミ弱灰白油ハ凡ソ三分ノ一ノ水銀ヲ含有スル割合ニシテ強灰白油ノ〇・二中ニハ〇・五ノ水銀ヲ含ミ弱灰白油ノ〇・二中ニハ凡ソ〇・七ノ水銀ヲ含ム右灰白油ハ共ニ室温ニテハ固形状態ヲナスヲ以テ用時之レヲ加温シ強劑ハ〇・二ヲ弱劑ハ〇・二ヲ注射ス而シテ使用後ハ直チニ亦之レヲ冷却シテ固形状態ニ復セシムラング氏ニ

ガイヤル氏法

ヨレバ二日ニ一回宛三週間ヲ通ジテ行ヒ、二三週ノ間歇後再び反覆シ行
フト而シテ部位ハ背部ノ皮下ニ深ク注入スルヲ常トスルモ其部位ハ必
ズシモ背部ニ限ルニアラズ臀部ニテモ可ナリ

ガイヤル氏ハ十瓦ノ「ワリー」油ヲ煮沸シ之レヲC氏四十度迄冷却シ
之ニ三三・三分ノ一ノ水銀「ミチン」軟膏「クレウエル」會社製三〇・〇ヲ混ジ
能ク振盪シテ五乃至七日毎ニ四分ノ一乃至二分ノ一筒注射スルキハ
疼痛少ナクシテ可ナリト云ヘリ

ノーブル氏法

ノーブル氏ハ四十%ノ「ワゼノール」灰白油ヲ費用ス

チーレル氏法

チーレル氏ハ次ノ製劑ヲプレスラウ大學ノ皮膚科クリニックニ於テ
用ヒ疼痛少ナク且ツ善良ノ結果ヲ得タリト

水銀

四〇・〇

殺菌ラノリン

一二・〇

殺菌ワゼリン

一三・〇

殺菌流動パラフィン

三三・〇

右加温振盪シ一回ノ注射水銀量〇・〇七乃至〇・一四ニ至ル

注射部位

グロウズ氏ノ注射部位

其他赤降汞 (Hydrargyrum oxydulatum rubrum) 黄降汞 (Hydrargyrum oxydulatum flavum) 黑降汞 (Hydrargyrum oxydulatum nigrum) 鞣酸水銀 (Hydrargyrum tannicum) カ
ルボール水銀 (Hydrargyrum carboicum) 赤色沃度汞 (Hydrargyrum iodatum rubrum)
黄色沃度汞 (Hg. iodatum flavum) チモールアセチン水銀 (Hg. thymolo-aceticum)
「レゾルチノアセチン」水銀 (Hg. resorcino aceticum) 等用ヒラル

注射部位 (Injectionsstelle) 灰白油ノ如キ少量ノ注射ニテ足レルモノハ背部ニ
行ヒ得ベシト雖普通臀部ヲ撰ブヲ可トス臀部ハ主トシテ大臀筋内ニ注
射スルニアリテ可成神經血管ノ損傷ヲ避クルニ注意セザルベカラズ若
シ誤テ靜脈内ニ注射スルキハ直チニ腫エンボリ「」ヲ起シ患者ニ苦痛ヲ
與フルニ至ルヲ以テ一定ノ部位ヲ撰ブヲ要ス「グロウズ氏」ハ注入試験ヲ行
ヒ其成績ニヨリ次ハ如キ部位第十五圖ヲ見ヨ「」ヲ指定セリ

左右兩坐骨結節ヲ通ズル想像線(1)ヲ畫キ之レニ平行シテ左右大轉
子ヲ結合セル(2)線ヲ引キ又大轉子(A)ト坐骨結節トノ折半點(B)第十
四圖ヲ見ヨヨリ坐骨結節ヨリ鉛直ニ上行セシメタル線(EC)ニ平行
ニ第三線(3)ヲ劃キ第二線ト第三線トノ交叉點ハ内上方(D)部ニ注射

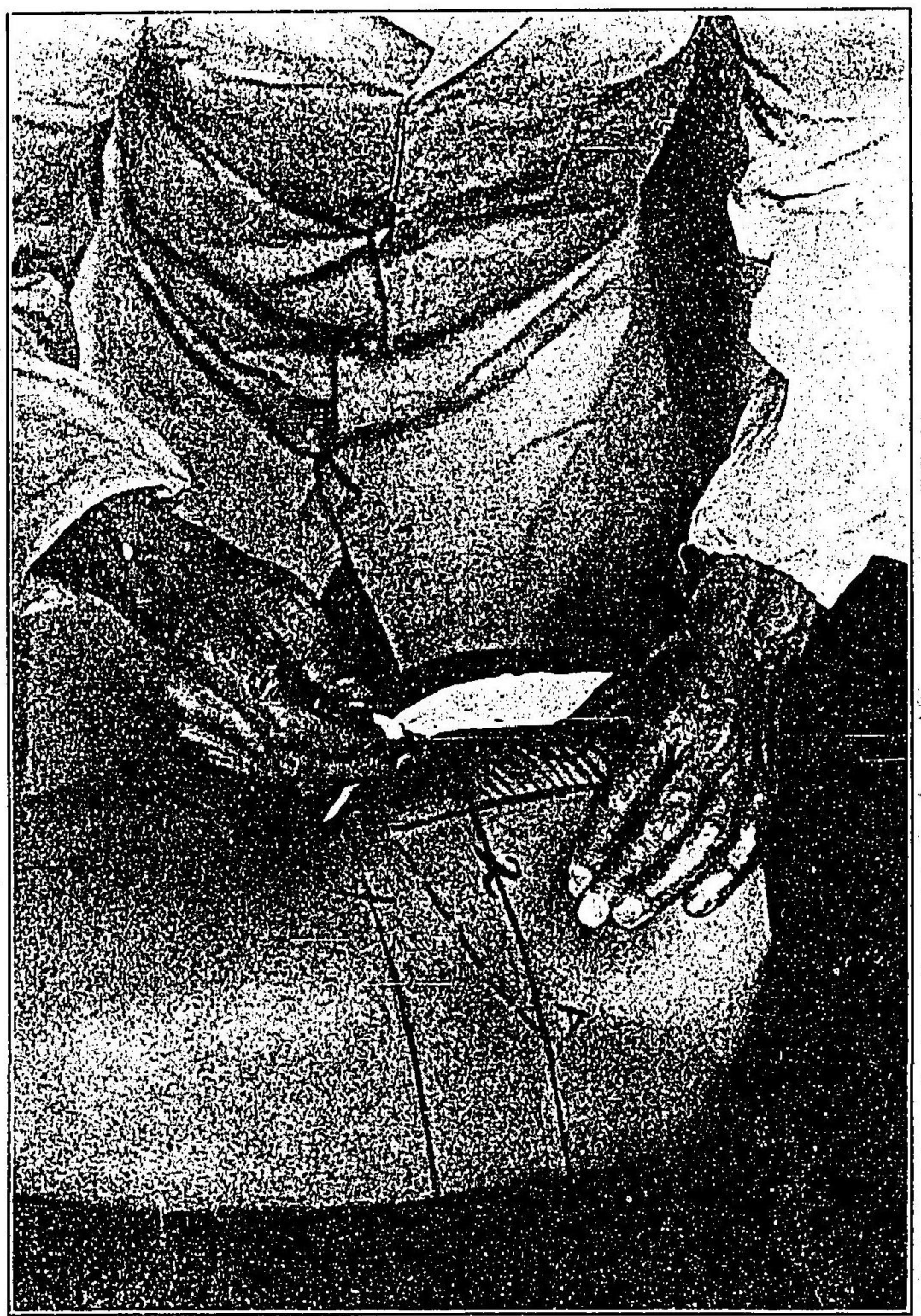
「肺エンボリー」ノ豫防法

注射方法

グロックス氏ノ注射部位ハ持續反覆シテ注射スルニ其部分餘リニ狭ク而モ硬結部ニ注射スルキハ吸收愈々不良ニシテ遂ニ營養廢滅ニ次デ硬結部ノ壞死ヲ來サシムルヲ稀ナラズ且ツ時ニ血管増生ノ結果出血或ハエンボリーヲ發スル動機ヲ多カラシムルヲナキニ非ザルヲ以テ著者ハグロックス氏ノ部位以外ニ注射ヲ必要トスル場合ニハ可成氏ノ部ヨリ外方ニ偏接シテ注射スル方針ヲ取レルガ未ダ曾テエンボリーヲ起サシメタルコトナシ然レモ若シ内方殊ニ上方ニ偏シ行フトキハエンボリーヲ發セシムルヲ多ク且ツ下方ニ偏セバ神經障害ヲ起サシムル憂多シ

注射方法 (Injectionsmethode) 術者熟練セザル間ハ先ヅ患者ヲシテ臀部ニ力ヲ加ヘシメ大臀部ヲ收縮膨隆セシメテ其臀部ノ位置ヲ確認シ注射スルヲ良トス而シテ已ニ適當ノ部位ニ注射針ヲ刺入シ得タルキハ患者ヲシテ臀部ノ收縮ヲ止メシメ弛緩ノ状態ニ復セシメ靜カニ注入ヲ開始スベシ注射スルニハ先ヅ注射ニ先シテ一應シエツヘル氏ノ式ニ從ヒ吸子ヲ少シク後退セシメ以テ血液ノ逆入シ來ルヤ否ヤヲ檢シ若シ血液來ル

四十圖





注射ノ方向

片ハ他部ニ換ヘ來ラザル片初メテ茲ニ注射藥ノ注入ヲ開始スルヲ安全トス或ハレッセル氏法ニ從ヒ注射針ノミヲ殘シ注射針孔ヨリ出血スルヤ否ヤヲ檢シ其出血セザルヲ認メテ注射スルモ可ナリ注射ノ方向ハ臀筋ニ對シ直角ナランヨリハ寧ロ大臀筋纖維ノ方向ニ沿ヒ外上方ヨリ内下方(第十四圖ノ如ク)ニ刺入スルヲ可トス之レ血管神經ヲ損スルコト少ナク且ツ筋纖維ヲ損セズ注入セラレタル注射藥ヲシテ筋纖維間ニ比較的善良ニ貯留セシメ得ベケレバナリ熟練セル者ハ特ニ左手ヲ以テ臀筋ヲ強く握ルノ必要ナキモ初メノ間ハナルベク深く強ク臀筋ヲ握リ第十四圖ハ如ク固定スルヲ可トス又注射後ハ輕ク按摩シテ其藥液ノ貯留ヲ圓滿ニシ吸收ニ便ナラシメ注射口ニ絆創膏ヲ貼ス皮膚ノ消毒ハ一般消毒法ニ從ヒ嚴重ニ消毒スベキヲ要スルモ日常アルコトハ消毒ニテ足レリ

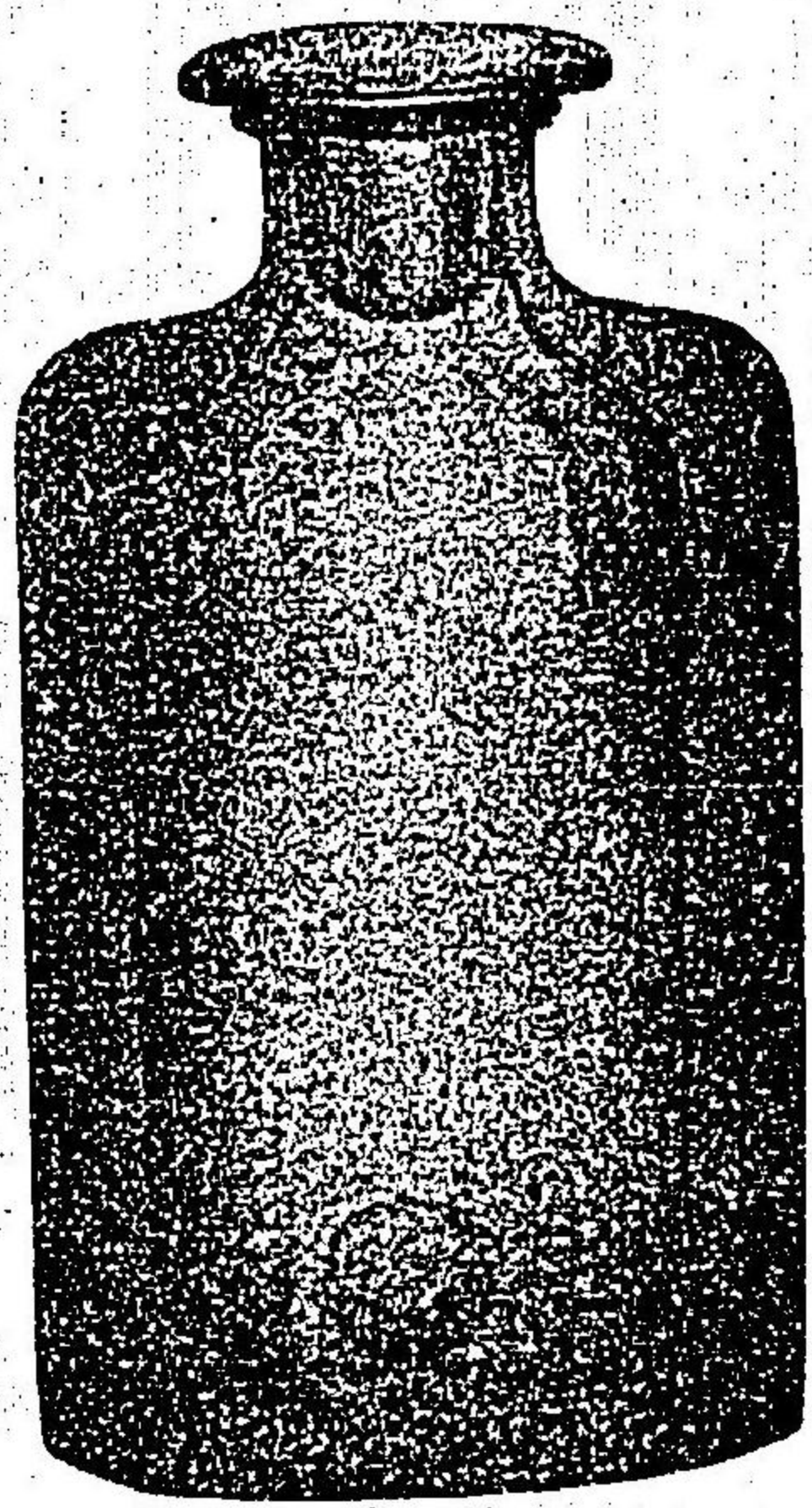
注射器 (Injectionsapparat) ハ内容ニ瓦入(半筒注射ニハ一瓦入ニテ可ナリ)ニシテ全部硝子製ナルヲ良トシ注射針ハ稍大ニシテ長キモノヲ可トス然レドモ餘リ大ナル時ハ注射時ノ疼痛大ニ餘リ長ケレバ使用ニ便ナラズツァイスル氏ハ六センチメートルヲ要スト云ヘルモ日本用ニハ四、五

注射器
注射針

保存

「セシチメイトル」アハ足レリ、而シテ材料ハ可成的彈力ニ富ミ容易ニ折斷セザルモノヲ必要トスルヲ以テ白金製ヲ最モ可トス然シ普通ハ鐵製ノ生燒ニテ可ナリ其保存ニハ「シヤーレー」内ニ「バラフ」ヲ吸收セシメタル脫脂綿ヲ置キ之ニ針ヲ穿刺シ蓋ヲ被ヒ置クヲ良トス近時「レーデルマン」氏ハ硝子皿内ニ金屬性ノ二房ヲ有スル保存器ヲ製シテ公ニセリ

圖六十第



不溶解性銀劑注射用壺

注射用壺トシテ著者ハ常ニ第十六圖ノ如キ中ニ硝子球ヲ有シ底ノ弓狀ヲナセルモノヲ賞用ス之レ不溶解性銀劑ヲシテ容易ニ遺憾ナク「バラフィン」等ト親密ニ振盪混和

肺「エンボリー」

シ得ベケレバナリ(右壘ハ半田屋醫療器械店ニ於テ發賣セラル) 肺「エンボリー」(Lungenbolle)ハ注射後ニ來ル忌ムベキ偶發症ノ一ナリ然

統計

シ注射部ヲ撰ミ且ツ注射法ニ注意スル時ニ於テハ左程頻回ニ來ルモノニアラズボツス氏ノ統計ニヨレバ一萬三千六百七十一回(一千三百七十三人ニ就キ)中十五回即チ千九百一十一回ニ就キ一回ノ肺「エンボリー」ヲ認メエプスタイン氏ハ九百九十八回(百三十名ニ就キ)中一回ヲ算シ櫻根氏ハ土肥氏法著名ナル血管ハ主トシテ深部ニ存スルヲ以テ一旦深ク刺入セル針ヲ少シク引退シテ注射スベシト云フニアリニ從ヒ行ヒタル千二百二十一回中唯一回實驗セリト云ヒ木下氏ハ千五十一回中ニ三回即チ凡ソ五百回ニ一回認メタリト云ヘリ著者ハ既往五年間ニ於ケル注射回数六千三百八十四回中主トシテ楊永「バラフィン」ヲ用ヒ一週二回半筒宛腎筋ニ注射セリ六回即チ千〇六十四回ニ對シ一回ノ劑ニ認メリ而シテ著者ノ實驗セル回数六回中二回ハ同一ノ患者ニ反覆シ來レルモノニテ右患者ハ年齡廿八歳ノ男子營養中等ナレモ常ニ稍々貧血ヲ呈シ明治四十一年六月初メテ初期硬結ニ罹リ同年八月全身症狀發現ト共ニ直チニ楊永注射ヲ開始シ廿三回ニ至ル迄更ニ何等ノ偶發症ヲ見ルナク進行セシニ其腎部ノ浸潤硬結増加ト共ニ止ムヲ得ズ稍々内上方ニ偏シ注射ヲ行ヒ

著者ノ例

全身療法

二七七

グロツス氏ノ部位ニ至ラバ宜シクシテ注射スベシ

シニ注射後五分ニシテ喉頭部及ビ喉頭下氣管部ニ搔痒ノ感ヲ覺エ次テ咳嗽頻發胸内苦悶ヲ起シ少シク嘔氣ヲ催セシモ安靜就床セシメ胸部ニ冷濕布ヲ施サシメ冷水ヲ嚙下セシメタルニ凡ソ三十分ニシテ舊ニ復シ又苦痛ナキニ至レリサレド其日一日ハ胸内ニ異様ノ感アリ少シク頭痛ヲ覺エタルモ翌日ニ至リ全ク異狀ナキニ至レリト爾來ナルベク外方ニ偏シ注射ヲ持續セルニ異常ナク第廿七回ニ至リ所謂グロツス氏ノ部位ニ於ケル浸潤稍ヤ消散ニ傾キタルヲ以テ此浸潤部位ニ注射セルニ注射後凡ソ十分歸路ニ於テ又咳嗽頻發シ胸痛ヲ起シ苦悶ヲ覺ヘタルヲ以テ靜カニ路傍ニ休息セルニ凡ソ十數分ノ後チ快復スルヲ得タリト他ノ患者ノ四回中一回ハ婦人ニ三回ハ男子ニ來リ共ニ硬結浸潤ノ爲メ適當部位ヲ内方ニ偏シテ注射セル傾アルル若クハ硬結部ニ注射セル際ニ來レリ之レヲ要スルニ肺エンボリーナル偶發症ハ所謂グロツス氏ノ部位ヲ撰ブニヨリ防ギ得ルモノハ、如ク又假令浸潤硬結シテ注射部位ニ乏シクナリタル場合ニ於テモ之レヲ外方ニ避ケテ行ハトキハ比較的安安全全ニ行ヒ得ベキガ如シ之レニ反シテ内上方ハ最モ不良ニシテ又浸潤硬結セル部

肺「エンボリー」ノ症狀

其他ノ症狀

位ニ注射スルキハ假令其部位適當ノ位置ニアリト雖往々肺「エンボリー」ヲ偶發セシムルコト著者ノ例ニ於ケルガ如クナルベシ之レ想フニ血管增生ノ結果ニ因スルナラン之レヲ以テ若シ此ノ如キ場合ニ於テハ必ズシモ注射療法ヲノミ行ハザルベカラザルニモアラザレバ主療法トシテハ塗擦療法ヲ代用シ副療法トシテハ内服或ハ塗擦吸入法等其症狀及ビ其經過ノ如何ヲ考察シ其宜シキニ從ヒ行フベシ肺「エンボリー」症狀ハ多クハ場合一過性ノモノニシテ後害ヲ殘サザルヲ常トシ又危險症ヲ發スルコトナシト雖咳嗽胸痛ハ比較的著シクシテ殊ニ咳嗽ハ乾咳ニシテ強迫的ニ頻發スルヲ常トス著者ハ未ダ咯血ヲ來セル患者ニ遭遇セザルモ田中氏ハ四十五年ノ女及二十二年ノ女ニ一時性ノ咯血ヲ伴ヘルヲ實驗セリト云フ
發熱(一時性輕度)身心違和倦惰殊ニ注射側下肢ノ打タレタルガ如キ感等ヲ來シ時トシテ過敏ナルモノハ人事不省ニ陥ルナキニアラズ蓋シ此ノ如キハ稀ニシテ其他口内炎齒齦炎粘液下血便發疹等一般水銀中毒症狀ヲ來スナキニアラザルモ此ノ如キハ他ノ水銀劑ヲ使用セル場合ニ

神經痛及ヒ麻痺

於テモ來リ得ベキニテ特ニ注射療法ノ罪ト見ルベカラズ否ナ寧ロ反テ注射療法ニ比較的少キハ已ニ前ニ述べタルガ如シ然レモ溶解性水銀ノ注射療法ニ於テハ一度注射シタル藥物筋間ニ止マリ所謂貯窟(Depot)ヲ形成スルヲ以テ其中毒症狀ヲ發セル場合ニ直チニ爾後ノ注射療法ヲ中止スルニ關セズ其已ニ貯留セラレタル水銀ヨリ尙ホ中毒症狀ヲ續發シテ止マザルハ不利アルハ逃ルベカラザルハ事實ナルヲ以テ此ノ如キ場合ニハ注射部ノ皮膚ヲ切開シ外科的ニ注射窟(Injectionsherd)ヲ排除スルノ止ムヲ得ザルコトナキニアラズ之ヲ以テ注射療法ヲ開始セントスルハ始メニ先ヅ水銀ニ對スル特異關係ナキヤ否ヤヲ塗擦又ハ其他ノ方法ヲ以テ試験シ然ル後初メテ之ヲ開始スルヲ可トス

神經痛(Neuralgie)及ヒ麻痺(Lähmung)モ稀ニ來ルコトアリ旭氏ハ坐骨神經殊ニ腓骨神經ニ麻痺ヲ來セル二例(一例ハ昇汞注射一例ハ楊汞注射)ヲ實驗シ西洋ニハレウソン氏等ノ報告アリ之レ等ノ偶發症ハ主トシテ注射部ヲ下ニ偏セシムルニ因リ起ル者ニシテ必ズシモ神經ニ直接注射セズト雖其近圍ニ注射スルニヨリテモ壓迫又ハ腐蝕ノ爲メ輕キハ疼痛重キハ麻痺トシテ神經的障害ヲ起サシムルモノナリ

五 内服法 Innerliche Darreichung

内服法ノ欠點

内服法ハ使用セラレタル水銀劑ノ吸收不確實ナルヲ第一ノ欠點トシ消化器障害裏急後重様疼痛(Kolikartige Schmerzen)出血性下痢(Blutige Diarrhöen)ヲ來シ易キヲ第二ノ缺點トス之レ水銀劑ハ其何種タルト問ハズ皆其性峻下藥(Drasische Mittel)ノ性質ヲ有スルヲ以テ腸ヲ刺戟シ且ツ其消化器ノ機能如何ニヨリ常ニ同一程度ニ吸收セラレズシテ多クノ場合吸収甚ダ不完全ナルヲ常トスレバナリ之レヲ以テ内服法ハ重症ナル者ニハ勿論第二期症ノ頑固ナルモノニモ適セズ所謂ナイセル氏ノ主療法ニ用ヒ能ハザルモノナリフインゲル氏ハ第二期ノ潜伏期ノ如キ場合若クハ唯水銀劑ノ持續的應用ヲ必要トスル場合ニ應用シ得ベキモノナラント云ヘリ要スルニ内服法ハ今尙ホ英米佛及我國ニ於テ用ヒラル、ト尠ナカラズト雖其効力ノ不確實ナル點及ヒ胃腸障害ヲ起シ易キ點ヨリ之レガ應用ヲ一層制限スルノ必要ヲ感ゼズンバアラズ英國ニテハ青丸(Blue pills

英國丸

全身療法

ト名ケ又ハ英國丸 (Pillulae Britannicae) ト稱ヘ盛ニ内服ニ用ヒラレツ、アリト雖之レ純水銀ヲ材料トセルモノナレバ一層消化器障害ヲ與フルコト著シク其害多シト云フノイマン氏ハ青丸ハ効力徐々トシテ來リ而カモ不定ナリト排斥セリ現今内服藥トシテ用ヒラル、モノハ甘汞 (Kalomel) 比較的 最モ僅ニ峻下性ヲ有スツアイスル氏ハ咽頭部丘疹患者等ニ用フレバ全身療法以外局所的ニモ効アリト云ヒ次ノ散劑ヲ處方セリ

甘汞

〇・五

阿片

〇・一

乳糖

五・〇

右十包ニ分チ一日三包ヲ與フ用時決シテ「ラブラート」(Obolaten) ニ包ミ内服セシムベカラズ之レ粉末ヲ飛散セシメテ局部ニ附着セシメ昇汞トシテ其局部ニ作用セシムル目的ヲ妨グレバナリ

甘汞ノ最モ特有ナル効果ハ乳兒ノ遺傳微毒ニ於テ最モ著明ニ現ハル之レ乳兒ハ塗擦療法ヲ行フルハ濕疹ヲ發シ易ク注射ニハ疼痛ニ耐ヘザル

遺傳微毒兒ニ特效アリ

憾ミアリ且ツ膿瘍形成ニ傾キ易ク時トシテ營養不良ナル乳兒ニ於テハ往々致死スルコトナキニアラザルヲ以テ止ムヲ得ズ内服法若クハ水銀硬膏ノ使用ニ其治療ヲ求メザルベカラザレバナリ

甘汞

〇・一—〇・三

乳糖

二・〇

右十包ニ分チ一日一—三包

昇汞 (Sublimat) 大人ノ内服藥トシテ最モ推奨セラル、モノ、一ナリ

昇汞

〇・一

食鹽

二・五

餛水

一〇〇・〇

右一日二—三茶匙

昇汞

〇・一

再餛アルコール

五〇・〇

餛水

五〇・〇

右一杯ノ赤酒又ハ牛乳中ニ一日二—三茶匙ヲ混ジ與フ

昇汞

〇・一

右葛蒲末及「エキス」ヲ以テ五十九ニ製シ一日三粒ヨリ始メ四日毎ニ一粒ヲ増加シ五粒ニ至リ症狀ノ消散スル迄持續シ其後四日毎ニ一粒宛減ジテ初メノ量ニ復ス若シ使用中胃、症狀ヲ發スルキハ直ニ其應用ヲ中止セザルベカラズ

ツァイスル氏ハ昇汞ハ一回〇・〇〇五ヨリ始メ三週乃至四週間持續ノ後一日量〇・一二ニ至ルベシト云ヒ且ツ〇・一五以上ハ決シテ用フベカラズ尙ホ昇汞ハ屢々胃瘧(Magenkrämpfe)ヲ發スルコトアリ又結核患者ニハ多クノ場合成績不良ニシテ妊婦ニモ宜シカラズト云ヘリ

「プロトヨード」汞

「プロトヨード」水銀 (Protoiodureum Hydrargyri) 主トシテ佛國ニ於テ賞用

セラル、内用水銀劑ニシテ沃度ト水銀劑トノ作用ヲ有ス

「プロトヨード」水銀 〇・五

、阿片「エキス」 〇・三

右葛蒲末及「エキス」ヲ以テ五十九ニ製シ一日二乃至五丸

單寧酸水銀

單寧酸水銀 (Hydrargyrum tannicum oxydulatum) ルストガルテン氏ノ賞用スル

所ニシテ消化ヲ害スルコト少ナク且ツ比較的少量ニ吸收セラルト一〇〇凡ソ二十五錢

單寧酸水銀 二・〇

單寧混 三・〇

白糖 三・〇

阿片末 〇・三

右三十包ニ分チ一日三包

水楊酸水銀 (Hydrargyrum salicylicum) 我國ニ於テ多ク用ヒラル

水楊酸水銀 〇・三

甘草末、甘草「エキス」 適宜

右三十九ニ製シ一日三粒ヨリ九粒ニ至ル楊汞ハ著者ノ實驗ニヨルニ胃腸障害ヲ起スコト比較的少ナシト雖其効力甚ダ微弱ニシテ稍々頑固ナルモノニハ其效果ヲ認メ得ルコト稀ナリフインゲル氏ノ云ヘルガ如ク第二期ノ潜伏期ノ如キ場合若クバ唯ダ副療法トシテ水銀劑ノ繼續ヲ必要トスル場合ニ他ノ水銀劑ノ補缺代用藥トシテ用ヒ

楊汞

「ゾツオヨード」液

得ベキモノナラン

最近ニ報告セラレタルモノ、内重ナル者ヲ舉グレバ

「ゾツオヨード」水銀 (Hydrargyrum Sozodolicum) 注射ニ用ヒテ効アルガ如ク之レヲ内用トスルモ効アリ (水銀三三・〇六% 沃度四〇・六二% ヲ含ム) シュワルツ氏ハ十五年間ニ千回試ミタルニ副症状殆ンド皆無ニテ成績善良ナリタリト

「ゾツオヨード」水銀 〇・六

阿片「エキス」 〇・一八

右甘草末ヲ以テ三十六粒ニ製シ一回二粒ニ日六粒 (〇・〇一) 宛用ユ後

ニ氏ハ之レヨリ阿片ヲ除キタリ

ゾイエル氏ハ「メルヨゲン」 (Mejodin) ト稱スル「ゾツオヨード」水銀ノ錠劑

ヲ推奨セリ

「ビヨード」液

「ビヨード」水銀 (Hg. Bijodat) ヨセフ氏ハ左ノ處方ニ從ヒ之ヲ堅キ特別ノ「カプセル」 (Gelodurat Kapseln) 内ニ入レ與フルトキハ腸ニ至リテ始メテ吸收セラレ其効一層顯著ナリト云ヘリ (時價一〇・〇凡ソ五十錢)

「ビヨード」水銀 〇・一

沃劑 一〇〇〇

溜水 二〇〇〇

右食後一茶匙一日三回

青酸化水

青酸化水銀 (Hydrargyrum Oxycyanatum) シュルター氏ハ十二年間ニ少クトモ千例ニ丸藥トシテ用ヒタルニ (一日〇・〇三—〇・〇五) 滿腹ノ際與フルモ更ニ刺戟症狀ナク有効ナリタリト

純水銀

純水銀 (Hydrargyrum metallicum) アメシヤト氏ハ「グリココリアバスタ」 (Pasta Glykchohia) 一五・〇ニ純水銀三・〇ヲ混ジ一日三回一粒 (〇・〇五) 宛用ヒシメ

六十九ノ内用後三ヶ月間休藥セシメ再ビ内用ヲ開始セシメタルニ石鹼ヲ以テ處置セルモノ故胃腸障害ナカリシト

安息香酸水銀

安息香酸水銀 (Hg. benzoeicum oxydatum) ガウシュル氏ノ説ニハ妊婦ニ一日間〇・〇二宛用ヒシメ八日間ノ後チ「プロト」沃度丸 (〇・〇五) ヲ用ヒシメ再ビ前法ヲ繰リ返セシニ經過良好ナリタリト (時價凡ソ一〇〇・〇一圓)

「メルガール」

「メルガール」 (Mergal) 近時獨國ニ於テ最モ賞用セラルハ、内服藥ハ一ニシテ

其報告甚多シ、著者モ之レガ實驗ヲ行エルヲ以テ特ニ茲ニ稍ヤ詳細ニ述ブル所アルベシ

成分
諸氏ノ報告

「メルガール」ハボッス氏ヨリ發見セラレ伯林ノ「リーデル」商會ヨリ製出セラレタル「カプセル」入りノ粉末藥ニシテ製造會社ノ報告ニヨレバ「カプセル」中〇・〇五ノ膽汁酸化水銀ト〇・二ノタンナルピントヲ含有シ、其特ニ微毒ニ特効アル所以ノ理ニ就テラーフェルベック氏等ノ説ク處ニヨレバ内臟中殊ニ肝臟ハ水銀ヲ最も長ク且ツ最も高度ニ保藏スル性質ヲ有スル臟器ニシテリーデル氏ガ一ヶ月間内ニ犬ニ三〇ノ甘菜ヲ與ヘタル試驗ニヨルモ肝臟ハ比較的最も大量ニ且ツ最も長ク水銀ヲ含有セルヲ證シ又進デ云フモ肝臟ハ水銀ノ最も主要沈降器臟ト認メラレ從テ水銀トノ親和力最も優秀ナル臟器ト首肯シ得ベキニテ又一面微毒性肝臟疾患ハ比較的速カニ水銀ノ効力ニ應ズル如キ傾向アル點ヨリ考フルモ其肝臟トノ親和力大ニシテ而カモ其親和ニ際シ特ニ病原上特有ノ關係ヲ與フル有効成分ヲ發現スベキヲ思ハシム云々ト之レボッス氏ノ肝臟成分タル膽汁酸化水銀トヲ合劑トシ所謂「メルガール」トシテ賞用スルニ至リシ理由ニシテボッス氏ハ之レヲ三十症例(一部ハ早期微毒ニ一部ハ晚期微毒ニ用ヒタリ)ニ實驗セルニ初メ四五日間ハ一日三回「カプセル」五六日

ヨリ一日三回「カプセル」宛計六個ヲ用ヒ特ニ一例ニ對シテハ一日四―五回「カプセル」都合八個―十個ヲ試ミタルニ三例ニ於テ口内炎ヲ發シ只ダ六例ニ於テ輕度ノ胃腸障害アリタル外平均四百乃至六百「カプセル」ニテ良好ヲ奏セリト云ヒ本藥ハ特ニ生命ニ關スル危險症狀ナキ場合又ハ極メテ有力ナル水銀療法ヲ要セザル場合ニ本藥ノ應用單純ニシテ且ツ便利ナル點及ビ他ノ内服藥ヨリ其効力ノ優ル點ヨリ内服藥トシテ推賞セラルベキモノナリト云ヘリザールフェルト氏ハ初メ一日三―六「カプセル」漸次増量一日十一―十五「カプセル」ヲ用ヒ第二期及ビ第三期微毒ノ十二例ニ對シ有力ナルヲ認メ經過中輕度ナル口内炎ヲ發シタルモノアルモ他ニ重大ナル中毒症狀ヲ起サズ全量二百―二百五十「カプセル」ヲ用ヒ良好効アリタリト云ヒ且ツ本藥ハ可溶性水銀ノ注射ノ如キ急激ナル奏功ヲ要スル場合ノ外好シク應用スベキノ藥品タラント云ヘリ又カイル氏ハ十一症例ノ新ニ傳染シタル例及ビ六症例ノ既ニ數回水銀療法ヲ施サレタル患者ニ初メ一日三回「カプセル」宛用ヒタルニ既ニ廿四時間後ニ於テ水銀沃度 (Quecksilberiodin)ノ尿中ニ發現セルヲ認メ一日量八「カプセル」ヲ用フルニ至リテハ最終ノ使用後十八―三十日間其排泄ヲ認メタリト云ヒ之レヲ以テ見レバ「メルガール」ハ能ク内服ニ用ヒ吸收セラレテ効力ヲ擧ゲ得ベク予ノ例ヲ以テ

シテハ口内炎ハ僅カニ例ニ止リ胃腸症狀ノ如キ殆ンド認ムル所アラザリシト揚言セリライスチコー氏ハ各期ヲ通ジ二十症例ニ一日三「カプセル」ヲ用ヒタルガ其効果可六週試ミ特ニ治療ノ末期ニハ一日五―六「カプセル」ヲ用ヒタルガ其効果可良ナリタリトツァイスル氏ハ「メルガール」ノ効果ノ確實ニシテ速カナルコトヲ認メ又時トシテ胃障害アルノ外腸出血ノ如キ大ナル中毒ノ來ルコトナキヲ云ヘリ又ツァイスル氏ハ四十症例ノ丘疹期及中樞神經系障害及「グムマ」ニ初メ一日ニ二「カプセル」後チニ八「カプセル」運用ヒタルニ其効果速カニシテ副症狀モ亦少ナカリシトテ本藥ハ他ノ内服水銀劑ヨリ善良ナル旨ヲ發表セリヘンリー、グロウ、ス氏ハ五例ノ新ニ感染セル者及ビ十例ノ再發症ニ一日三回一「カプセル」ヨリ始メ六―八「カプセル」ニ至リタルガ殆ンド溶解性水銀注射療法及ビ塗擦療法ト同價ナルベキ効力ヲ認メタリトヘルムート氏ハ氏ガ遭遇シタリシ十五例中六例ニ本藥ヲ用ヒタルニ消化器障害少ナク而カモ他ノ水銀等ト同効力ノ効果アリタリト云ヒホーゲ氏ハ本藥ハ不溶解性銀劑注射ノ如ク其効果有力ナラザルト共ニ往々其症候ノ再發スル傾キアルヲ認メタルモ其吸收ノ速カニシテ効果ノ早キハ他ノ内服藥ニ勝ル點ナリト唱ヘカイセル氏ハ痲痺狂ノ三例ニ用ヒ副症狀ナク効アリシモ既ニ痲鈍狀トナリタル者ニハ一〇〇―一三〇「カプセル」ヲ用ヒ

著者ノ實驗

タルモ無効ナリシトフェル―氏ハ本藥ニ副症狀刺戟ヲ認メズ又中毒ヲモ認メザリシヨリ善良ナル驅微藥トシテ用ヒ得ベキ者ナリト賞讃セリ其他カンニイツ、フレ―リッヒ、ヴァルゲス氏等ノ類似報告甚ダ多ク就中ヴァルゲス氏ハ「メルガール」ノ吸收及排泄ヲ實驗シ次ノ如キ結論ヲ與ヘリ(一)本藥ノ血中及體液中ニ吸收セラ、ハ非常ニ速カナル者ニシテ其力遙カニ塗擦療法ノ上ニアル者ノ如ク既ニ内川後四時間ニシテ尿中ニ發現シ而カモ其排泄量ノ正規ナルヨリ考フレバ注射療法ヨリ其吸收モ亦正規ナラント(二)水銀排泄量ハ尿ヨリモ糞便ニ於テ不規則ニ來ル而シテ其分量ハ常ニ糞便ニ於テ大ナリ然レモ尿中ニハ糞便ヨリモ永ク持続性ニ來ル(三)本藥ハ假令永ク持續スト雖新陳代謝ヲ害セズ且ツ胃腸腎等ノ障害ヲ起スヲ少ナキヲ以テ有力ニシテ無害ナル驅微藥ト云フヲ得ベシ(四)膽汁酸化水銀ハ生理化學上ヨリ考フルモ内服藥トシテ善良ナル成立ヲ有スト

著者ハ之レヲ五人ノ男二人ノ女ノ主トシテ丘疹ヲ發セル患者ニ試ミタルニ一日三「カプセル」ヨリ初メ漸次増量シテ一日九「カプセル」運用ヒ平均全量二百五十内外ヨリ三百「カプセル」ヲ以テ其六例ヲ治スルヲ得タリナレド残り男一人ハ爾後屢々再發症ヲ發シ全治ニ至ラザリシヲ以テ暫ラク沃度劑ノミヲ用ヒシメ後チ楊汞注射療法ヲ加ヘシニ初メテ再發ヲ防

グラ得タリ副症狀トシテハ男一人ニ輕度ノ口内炎ヲ見タル外格別忌ムベキ胃腸障害及其他ノ中毒症狀ヲ認メザリシ之ヲ要スルニ著者ノ症例ハ僅カニ七例ニ止ルガ故ヲ以テ今茲ニ確適ナル斷案ヲ下スニ躊躇スト雖之レヲ諸家ノ報告ト照合シ考フレバ(一)本藥ハ吸收速カニシテ而カモ副症狀又不快症狀ヲ來スヲ稀ニ其効力ハ遙カニ他ノ内服藥ノ上ニアルモノ、如シ(二)サレドナーゲルシユミド氏等ハ唱フル如ク他ノ氷銀療法殊ニ注射又ハ塗擦療法ヨリ卓越セル者トハ斷定シ能ハザル處ニシテ就中生命的ノ關係アル危急ノ場合ニ之レヲ注射療法塗擦療法ニ代用シ得ベシトハ信ズル能ハズ唯ダ副療法トシテ内服療法ヲ必要トスル場合ニ他ノ内服藥ヨリ比較的優秀ナルモノトシテ推奨シ得ベキモノト信ズ「メルガール」(五十カブセル入時價一圓)リートの會社ヨリ發賣セララル

第二 沃 度 Jodium

沃度鹽類ハ有機體中ニ於テ容易ニ分解シテ沃度ヲ遊離シ其沃度ヲシテ組織ノ蛋白ニ結合セシメ茲ニ病的組織ヲ刺戟發炎或ハ破壞シテ所謂組

沃度ノ生理的作用

織營養ノ變調ヲ催起セシメ以テ介達的ニ病的組織ノ吸收ヲ行ハシムル者ナリ彼ノ沃度加里ノ微毒ニ於ケル作用モ亦之レト同一理ニシテ攝取サレタル沃度加里ハ組織中ニ於テ沃度ヲ遊離シ蛋白ト化合シ茲ニ局部組織ニ對シテ病的組織吸收ノ機轉ヲ與ヘ其大部分ハ尿中ニ小部分ハ唾液汗液乳汁其他ノ分泌液ト共ニ排泄セララルモノニシテ殊ニ沃度加里ハ加里鹽類ノ吸收作用トシテ尿量ノ増加新陳代謝ノ充進ヲ催進スル作用著シキヲ以テ微毒性組織ノ吸收ヲ行フト共ニ一面「スバル」リ「ダ」ヨリ「スルギフト」ノ排泄ヲ盛ナラシムル者ナリ「フインゲル」氏ハ沃度ノ微毒ニ及ボス作用ヲ説明シテ曰ク沃度ノ作用ハジグムンド氏ノ云ヘルガ如ク微毒ニ對シ間接ニ作用スルモノニシテ決シテ水銀ノ如ク其病毒ニ直接ニ作用スル者ニアラズ反テ物質交換ヲ高メ身體ノ營養ヲ佳良ナラシメ以テ介達的ニ速ニ病毒ヲ排泄セシメ以テ身體ノ抵抗ヲ強クナラシムルモノナリト蓋シ至言ト云フベキナリ

沃度劑ノ種類

驅微藥トシテ用ヒラレタル沃度劑ハソノ種類甚ダ多シ即チ千八百廿二年「フォルミー」ブヒラ、ルゴール、クレリール、リカルド氏等ハ始メテ純沃度ヲ

微毒ニ用ヒ又タブリンノウエラック氏之レヲ驅微療法ニ用ヒ其効果ノ著シキヲ發表セリ爾來沃度加里 Jodkaliun(七六・五%)沃度ナトリウム Jodnatrium(八四・六%)沃度鐵 Jodisen 沃度ホルム Jodform(九六・七%)沃度リチウム Jodlithium(九四・七%)等續出シ最近ニ至リテハ「ヨドール」Jodol(八九・%)「ヨダール」Jodalbazid(一〇%)「ヨヂピン」Jodipin(一〇%)又ハ「ニ五」Ni5「ヨチラン」Jolhon(七〇%)「ハ〇」H0「サヨチン」Sajodin(二四・五%)其他沃度グリディン Jodgudin)沃度「ファン」Jodfan)沃度「メニン」Jodmenin)沃度「フェラトール」Jodferatose)沃度「フゾーゲン」Jodvasogen)等其新藥ノ製出セラレタルモノ甚ダ多シト雖今日尙ホ沃度加里ハ其第一位ヲ占メ他ヨリ未ダ其優秀ナル位置ヲ奪ハルナキ所以ハ何ゾヤ沃度加里ハ沃度ノ含有量ヨリ云ヘバ之レヲ沃度ホルムニ比シ沃度リチウムニ比シ又沃度ナトリウムニ比シ遙カニ少量ナリト云ハザルベカラズ若シ微毒ニ對スル沃度ノ効果が單ニ沃度ノ多寡ニヨリ左右セラレルモノナリセバ沃度ホルムハ其第一位ニ沃度リチウム等モ亦沃度加里ニ優ルコト數等ナラザルベカラザル理ナルニ沃度ホルムハ曾テ賞用セラレタルコトアルニ拘ラズ當ニ微毒ニ對シテ其効沃度加里ニ

沃度加里ノ今日尙第一位ヲ占ムル所以ハ何ゾヤ

沃度加里ノ微毒ニ對シテ其特効アル所以ハ其含メタル沃度ホルムニ在リ故ニ其力ニ働ク故ナラズ

劣ルノミナラズ少シク多量ニ用フルハ容易ニ胃炎(Gastritis)ヲ起シ又中毒症狀ヲ發シテ精神ノ亢奮、狂樣狀態ヲ呈セシムルヲ以テ今日ニテハ僅カニ沃度ホルム丸トシテ神經痛アル場合ニ用ヒラレ(ツァイスル氏)又注射藥トシテ虹彩炎ニ「アトロピン」ト併用シテ効アルヲ認メラル、ノミ(ト)「アマンノイマン氏等」ニシテ又沃度リチウムモ消化器ニ害多ク加之之レヲ皮下ニスルモ尙ホ其効沃度加里ニ優ルナシ沃度ナトリウムニ至リテハ最モ沃度加里ニ類シ而カモ沃度含量沃度加里ニ比シ六・一%多キニモ拘ラズ其効力亦彼レニ比シテ及ブナシ之レヲ以テ考フルバ沃度加里ハ微毒ニ特効アル所以ハ其含メタル沃度ホルム故ヲ以テハミニアラズ、一面沃度加里中ノ加里ノ有力ニ働クガ故ナルベキヲ推想シ得ベシ即チ加里鹽類ハ「イオン」作用ノ外鹽類一般ノ作用タル局所作用及吸收作用ヲ有シ殊ニ血中ニ於テ他ノ鹽類ト原子交換ヲ行ヒ其交換產物ヲ尿ヨリ排泄スルニ當リ多量ノ水分ヲ伴ヒ組織ヨリ水分ヲ奪フト共ニ所謂微毒ノ毒素產物ヲ排泄スル作用他ニ比シ極メテ著シキモノアルベシサレド沃度加里ト雖其効力ニ於テ他ニ優ル所甚ダ多シトハ云ヘ副症狀ヲ發スルコト

渺ナカラズ且ツ注射ニ應用シ能ハザル缺點アルヨリ未ダ吾人ニ充分ノ満足ヲ與フルニ至ラズ玆ニ於テカ近來醫化學並ニ一般製藥學ノ進歩ハ吾人ニ幾多ノ新製劑ヲ提供セント勉メツ、アリ

沃度加里
性狀

沃。度。加。里。(Jodkaliun)ハ白色微子形ノ結晶ニシテ比量三、〇極メテ純ナルモノハ引濕セズ水酒精ニ容易ニ溶解シ弱アルカリ性反應ヲ呈シ七百二十度ニ熱スレバ分解セズシテ溶融シ高熱ニ揮散ス其溶液ハ多量ノ沃度ヲ溶解スル性アリ日本藥局法ニヨレバ

藥局法

沃度、カリウムハ白色乾燥微子形ノ結晶ニシテ〇・七五分ノ水並ニ十二分ノ酒精ニ溶解ス本品ノ水溶液ニ少量ノ「クロール」水ヲ和シタル後「クロ、フオルム」ヲ加ヘテ振盪スレバ之ヲ紫色ニ染ム又酒石酸溶液ノ過剩ヲ和スレバ漸次ニ白色結晶性ノ沈澱ヲ生ズ本品ヲ白金線環ニ抄取シテ無色焰中ニ熱スルニ黄色ヲ現ハス可カラズ本品ノ粉末ハ濕潤セル赤色試験紙ヲ直チニ紫藍色ニ變ズ可カラス本品ノ水溶液(一：二〇)ハ硫化水素水並硝酸「バリユーム」溶液ニ由テ變化セズ又硫酸鐵一小粒過「クロール」鐵溶液五滴及少量ノ「ナトロン」鹵液ヲ和シ微温ヲ與ヘ冷後

適應用量

鹽酸ヲ以テ過飽スルニ藍色ヲ呈ス可カラズ本品一分ヲ新ニ煮沸シ冷却シタル水十九分ニ溶解シタルモノニ直チニ澱粉溶液及稀硫酸ヲ和スルニ直チニ染色ス可カラズ本品ノ水溶液(一：二〇)二十立方センチメートル(二〇ccm)ニ鹽酸二三滴ヲ加ヘテ酸性トナシタルモノハ黄色血鹵鹽溶液〇・五立方センチメートル(〇・五ccm)ニ由テ藍色ヲ呈スベカラズ本品一「グラム」(一g)ニ「ナトロン」鹵液五立方センチメートル「亞鉛及鐵粉」各〇・五「グラム」ノ混和物ヲ加ヘテ熱スルニ「アンモニア」ヲ發ス可カラズ本品〇・二「グラム」ヲ「アンモニア」水二立方センチメートルニ溶解シ振盪シツ、之レニ十分定規硝酸銀溶液十三立方センチメートルヲ加ヘ濾過シテ得タル液ヲ硝酸ヲ以テ過飽スルニ十分時間以内ニ溷濁セズ又染色ス可カラズ環中ニ入レ密栓シ注意シテ貯フベシト

前ニ述ベタルガ如ク沃度加里ハ尙ホ未ダ今日沃度劑中第一位ヲ占ムル藥品ニシテ其用量ハ各個人ノ體質年齡疾病ノ時期病勢如何ニヨリ左右セラルベキ者ナルヲ以テ今玆ニ一定スル能ハズト雖普通大人ニシテ第二期症ニアルモノニハ一・〇乃至二・〇ヲ常量トシ第三期症ニハ二・〇乃至

全身療法

二九七

著者ノ實驗例

四〇ヲ普通トス若シ之レニテ尙ホ其作用不充分ナルキハ五〇ヨリ稀ニ
 ハ一〇〇或ハ尙ホ其以上ヲ用フルコアリ蓋シ其使用量ハ初メニ多カラ
 シヨリハ可成少量即〇三若クハ〇五ヨリ始メ凡ソ三日乃至七日間毎ニ
 〇五宛増加シ其經過ト沃度現象(Erscheinung des Jodismus)ノ如何ヲ觀察シ
 各個人ニ就キ漸次増量持續スルヲ可トス本劑モ亦水銀劑ノ如ク藥物習
 慣性アルモノナレバ既ニ一定量ニ達シテ奏効アリタル時ハ可成速カ
 ニ藥劑ノ投與ヲ中止シ暫ク傍觀ノ位置ニ立ツヲ良トシ假令一定ノ大量
 ニ達シテ尙ホ且ツ奏功ナキ場合ト雖濫リニ本劑ヲ無効ト見做シテ排斥
 スルナク一定ノ間歇ヲ距テ、再ビ少量ヨリ試ムルヲ可トス著者ハ〇五
 ヨリ始メ五〇ニ至リ殆ンド月餘ノ持續ニ關セズ効果ナカリシ第二期症
 患者ニ數週間凡テノ藥物使用ヲ中止シテ自然ノ状態ニ歸ラシメ茲ニ初
 メテ再ビ沃度加里一〇ヨリ始メ三〇ニ至ルニ及ビ良經過ヲ得タル數例
 ヲ有メ想フニ之レ藥物習慣ノ關スル所ニ外ナラズト雖一面ニ於テハ組
 織ノ沃度ニ因スル刺激餘リニ過度ナルカ若クハ餘リニ持續的ナル爲メ
 反テ吸收機能ヲ起スニ不適當ナル状態ニ陥ラシメ治療ヲ廢スルニ及ビ

テ漸ク吸收作用現ハレ來リ再ビ治療ヲ開始スルニ及ビテ茲ニ適當ノ刺
 戟ヲ得テ一層吸收機能ヲ亢盛ナラシメ良結果ヲ與ヘタルモノニアラザ
 ルナキカ之ヲ要スルニ沃劑療法モ亦水銀療法ト同様ニ其治療方針ハ繼
 續的間歇的療法(Chronische intermittierende Behandlung)ノ主旨ヲ必要トスルモ
 ノニシテ只之レニ於テハ水銀ノ如ク常ニ前後同一量ヲ用ヒズシテ初メ
 ニ少量ヲ用ヒ終ニ多ク即チ増量的手段ヲ取ラザルベカラザルノ差異ア
 ルノミ若シ夫レ高度ノ頭痛發熱神經關節痛其他所謂中毒症狀ト認ム
 ベキ症狀烈シク來リタルトキハ初メヨリ二〇乃至五〇ノ大量ヲ投ジ其
 毒素ヲ出來ル丈早ク消滅排泄セシムルニ勉メザルベカラズ
 沃度加里ハ普通久シキニ亘ルキハ引濕スルモノナレバ之レヲ散劑トシ
 テ與フルハ不可ナリ普通水劑トシテ投ズルヲ可トス
 高度ノ頭痛發熱神經痛又ハ關節痛アルキハ

沃度加里 四〇―六〇
 縮水 八〇〇
 單舍 二〇〇

全身療法

右夕一時間内ニ二回ニ分服セシム
軽度ノ第二期症ニハ

沃 度 五〇—一〇〇

縮 水 二〇〇〇

覆盆子舍利別 一五〇

右一日二—三食匙

沃 剝 〇・五

苦 丁 二・〇

縮 水 一〇〇〇

右一日三回食後分服

常ニ重曹ヲ混ズル人アレハ之レ反テ沃度加里ハ作用ヲシテ弱カラシムルモノナリ之ヲ以テ特ニ胃障害ノナキ限リ可成用ヒザルヲ可トス
丸劑トシテ與フルニハ

沃 剝 五・〇

右莖蒲末及エキスヲ以テ五十九ニ製シ一日五丸—十九

沃度「ナトリウム」

適應症

用量

沃度中毒ヲ防グニハ大量ノ牛乳ニ混ジ與ヘ又ハ之レニベラドンナ
〇・〇〇五ヲ加ヘ與フヲ可トス

沃度「ナトリウム」(Jodnatrium)ハ其効力沃度加里ニ及バズト雖其性緩和ナルヲ以テ沃度現象ヲ避ケント欲スル場合殊ニ幼兒少年虛弱ハ婦人嫩弱ナル容貌ヲナスモノ又ハ消化力弱クシテ容易ニ胃炎(Gastritis)ヲ發シ或ハ皮膚ニ沃度粉刺(Jodakne)ヲ發シ易キモノ其他心臟疾患アリテ加里鹽類ハ内服ニ適セザル者等ニ沃度加里ノ代用藥トシテ賞用セラル通常第二期症ニハ一・〇乃至二・〇ヲ用ヒ第三期症ニハ四・〇發熱疼痛症狀アリ急激ノ治療ヲ要スルモノニハ初メヨリ四・〇乃至六・〇ヲ用フルヲ常トスツアイスル氏ハ沃度「リチラン」(Jodlithion)ト混ジテ次ノ如ク處方スルヲ賞用セリ

沃度「ナトリウム」 一〇・〇

沃度「リチラン」 一〇・〇

縮 水 二〇〇〇

右朝夕半杯ノ牛乳内ニ五・〇ヲ入レ内服セシム

沃度「ナトリウム」 一〇・〇

全身療法

沃度リチラン

一〇〇

右龍膽末及「エキス」ヲ以テ二百丸ニ製シ朝夕五丸宛(〇・五宛)ヲ用ヒシメ後チ漸次増量シテ三十九(三〇宛)ニ至ル

沃度「リチラン」

沃度リチラン (Jodithion) 消化障害著シキヲ以テ稀ニ用ヒラル、ノミ然シ

沃度加里ノ如ク「アクチ」加答兒ヲ起スコト少シ前法ノ如ク沃度「ナトリウム」ト併用シ又時ニ次ノ如ク處方ス

沃度「リチラン」

一〇〇

右龍膽末及「エキス」ヲ以テ三十九トナシ一日六粒

沃度「ホルム」

沃度ホルム (Jodform) 今ヤ殆ンド内服ニ用ヒラレズ唯注射藥トシテ時ニ

沃度加里沃度「ナトリウム」ニ代用セラルノミ注射法ハ水銀注射ト同式ニ則ル

沃度「ホルム」

一〇〇

「ワリーブ」油

二〇〇

右「ワリーブ」氏注射器ニテ一筒注射ス

沃度「ホルム」

一〇〇

「リチ子」油

一五〇

右用法前法ニ同ジ

沃度「ホルム」

一〇〇

硫酸「エーテル」

六〇〇

右用法同前

沃度「ホルム」

一〇〇

硫酸「エーテル」

五〇〇

「ワリーブ」眼

五〇〇

右用法同前

若シ右法何レモ疼痛アリ用フルニ適セザルトキハ

沃度「ホルム」細粉

一〇〇

「グリチエリン」

三〇〇

右密ニ混合セシメ二回ニ注射ス

沃度「ホルム」細粉

二〇〇

「アラビヤ」護膜漿

五〇〇

右同前

以上ノ乳劑 (Emission) ハ濃厚ナル爲メ特ニ内容三立方センチメートルヲ有スル注射器ヲ撰ビ大ナル稍々長キ注射針ヲ備フルモノヲ用フルヲ可トス夕時短時間内ニ二回ニ分チテ注入シ而シテ使用後ハエーテルヲ以テ洗出シ置クヲ良トス

沃度丁幾 (Jodinkur) 稀ニ内服ニ賞用スル人アリ

沃度丁幾 二・〇

縮水 五〇・〇

右一日三回食後乳中ニ一茶匙ヲ混ジ内服セシム

「ヨドール」

「ヨドール」(Jodol) 一日用量〇・二乃至〇・三比較的胃障害ナク又沃度中毒症状ヲ起スコト稀ナリ(二十九瓦入り一圓三十八錢)

「ヨダールバチ」

「ヨダールバチ」(Jodalbazid) フィンゲル氏ノ賞揚スル所ニシテ僅ニ十%ノ沃度ヲ含有スルノミナレドモ第二期及第三期ニ稽留的ニ用ヒテ中毒症状、少ナク其効顯著ナリト通常一日三・〇―四・〇ヲ散劑トシテ「フブラート」ニ包ミ用ヒシメ又ハ錠劑ニ製シ與フ(十瓦凡ソ一圓)

「ヨチピン」

注射薬トシテ獨特ノ効アリ

「ヨチピン」(Jodipin) ハ一八九七年ウインターニツ氏ノ推奨ニ由リ初メテ世ニ知ラレタル沃度劑ニシテ其初メ主トシテ内服ニノミ使用セラレタリシヲ以テ未ダ聲價ヲ博スルニ至ラザリシガ一八九八年クリング、ミュルレル氏初メテ之レヲ注射法ニ應用セルヨリ頓ニ其聲價ヲ上グルニ至レリ之レ内服薬トシテハ効力ノ優秀ナル沃度加里ノ在ルアリ特ニ之レニ優ルノ効果アルニアラザレバ單ニ其沃度現象ノ輕キト胃障害ノ比較的少キトノ理由ヲ以テノミシテハ未ダ以テ沃度加里ノ効力ヲ凌駕スルニ足ラザリシガ沃度加里ノ最モ缺點トセル注射法ニ應用シ得テ著効ヲ奏シ得ルニ及ビ茲ニ始メテ沃度療法ニ一生面ヲ開クニ至リ世ハ賞讚ヲ博スルニ至レリ本劑ハ沃度ト胡麻油トノ製劑ニシテ内服用トシテハ一〇%ノモノ(時價百瓦一圓九十錢)及ビ錠劑(一錠〇・〇五)ノ沃度ヲ含ム五十錠入時價六十錢ヲ用ヒ特ニ注射用トシテハ二五%ノモノ(時價百瓦入參圓二十錢)賞用セララル

注射法

注射法ハ水銀劑注射ノ如ク臀部ノ筋間注射ヲ可トシ普通一〇・〇(沃度量二・五)乃至二〇・〇(沃度量五・〇)ヲ用フ時ニ尙多量ヲ必要トスル場合ニハ二

全身療法

三〇五

○〇乃至四〇〇ニ至ルコトアリ注射ノ際ハ針ヲ通過セシムルニ稍々強キ壓力ヲ要スルヲ以テ特ニ針ハ太キヲ撰ビ又左手ヲ以テ補助スルヲ必要トス注射後ノ局部刺激ハ極メテ輕ク殆ンド反應ナク患者之ヲ耐ユルニ更ニ苦痛ヲ覺ユルコトナシ而シテ注射セラレタル「ヨヂピン」ハ筋纖維間ノ貯電 (Depot) ヨリ徐々ニ吸收セラレ持續的ニ身體ニ作用ス通常注射ハ十日間連續シ一週間間歇ヲ置キテ再ビ反覆スルヲ常トスルモ亦時ニハ一週三回ノ回数ヲ以テ持續スルコトアリ本劑注射ノ特ニ利益ト認ムベキ點ハ

- 一 注入セラレタル「ヨヂピン」ノ徐々ニ規則正シク吸收セララル、コト
- 二 沃度中毒症狀ノ殆ンド來ラザルコト
- 三 他ノ沃度劑ニ見ルガ如キ胃腸障害ナキ
- 四 腦微毒ノ如キ場合ニ於テ就中嘔下作用ノ障害セララル、場合ニ於テ獨特ノ長處アルコト
- 五 僅少ノ時日間ニ多量ニ注射シ得而カモ沃度ノ作用ヲシテ能ク週餘月餘ニ亘リ持久的ニ全身ニ作用セシメ得ベキ

「ヨチオン」

塗擦藥トシテ實用セラル

内服トシテ八十%ノモノヲ通常一茶匙(三・五沃度含量)〇・三五乃至三茶匙(一〇・五沃度含量)一・〇五與へ又錠劑一日七錠(〇・三五乃至廿錠)一・〇ヲ投ズ

「ヨチオン」(Jolion)沃度加里ハ内服ニ耐ヘズ又「ヨヂピン」ハ注射ヲモ行ヒ能ハザル患者ニ塗擦藥トシテ實用セラル本劑ハ七〇—八〇%ノ沃度ヲ含ミ容易ニ健康皮膚ヨリ吸收セラレ已ニ一時間ニシテ其反應ヲ現ハシ塗擦療法ニハ通常三乃至五立方センチメートルヲ用ユ近時リヒテル氏ハ之レヲ坐藥ニ製シ用ヒ良果ヲ得タリト(廿五瓦入時價二圓十五錢)

カ、ヲ

右ヲ靜カニ三十五度—四十度ニ熱シ之レニ

ヨチラン

〇・一五

ヲ加へ坐藥ニ製ス

右直腸ニ挿入シ用ユ

「サヨチン」

「サヨチン」(Sajodin) 無味無臭無色ノ粉劑ニシテ沃度二四・五%ヲ含ミ胃中ニ於テ變化ヲ受クルコト少ナク主トシテ腸ニ於テ分解沃度ヲ分離ス之レ

全身療法

沃度加里ノ内服ニ代用セラレテ其効アリ

沃度「グリヂン」

沃度「メニン」

沃度「ファン」

沃度「フェラトール」

ヲ以テ胃症狀ヲ惹起スルコト少ク且ツ沃度ノ副作用ヲ起スコト稀ナリ近時沃度加里ノ代用薬トシテ頻リニ賞用セラル、ニ至レリ(マイエルグーコフ、エッシバウム、フヒツシャ、メーソング、ロッセル氏等)之レヲ實驗スルニ其沃度含量僅カニ沃度加里ノ凡ソ三分ノ一ニ過ギザルモ内服薬トシテ其作用鋭敏ニ且ツ比較的善良ノ効果ヲ與エ殊ニ其副作用ヲ起スコトナキハ沃度加里ニ優ル點ニシテ沃度加里ハ使用ヲ得ザル場合ニ之ガ代用内服薬トシテ推奨スルニ足ルベキ良沃度劑ト云ヒ得ベシ一日用量二〇乃至三〇(廿五瓦一圓八十錢)近時錠劑(一錠〇・五廿個入八十五錢)ノ製出アリ

沃度「グリヂン」(Jodidin) 胃ニ於テ吸收セラレズ大部ハ腸ニ於テスマイエル氏ハ男子ニハ一日五錠女子ニハ四―五錠ヲ與ヘ良効ヲ得タリト

沃度「メニン」(Jodmenin) 最新ノ製劑ニシテ近時ブッシュグムベルトカッセルフリードマン氏等ノ報告アリ胃障害ナク腸ニ於テ沃度アルカリヲ發生シ比較的緩和ニ吸收セラルト

沃度「ファン」(Jodan) 一二ノ報告アルノミ未ダ其効果明カナラズ

沃度「フェラトール」(Joderrause) 悪性微毒及ビ虚弱ナル患者殊ニ遺傳微毒

沃鐵舍

沃度「ワソーゲン」

沃度浴

沃度劑ニ「アンチトキシシン」作用アリ

兒ニ賞用セラルル吸收シ易クシテ胃腸障害ナク多量ニ持長スルコトヲ得大人ニハ一日三回三茶匙宛凡ソ一回二〇小兒ニハ一日一回一茶匙宛(凡ソ一回四〇)乳兒ニハ朝夕二回凡ソ四〇宛食後ニ用ヒシム服用ノ前後ニ茶ヲ禁ゼシムル要アルハ勿論ナリ(一壘凡ソ一圓二十五錢)

沃鐵舍利別 (Syrupus Ferri Jodati) 遺傳微毒兒ニ用ヒラル一日一〇乃至二〇沃度「ワソーゲン」(Jodvasogen) ライスチコー氏ハ塗擦薬トシテ賞用セリ一日二―三〇(十瓦凡ソ七十五錢)

沃度浴 (Jodbad) 沃度泉ハ飲用ニ供シ得ルノミナラズ亦浴療法トシテ用ヒ効アリローゼンタール氏ハ浴時皮膚ヲ通ジテ沃度ノ体内ニ吸收セラル、ヲ證明セリ

沃度劑ト「アンチトキシシン」沃度劑ノ微毒ニ對シ直接薬タラザルコト前ニ述べタルガ如ク又其作用ノ介達的ニシテ唯病的組織ノ吸收ヲ營ミギフトノ排泄ヲ盛ナラシムルコト先キニ説ケルガ如シト雖沃度劑ハ之レヲ實際ニ徴スルニ又他面ニ於テハ一種ノ「アンチトキシシン」トシテ作用スルカラ有スルモノハ如ク「トキシシン」ハ中毒症狀ト認ムベキ彼ハ第二期ハ初

沃度劑ノ特效

メニ見ル頭痛倦怠筋痛關節痛進ンデハ神經痛發熱ノ如キ一般症狀ニ對シ極メテ顯著ニ奏効ヲ與フル傾キアリ
 第三期症殊ニ内臟微毒ニ偉大ノ効果アルハ已ニ汎ク識者ハ知ル事實ニシテ又護膜腫性骨膜炎及ビ骨炎(Gummosse Periostitis u. Ostitis) 皮膚舌呼吸器ハ護膜腫等 (Gummata der Haut, der Zunge der Respirationsorgan etc) 及ビ筋收縮 (Muskelkontraktionen) 微毒性肉様肥大 (Sarkecele syphilitica) 微毒性眼腦神經疾患 (Syphilitische Augen-Cohirn-Nervenfektion) 並ビニ其他ハ微毒性續發病等ニ最モ適應セリ、水銀劑ハ微毒ノ直接藥ニシテ其如何ナル時期ニ於テモ必要缺グベカラザル藥劑ナリト雖亦沃度ノ特ニ此ノ如キ場合ニ獨特ノ效能アルハ療病上大ニ注意ヲ拂ハザルベカラザル所トス

沃度劑ト水銀劑トノ併用

沃度劑ト水銀劑トノ併用如何並ビニ其相互ノ應用的關係ハ臨床上日常知ルヲ要スル最モ重大ノ問題タリナイセル、チームゼン氏等ハ驅微療法トシテ水銀劑ニ沃度劑ヲ併用スル時ハ其效果一層顯著ニシテ到底水銀劑ノミヲ以テセル効果ノ及ブ所ニアラズト云ヒ且ツナイセル及ビフルニエ氏ハ假令甘汞ト雖之レヲ注射ニ應用スルキハ沃劑ノ内服ヲ與フモ

甘汞及一ニノ場合
ヲ除ケバ水銀劑ト
併用シテ寧ロ良効
アルモノナリ

更ニ特別ノ刺戟ナキノミナラズ反テ甘汞ノ吸收ヲ一層速カナラシメ其効力ヲ確實ナラシムモノナリト云ヒ殆ンド絶對ニ水銀劑ト沃度劑ト併用ヲ可トセルモレツセル氏其他ノ二三ノ人ハ溶解性水銀劑並ニ楊汞、チモール水銀灰白油ノ如キ不溶解性水銀劑ハ之レヲ沃度劑ト併用シ差支ナク反テ其效果寧ロ可ナルヲ認ムト雖甘汞劑時ニヨリテハプロト沃度汞單寧酸水銀、白降汞等ハ之ヲ外用ニ用フル時ハ勿論假令注射ニ應用スル時ト雖局所反應著シク時ニ危險ヲ來スコナキニアラズト云ヒ其所說全ク一ナラズト雖歸スル所甘汞ヲ除キ他ハ水銀劑(二三ノ特別ノ場合ヲ除キ)ハ之レヲ沃度ト併用シテ障害ヲ認メザルハミナラズ反テ水銀劑ノ効果ヲシテ一層有効ナラシムル者ナリト結論シ得ベキガ如シ想フニ水銀劑ト沃度劑トハ時ヲ同フシテ用フルキハ勿論假令時ヲ異ニシテ用フルキト雖體中ニ於テ沃度汞ヲ形成スルヤ明ニシテ其單沃度汞(一)ハ性緩和ニシテ刺戟ヲ與フルコトナク毫モ刺戟症狀ヲ起サズト雖若シ過沃度汞(Hg²⁺)ヲ形成スル時ニ於テハ著シキ腐蝕作用ヲ與フルモノナルヲ以テ注射部ニ疼痛發炎刺戟症狀ヲ發シ又粘膜ニ於テハ其上皮ノ腐蝕破壊

ヲ來スニ至ル者ニシテ彼ノ甘汞ハ恐ク此過沃度汞ヲ形成シ以テ局部ニ刺戟症狀ヲ與フルモノト考フルヲ得ベシ

水銀劑ニ沃度加里ヲ併用セバ尿中ニ多量ノ水銀ヲ證明スルニ至ルベシトハ既ニ夙ニビンツ氏等ノ唱ヘル所ニシテ其之レヲ來ス所以ハ沃度加里ノ沃度汞ヲ形成スル故ニ因スルカ果タ加里鹽類ノ吸收作用ニ起因スルカ今茲ニ斷言スル能ハズト雖何レニシテモ水銀ヲ多量ニ排泄スルニ至ルハ事實ノ證明スル所ナリ吾人ハ水銀ヲ可成的多量ニ體中ニ注入センコトニ勉メ一面ニ於テハ其排除ヲ盛ンナラシメ而カモ實驗上此ノ如キ際ニ經過ノ可良ナルヲ認ムルハ少シク理ニ於テ矛盾スル處ナキニアラザルヤノ感ナキニアラズト雖之レ恐ク水銀ノ作用ハ觸接分解若クハイオン作用ノ一瞬間ニ於テ作用スルモノニシテ從テ後續スル多量ノ水銀劑ヲ必要トスルト同時ニ又其既發水銀ノ排泄ヲ可成的速度カニスルヲ必要トスルニ因スルカ然ラズンバ唯單ニ沃度加里自己ノ作用ヲ以テ新陳代謝ヲ充盛ナラシメ水銀ノ排泄ト共ニ病毒ノ排泄ヲ盛ンナラシメ換言スレバ水銀ハ排泄ハ一面ニ病毒ノ

著者ノ意見

排泄ヲ意味シツ、アルニアラザルナキカ蓋シコハ未ダ學者ノ苦ンデ解決シ能ハザル所ニシテ後來ノ研究ニ俟タザルベカラザル所ナリトス

内服時及食物トノ關係

沃度中毒

沃度劑ハ一般ニ胃ヲ刺戟スル性アレバ之レヲ胃ノ空虛ナル片即チ空腹時ニ内服セシムルハ宜シカラズ可成後若クハ食時ニ用ヒシムベシ酸味ヲ有セル食物及ビ果物等ハ之レヲ禁セシムルヲ要スト雖澱粉ニ富ミタル食物ヲ禁ズルノ必要ハナキモノ、如シ之レ澱粉ハ強度ノ酸類ニ遇ヒ初メテ沃度ヲ取り所謂沃度澱粉ヲ形成スルモノニシテ未ダ普通ノ胃酸ヲ以テシテハ沃度澱粉ヲ形成スルニ至ラザレバナリ而カモ沃度澱粉ハ必ズシモ沃度ノ働ヲ失フモノニアラザルニ於テヤヤ沃度劑モ亦水銀劑ノ如ク副作用ヲ起スモノニシテ其量稍々多キキ又ハ特ニ特異的關係アル場合ニハ容易ニ咽鼻喉ニ分泌セラレテ亞硝酸ト炭酸瓦斯トノ質量作用(Massenwirkung)ニヨリ沃度ヲ遊離シ茲ニ刺戟症狀ヲ起シテ咽鼻喉炎ヲ起シ又皮脂汗ヨリセルモノハ沃度水素酸ヲ形成シ之レヨリ沃度ヲ遊離シテ皮疹殊ニ粉刺(Jodakne)ヲ發シ胃ヨリセル者ハ胃酸

全身療法

中毒療法

ノ作用ヲ受ケテ沃度水素酸ヲ生ジ茲ニ又沃度ヲ遊離ノ胃炎、(Gastritis)ヲ發ス又眼瞼粘膜ニ來リテ結膜炎、(Konjunktivitis)ヲ發シ其他進ンデハ嘔吐、下痢、心悸、亢進、聲門、水腫、發熱、瘦削、惡液質、ヲ來スニ至ル之レガ治療トシテハ沃度劑ノ應用ヲ斷然中止スルト共ニ下劑、(Abführmittel)ヲ投ジ又ハ「キニ」チ「ヲ」一日〇・三—〇・四與フ一二ノ人ハ「ズル」フ「ア」ニ「トル」酸、(Sulfanilsäure)ヲ一日二〇用フルキハ良効アリト云ヘリ

第三 亞砒酸劑 Arsenik

水銀劑及ビ沃度劑ノ微毒ニ用ヒラレシハ今ヲ去ル實ニ四百年前ノコトニシテ其歴史極メテ古シト雖モ亞砒酸劑ノ微毒ニ應用セラル、ニ至リシハ漸ク之レヲ十九世紀ニ入り始メテ認メ得ベキノミナリサレド亞砒酸劑ヲ微毒ニ用フルニ至リシハ「スバル」リ「ド」ノ發見ニヨリテ初メテ起リタルニアラズシテ實ニ一九〇五年シヤウデン、ホフマン兩氏ノ「スバル」リ「ド」發見ニ先ダツ二年若クハ其少シク以前ヨリ應用セラレタルガ如シ彼ノ水銀劑ノ項ニ述ベタル「エチゾール」ハ實ニ驅微ノ目的ニ向テ用ヒ

亞砒酸劑ト微毒療法トノ歴史的關係

ウーレンフート氏ノ豫想

ラレタル亞砒酸劑ノ筆頭ヲナスモノニシテ早ク既ニブロック氏等ニヨリ賞用セラレタリ蓋シ當時ニ於テハ亞砒酸其モノヲ直接ニ微毒病原ニ向テ作用セシメントスル意味ヨリ用ヒタルニアラズシテ主トシテ營養ヲ催進シ貧血ヲ快復シ身體ヲ強壯ナラシメ以テ間接ニ微毒ヲ治セント企テタルニ外ナラザリシガ俄然「スバル」リ「ド」ノ發見ハ之レガ治療方針ニ一大革命ヲ與フルニ至リ彼ノウーレンフート氏ヲシテ「マ」ラ「リ」ヤ「ニ」規「尼」涅「ハ」作用「スル」ガ如ク亦亞砒酸ヲシテ直接ニ「スバル」リ「ド」ニ作用セシメ出來得ベク「ン」バ「之」レ「ヲ」死滅セシメテ以テ病原的ノ治療ヲ舉ゲント試マシムルニ至ラシメシト雖惜哉氏ノ「アトキシール」モ未ダ充分ノ成効ヲ奏スルニ至ラズノ一時中絶ノ止ムナキ状態ニ陥リ論争ノ渦中ニ投ヒラレシガ氏等ノ研究方針ハ世ノ熱誠ナル篤學ノ士ニ一大興味ヲ與ヘ遂ニメチニコフサルモン氏等ヲシテヨリ一層大量ニ之レヲ用フルキハ能ク其効價ヲ發揮セシメ得ベキヲ立證セシムルニ至リ未ダ其効ノ侮ルベカラザル者ナルヲ知ラシムルニ至レリ爾來今日ニ至ル迄五年甲論乙駁又似テ異ナル新藥ノ出デタルモノ甚ダ多ク其効果ニ就テモ亦未ダ歸着ス

全身療法

ル處ナシト雖最近生理化學ノ進歩ハエールリッヒ氏等ノ熱烈ナル研究ト相俟テ之等ノ業績ニ向テ一大發展ヲ與ヘツ、アレバ蓋シ其前途ニ活目シテ見ルベキモノ在ルアラシカ

「アトキシール」

「アトキシール」(Atoxy)ハ化學上メタ亜砒酸アニリド(Metarsensäure anilid)ノ構成ヲ有シ佛國ニ於テハメチニコフ、サルモン兩氏獨國ニ於テハウーレンフート、レッセル氏等ヨリ始メテ微毒ニ盛ンニ賞用セラレタル亞砒酸製劑ニシテ微毒ノ凡テノ時期殊ニ第三期症ニ獨特ノ効果ヲ與フルモノナリ蓋シ其人體ニ於ケル作用不明ニシテ今尙試驗中ニ屬スル者ナルヲ以テ茲ニ論定スルハ早尙ノ嫌ヒナキニアラズト雖著者ノ實驗ヲ以テシテモ第三期症ニハ勿論又第二期ニ於ケル慢性頑固ナル微毒性皮膚病及ビ屢々再發シ來ル口腔粘膜ノ丘疹等ニ顯著ノ効力ヲ有スルハ動カスベカラザル事實ナルモノハ、如シ想フニ之レ亞砒酸劑ノ獨特ナル作用トシテ末梢血管ヲ擴張シ局部皮膚ノ營養ヲ強盛ナラシムルト共ニ之等發疹ノ治癒狀態ヲ高メシムルガ故ナランサレド微毒ニ作用シ水銀ニ優ル効力ヲ與ヘ得ル者ナリヤ否ヤハ甚ダ疑ハシキ處ニシテ著者ハ未ダ水

用法

中毒

諸氏ノ報告

銀ニ優ルハ効アルヲ認ムル能ハズ普通用量ハ一日十%ノ液一筒ヨリ始メ隔日又ハ二三日毎ニ半筒若クハ一筒ヅ、増量シテ三筒時ニ六筒七筒ニ至ルニ至リ能ク其經過ノ如何ヲ察シテ増減斟酌シ全量三〇乃至四〇ニ至リ止ム本劑ハ容易ニ中毒症狀ヲ發スル者ナルヲ以テ特ニ注意ヲ要ス。中毒症狀ハ殊ニ激烈ニシテ急ニ視力障害ヲ來シ失明ニ終ラシムルコトアリ其他頭痛、痛嘔吐、下痢、發疹、胃障害、蛋白尿等ヲ來スコト多シ

「アトキシール」ノ聲價ハ近來ニ至リ寧ロ低落ニ傾ケルモノ、如ク今ヤ本劑ヲ水銀劑ニ優ル屬微藥ト認ムルモノ殆ンドナキガ如ク歐洲ニ於ケル報告ヲ見ルモ其中毒例甚ダ尠シト云フ能ハズ今參考ノ爲メ其主ナル者ヲ擧グレバ

ノイチヲニー氏ハ微毒ノ種々ノ時期ニ於ケル十四症例ニ「アトキシール」療法ヲ試ミタルモ特ニ微毒ニ對スル獨特ノ効力ヲ認ムルナク寧ロ水銀及ビ沃皮劑ノ効力確實ナルニ及バサリシト述べ十四症例中ノ一例ノ如キハ蛋白尿ヲ來シ強度ノ下痢ヲ發シ一例ハ心臟及ビ呼吸器ニ障害ヲ與ヘタリト
 ナールマン氏ハ動物試驗上ニ於テハ「アトキシール」ノ効力比較的優秀ナレドモ之レヲ人ニ用ヒテハ第三期症惡性微毒貧血者、結核等ノ場合ニテ殊ニ沃皮ニ特

異關係アリ沃度劑ヲ使用シ能ハザル場合ニ水銀ト併用シテ著効アル外特ニ獨
特ノ價值ヲ認メズト

ツェルロチー氏ハ二十二例ノ實驗上「アトキシール」ハ微毒ニ對シ特効藥タラズ反
テ其炎性ヲ變換(Solilizien)スル傾キアリ而カモ其作用不確實ニシテ不同様ナリ
ト掛セリ尙氏ハ「アトキシール」ヲ使用シタル後チ再發症ヲ認メ且ツ「アトキシール」
ヲ用ユルヲ要スルガ如キ場合ニ他ノ亞砒酸劑ヲ用ヒ同様ノ成績ヲ得タルヨ
リ「アトキシール」ノ効力モ敢テ他ノ亞砒酸劑ト異ナルモノニアラズト云ヘリ
ノートハフト氏ハ百四名ノ微毒患者ニ「アトキシール」ヲ用ヒ其効ノ信賴シ難キ
ヲ認メ且ツ水銀ヨリ其効力弱クシテ何等ノ長所ヲモ有セザルモノナリト云ヘ
リサレド惡性微毒ニシテ水銀ニ堪ヘザル場合又唯微毒性發疹ニ局處療法ノ意
味ヲ以テ用フルトキハ其効果アルヲ認メ得ベシ云々ト追加セリ

ラビバルト氏ハ惡性微毒ノ八例及虛弱ナル微毒患者ニ二日乃至三日毎ニ〇・一
乃至〇・二注射シ十回乃至十五回ニ至リテ良果ヲ得タリト

ツァイスル氏ハ「アトキシール」ハ「カヘキシール」患者ニ一ノ強壯藥トシテ推奨スベ
キモノナラント云ヒ

ステンベルグ氏ハ微毒性網膜炎ニ〇・五ノ「アトキシール」ヲ十五回注射セルニ一

度治ニ就キシト雖十四日ヲ經テ再ビ口腔内ニ白斑ヲ生ジ微毒ノ再發ヲ現ハセ
リト

クレメンチノー氏ハ「アトキシール」ヲ十回ニ五・〇川ヒタルモ其効水銀ニ及バザ
リシト

ハルツビー氏ハ「アトキシール」ヲ全身療法以外初期硬結ニ用ヒ又淋巴管中ニ注
射シ其他三〇%ノ「アトキシール」軟膏トシテ貼用シタルニ効果アリタリト

ヂュホー氏ハ「アトキシール」ハ之レヲ汞劑ニ比スルニ其効價甚ダ少キモノナリ其
作用ハ原因的ニアラズシテ寧ロ微候的ノモノナルヲ以テ皮膚ノ微毒症狀ニハ
之ヲ用ヒテ効アランモ微毒自己ヲ根治セシムル者ト考フ能ハズ普通十日乃至
五日間〇・五宛注射ス云々ト

日本ニ於テモ「アトキシール」ノ報告亦少ナキニアラズ土肥及中島ノ兩氏ハ微毒
ノ十五例ニ就キ試ミ全治九名即チ六〇%ノ成績ヲ得タルモ未ダ其効水銀劑ニ
及ブナシト云ヒ又佐藤氏ハ第三期症ニ用ヒ著シキ効果アリタルヲ報ゼリ

ゲルシュン氏ハ「アトキシール」ヲ三十一例ニ試ミ(一)本劑ハ初期硬結第二期第三期
ヲ通ジ中等量ニ用ヒテ効アリ(二)然レモ其量六・二以上ニ昇ルベカラズ(三)「アトキ
シール」ノ最モ効アルハ潰瘍性ノ護膜腫ナリ(四)中等量ニテハ中毒症狀著シカラ

「アルサチチン」

ズ(五)補助藥トシテ十%ノ軟膏ニ製シ局部ニ應用シ得ベシ云々ト云ヘリ

「アルサチチン」(Arsacilin)ハ「アトキシール」氏ノ推獎スル處ニシテ「アトキシール」ニ類似セル Acetylparamidophenylarsensäures Natrium ナリナイセル氏ハ之ヲ
微毒患者ニ試ミ「アトキシール」ヨリ其副作用遙カニ少クシテ且ツ有効ナルヲ提唱セリ、氏ノ論旨ヲ約言スレバ(一)副作用殆ントナシ然レモ心筋炎
アルモノニハ禁忌スベク又腎炎アル者ニハ其尿ノ定性定量の注意ヲ怠
ルベカラズ脊髄癆、バラリーゼ、高度ノ神經衰弱アル者ニハ其症狀ノ狀況
ヲ顧慮シテ其用量ヲ斟酌セザルベカラズ(二)普通用量ハ「アトキシール」〇・
五ニ對シ〇・六ノ割合ヲ以テ用ユ、氏ハコッホ氏ニ倣ヒ〇・六時ニ〇・七五ヲ四
乃至五日ノ間歇ヲ以テ二日間注射シ全量十二乃至十四瓦ニ至リ其目的
ヲ達セリト(三)長時日ニ耐ヘ分解セズ又用ニ臨ンデ煮沸消毒ヲ加ヘ得ベ
シ(四)微毒ニ對スル効力ハ未ダ再發ヲ防歇スルニ足ラズ從テ水銀ニ劣ル
モノ、如シ蓋シ水銀ト合併シテ用フレバ其効極メテ可ナリト其説ク處
大體ニ於テ「アトキシール」ニ比シ中毒少キヲ以テ優レリトスルモノ、如
キモハイマン氏ハ之ヲ三十一名ノ患者ニ試ミ其効水銀劑ノ如ク確實ナラ

ナイセル氏ノ提唱

「アトキシール」水銀

ズ且ツ持久的ナラザルノミカ反テ再發症狀ヲ發セシムルヲ多シト云ヒ
殊ニ三十一例中七例ニ頭痛、不快、嘔吐、腎炎ヲ發シ一名ニ神經炎ヲ來セル
ハ其中毒症狀ヲ來スヲ多キヲ證スルモノナリト云ヘリ此間ニ於テ英ノ
ランブキン氏ハ「アルサチチン」ヲ八例ニ試ミ良果アリタルヲ報ジ又「アト
マ」氏モ十二例ニ好成績ヲ得タリト云ヘリ之ニ反シテ露ノメツシエルスキ
氏ハ九例ニ用ヒ丘疹性發疹ニハ其成績甚ダ不同ニシテ一例ハ用量一・五
ニ至リ發疹ヲ消散セシメタルモ一例ハ同量ヲ以テシテモ更ニ何等ノ奏
効ヲ見ザリシト云フ等要スルニ本劑モ未ダ其効果ノ如何ニ就テハ未決
ハ間ニアリト見ルヲ至當トスルモノ、如シト雖到底其効力ハ水銀劑ニ
及バザルハ一般ニ認ムラルハ事實ナルガ如シ
「アトキシール」水銀 (Atoxyl Quecksilber) 「アトキシール」ノミヲ以テシテハ到
底其効力水銀劑ニ及バザルヲ觀破シ之ヲ水銀ト結合セシメテ應用スル
ニ至レルモノ、即チ「アトキシール」水銀之レナリ本劑ハ三三・三%ノ水銀ト
二四・二%ノ亞硫酸ヲ含有シ普通一週又ハ半週ノ間歇ヲ置キ〇・〇五―〇・
二ヲ注射ス

ウーレンフート氏
ノ動物試験成績

ウーレンフート氏ガ動物ニ行ヘル試験成績ニ由レバ(一)牡鶏スピロヘ
ーテハ本劑ノ注射ニヨリ確實ニ殺滅セララル(二)局部ニ一回注射スルキ
ハ注射後一二日後ト雖尙能クスピロヘーテノ感染ヲ防ギ得(三)兎ニ於
テモ亦同様ニシテ其角膜微毒ハ五六日ニシテ減退シ又再發ヲ確實ニ
防グヲ得(四)ラッテンノ再歸熱ニモ亦効アリ(五)トリバノゾーマニ於テモ
然リ(六)試験管内ニ於テハ辛フジテ溶解スルノミナルモ體內ニ於テハ
能ク溶解シテトリバノゾーマスピロヘーテヲ有力ニ殺滅ス
ミークレー氏ハ三十一人ノ微毒患者ニ試ミ特ニ丘疹性紅班ニ著効ヲ
認メ又潰瘍性護膜腫性皮膚變化ニ優秀迅速ナル良影響ヲ與ヘタルヲ
確認セリト而シテ副作用ハ甚ダ僅ニシテ注意スレバ決シテ水銀鹽注
射ニ見ルガ如ク大ナルモノニ非ズト云ヘリ尙氏ハ「アトキシール」水銀
一〇〇ラレーフ油一〇〇〇ノ乳劑ヲ作り之ヲ半週又ハ一週ノ間歇ヲ以テ
〇・五宛二回(即チ〇・二)注射シ後又同様ニ一〇宛四回(即チ〇・四)合計〇・五
注射セシニ其効著シク善良ナリタリト

「ソアミン」

「ソアミン」(Somin)英ノランブキン氏之ヲ賞用シ廿六例中十例ニ早期療法ト

「アルゾヨヂン」

シテ初期硬結ニ三・五乃至六・〇與ヘタルニ十ヶ月ノ後チニ至ル迄毎週ノ
觀察上何等ノ微毒性徵候ヲ認メザリシト
アルゾヨヂン(Arsojodin)亞砒酸ニ沃度ヲ結合セルモノナリヒンツ氏ハ之
ヲ用ヒテ「アトキシール」ノ如キ中毒症狀ヲ認メザリシト

「ホーレル」水

ホーレル水(Saltio arseniculis Fowleri)

「ホーレル」水 五・〇
複方キナ丁幾 一五・〇

右一日三回十二乃至十五滴

亞細亞丸

亞細亞丸(Asiatische pillen)

亞砒酸 〇・〇三
硫酸鐵 五・〇
重曹 五・〇
「ホミカ、エキス」 〇・五
龍膽末越幾斯 適宜

右百丸トナシ一日三回毎食後一丸宛(漸次増量ヲ要ス)

全身療法

亞砒酸「ナトリウム」

亞砒酸「ナトリウム」(Natrium Arsenicosum)

亞砒酸「ナトリウム」 〇・四

餽水 二〇・〇

右一日四分の一筒乃至一筒

アルゼンフラトーゼ (Arsenferatose) 〇・〇〇三%ノ亞砒酸ヲ含ム遺傳微毒及大人微毒ノ恢復期ニ効アリ普通用量大人ニハ一日三回食後五乃至十瓦小兒ニハ凡ソ半量ヲ用フ

第四、規尼涅及其他ノ驅微藥 Chinin u. andere Antisiphilitica.

レンツマン氏ノ豫想

微毒ノ治療ニ「キニーテ」ヲ應用シ之レガ業蹟ヲ世ニ公ニセルハ恐ラク千九百〇八年即我が明治四十一年レンツマン氏ガ初メテ獨逸醫事週報第十號ニ微毒ノ一新療法ト題シ報告セルヲ嚆矢トセン之レヨリ先キ千九百〇五年「スバル」リド「ダ」ノ微毒原因トシテシヤウヂン、ホフマン兩氏ニヨリ公表セラル、ヤ或ハ原生動物ナリト唱へ或ハ微菌ニ屬スベキモノナ

「キニーテ」ノ作用

リト云フ等學者ノ見ル所全ク一ナラザリシト雖氏ハ其恐ク原生動物ニ屬スル者ナランヲ信ズルト共ニ間歇熱ニ對スル規尼涅ハ特効ヲ想起シ茲ニ「キニーテ」療法ヲ開始スルニ至レリ

「キニーテ」ハ細胞原形質ヲ侵シ營養新陳代謝ノ状態ヲ變ズルト共ニ彼ノ「プラスモヂウム」ノ如キ最下等ノ動物ニ對シ其「プロトプラスマ」毒トシテ極メテ有力ニ作用スルモノニシテ又滴虫ノ如キモノニ對シテハ既ニ其千倍乃至二千倍ノ溶液ヲ以テシテ容易ニ其運動ヲ絶止スル作用アル者ナリ之ヲ以テ若シ果シテ「スバル」リド「ダ」ニシテ原生虫ニ屬スベキ者ナランニハ「キニーテ」ノ微毒ニ對スル効果ハ全然原因的療法ノ主旨ニ適スル者ト想定シ得ベキニテ其効果ノ大ナル或ハ寧ロ水銀劑ノ上ニ出ズル者ナルヤ計ラレザルベシト雖レンツマン氏ノ實驗ハ不幸未ダ水銀劑ヲ凌駕スルニ足ルノ成績ヲ得ルニ至ラズ其第一回報告一九〇八年「ニヨレ」規尼涅療法ハ微毒ニ効果ヲ奏シ得ルコト疑ナシ然レモ其再發ヲ防歇シ得ルヤ否ヤハ他日ハ觀察及動物試驗ノ成績ニ待タザルベカラザレバ今茲ニ明言スル能ハズト雖今日ニ於テモ水銀劑ヲ用ヒ得ザル場合ニ於テ水銀

レンツマン氏ノ報告

レンツマン氏ノ治療法

劑ノ代用トシテ規尼涅療法ヲ企ツルハ理論上又實際上趣味アルナレバシト述ベ最近千九百〇九年ノ報告ニハ尙未ダ今日ニ至ル迄ハ成績ヲ以テシテハ病原體ニ對シ充分ニ作用セシム得ザルヲ遺憾トス水銀劑ハ尙驅微藥トシ其主權者タルベクキニーチハ沃度アルザチエチン等ト共ニ水銀ノ副治療藥タルベキカト云ヒ彼ノ初年ニ抱ケル理想モ衰レズバルリ一ダノ發見ト共ニ發現シタル一空想的療法ト卑下シ去ラレントスル窮境ニ陥リ來リタルモノ、如シサレド尙レンツマン氏以外ナツブ氏ノ好果ヲ得タル實驗報告廿二例ノ微毒患者ニレンツマン氏法ニ從ヒ靜脈注入法ヲ行ヒタルニ假令スクレイン酸ヲ注射セザルモ能ク其奏功アリ就中十五名ハ唯此法ヲ以テノミシテ目的ヲ達スルヲ得タリトアリ又フレンク氏ハ水銀療法ノ前後ニ行ヘバ至大ノ効果アルヲ唱フル等意ヲ同フスル者亦尠ナキニ非ズ今茲ニ參考ノ爲レンツマン氏ノ方法ヲ畧述スレバ先ヅ鹽酸キニーチ一〇〇食鹽〇・七五餛水一〇〇〇ノ液ヲ製シ用時之レヲ加温シ内容凡ソ四立方仙迷ヲ有スルリーベルグ氏硝子製注射器ヲ撰ミ之ニ右液三立方仙迷ヲ吸取シ肘關節内面ノ懸張シタル正中靜

脈内ニ貴重靜脈頭靜脈モ可ナリ徐々ニ注入ス最初三日間ハ毎日一回次ニ三日毎ニ一回後ニハ四乃至五日毎ニ一回注射ス而シテ注射量ハ漸次増量シテ凡ソ十四乃至二十日間ニキニーチ全量四・五乃至五・五ニ至ラシム尙レンツマン氏ハ一面ニ於テ白血球増加ヲ起サシムル目的ヲ以テスクレイン酸キニーチキニーチ六〇%スクレイン酸四〇%ヨリ成ルヲ製シ之ヲ筋肉内ニ注入シテ靜脈内注射ノ補助療法トセリ(千九百〇八年)

一〇%ノ乳酸キニーチ二〇・八%ノクロールナトリウムヲ混ジタル液ヲ初メ二日間毎日二回二立方仙迷宛(乳酸キニーチ二〇%靜脈ニ注入シ少シモ耳鳴等ヲ起サザルキハ一日一回三立方仙迷後ニハ一日一回四立方仙迷宛注射シ九乃至十二日ノ後チ乳酸キニーチノ全量四・〇ニ至ル迄持續ス而シテ後毎日廿五日間藏化水銀〇・〇一五乃至〇・〇二ヲ注射シ後ニアルザチエチンヒニン一瓦中ヒニン〇・五三九一アルザチエチン〇・四三〇九ヲトリップ油ニ六%ノ割合ニ振盪合劑セルモノヲ一週二回十瓦宛注射シ後ニ沃度加里ヲモ投ズト(千九百〇九年)

「ヘトール」

ヘトール (Heol) プロレマン氏ハ諸多ノ驅微藥例ヘバ水銀沃度亞砒酸ニ
トキシール「キニーチ」等ガ皆白血球ノ増加ヲ與フルヨリ考ヘ「ヘトール」ノ
白血球ヲ増加スル性アルヲ利用シ之ヲ驅微療法ニ試ミ一乃至四%液注
射法良果ヲ得タリト蓋シ未ダ一般學者ノ賛成ヲ得ルニ至ラズ

ヌクレイン酸 (Nukleinsäure) ステルン氏ハミクリツ、ハンチス氏等ノ人工的
ニ白血球ヲ増加セシムルハ人體ノ抵抗ヲ増加セシムル所以ナリテフ報
告ヲ基礎トシ一〇%ヌクレイン酸注射平均注射量〇・五ヲ水銀療法ト併
用セリ

「ファゴチチン」

ファゴチチン (Phagocytin) 一種ノ純ヌクレイン酸那篤留談ニシテメチニ
コフ氏ノ「ファゴチチン」論ヲ基礎トシ製出セラレタルモノナリ即チ先ヅ
白血球ノ増加ヲ起サシメ次テ白血球ノ喰菌作用ヲ盛ナラシメ以テスバ
ルリーダ「ラ」喰盡セシメントスルニアリテ注射量普通一日〇・〇五特ニ頑
固ナル者ニハ一日二回行フシユテー氏ハ微毒ノ二十例ニ試ミ満足ノ結果
ヲ得タリト副作用ナク且ツ他ノ疾病ニモ亦應用セラルト云フ

肝油

肝油 (Leberthran) 惡性微毒ノ項ニ述ベタルガ如ク結核腺病性患者ニ特效

鐵

アリー一回量五・〇ヨリ漸次増量三〇・〇ニ至ル沃度ヲ混ジ用フレバー一層著
効アリ沃度〇・〇七肝油五〇・〇一回五・〇ヨリ三〇・〇ニ至ル
鐵 (Eisen) 水銀劑ヲ永ク使用スルキハ赤血球及ビ血色素ヲ破壊スル傾キ
アルヲ以テ之ヲ補ヒ恢復セシムル爲鐵劑ヲ必要トスル人尠ナカラズ殊
ニ貧血性又ハ遺傳微毒兒ニハ緊要ナリト云フ之ヲ用フルニハ沃度ト結
合セシメテ沃鐵舍利別トシテ用フルアリ又植物性鐵劑或ハ「フェラチン」
「ヘマトーゼ」等ノ純蛋白質劑トシテ用フルコアリ

第二章 局所療法 Ortliche Behandlung

微毒ハ全身の傳染病ナルヲ以テ先ヅ全身療法ヲ施シ出來ル丈充分ニ其
病毒ヲ殺滅シ且ツ之レヲ排除シ盡シテ其病的現象ヲ根本的ニ治癒セシ
ムルヲ第一ノ要義トナスト雖其全身症狀ニ隨伴シ來ル局所疾病ニ對シ
能フ丈速カニ之レガ全治ヲ結果セシメン爲メ全身療法ニ兼テ局所療法
ヲ行フハ亦必要缺グベカラザル手段ト云ハザルベカラズ此手段ニ二ア
リ

局所療法ノ要旨及
手段

局所療法

一、局部ヲ清潔ニシ病竈ノ刺戟ヲ去リ新生物ノ蔓延増殖ヲ防グ
 二、特效ヲ有スル藥物ヲ適用シ可及的速ニ全治ヲ計ル
 多クノ場合全身療法ハ局部療法ヲ兼テ作用スルモノニシテ其効果ハ
 局部ニモ及ブヲ常トス例之バ塗擦療法ヲ行フトキ其全身ニ驅微療法ト
 シテ作用スル外能ク局部ノ微毒性發疹又ハ新生物ニモ作用シ之ヲ塗擦
 セザル他部ニ比スルニ其消散治癒ヲ早カラシムルガ如シ

一、初期硬結 Initialafekt

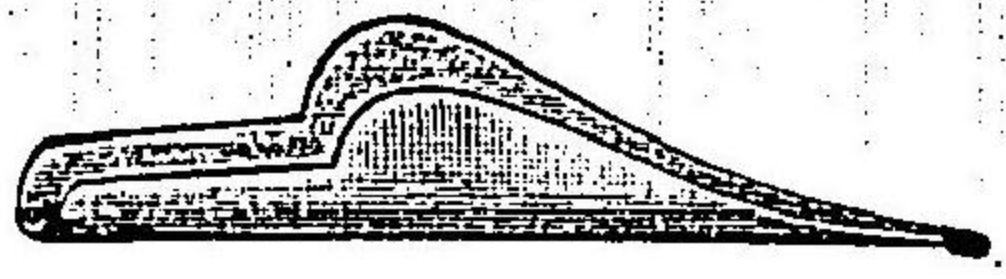
レナ氏等ノ切除ニ因スル轉移問題ヲ暫ク論外ニ置ク片ハ先キニ全身療
 法ノ項ニ述ベタルガ如ク初期硬結ノ切除 (Excision des Primäraffektes) ハ之
 レヲ豫防及全身療法ノ上ヨリ見テ無害無益ナルト共ニ局部療法トシテ
 却テ第一期癒合ヲ以テ治ニ至タラシメ得ベキヨリ其治期ヲ早メシムル
 點ニ於テ寧ロ利益アルモノト認メザルヲ得ズ蓋シ切除シテ後ニ機能障
 害ヲ殘ス如キ部位ニ於テハ寧ロ自然ノ吸收ヲ待テ其組織短縮ニ因スル
 障害ヲ殘サハラシムルヲ可トス即チ繫帶龜頭冠溝ノ如キ部位ニ生ゼル

局部療法トシテ切
 除法ノ利害

切除法

局部療法トシテ傾
 推療法ノ利害

第七十圖



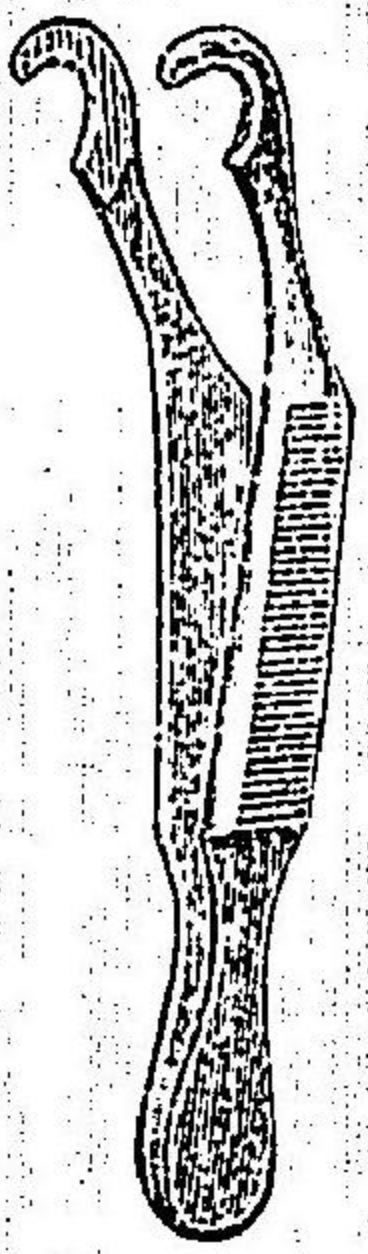
器出摘氏一ロド

モノハ假令之レヲ切除スルニヨリ其治期ヲ早メ得ベシトスルモ其組織
 缺損ノ爲局部組織ノ短縮ヲ來スコト著シク自然爾後ノ交接ニ際シ其局
 部ニ抵抗ヲ感ゼシムルコト大ニ爲ニ糜爛上皮剝離等ヲ起サシメ易キ傾
 向ヲ與フルヲ以テ此ノ如キ部位ニ於ケル初期硬結ニ對シテハ可成的切
 除法ヲ避ケ其行フテ殆ンド後ニ此ノ如キ害ヲ殘サハル餘剩ノ皮膚ニ富
 メル包皮等ニ於テノミ整形的手術ニ則リ輪狀若クハ半輪狀ニ同一位置
 ニ存スル健皮ト共ニ切除シ其治癒後ノ器械的抵抗
 ヲ切除部位ニノミ感ゼザラシムル如ク手術スルヲ
 可トス此目的ニ向テ製作セラレタル切除器ニド
 ー氏ノ摘出器第十七圖並ニドロー氏ノ摘出用「ピン
 セット」(第十八圖)及ビ(第十九圖)ノ如キ「ピンセ
 ヲ」何レモ用ヒテ便利ナルモノナリ
 微毒ノ傾推療法 (Abortive Behandlung) トシテ燒灼法 (Ka-
 uterisation) アリ之ニ烙鐵 (Glutisen) ホーランド氏ノ熱氣燒灼裝置 (Heissluft
 Brennaparat) アリ其他腐蝕藥 (Cautika) ニ磺酸腐蝕加里石炭酸等アルハ先

局部療法

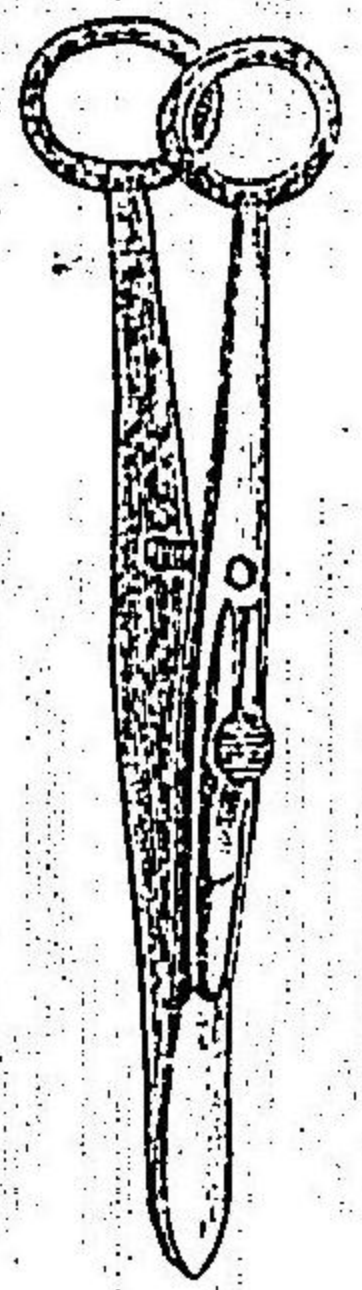
キニ全身療法ノ項ニ述ベタル如クナルガ皆其ニ之ヲ局所療法ニ時ト場

フロート氏ノ抽出用「ピンセット」



第十八圖

抽出用「ピンセット」



第十九圖

ヨリ反テ頓挫的手段ヲ取ルヨリ善良ナル經過ヲ與ヘ得ルモノハ如シ想
フニ之レ初期硬結ノ組織的變化ハ軟性下疳ニ於ケルガ如ク潰瘍ニ初マ
リ次デ真皮ニ炎症浸潤ヲ與フト全然其傾向ヲ異ニシ何時ニテモ表皮ノ
破壊剝脱ハ皮下ノ浸潤ニ對シ次發的現象 (Sekundäre Erscheinung) トシテ現
ハレ來ルモノニシテ其未ダ皮下浸潤ノ著シカラザル場合ニ於テハ更ニ

單純ナル初期硬結
ニ頓挫療法ノ適應
セザル理由

表皮ノ破壊剝脱ナキカ若クハ其變化僅微ニシテ皮下浸潤高度ナルニ及
ビ玆ニ始メテ表皮ノ破壊剝脱ヲ來シ硬性下疳特有ノ糜爛潰瘍面ヲ呈ス
ルニ至ルヲ常トス此ノ如ク硬性下疳ノ浸潤ヲ先ニシ表皮ノ剝離糜爛ヲ
後ニスル所以ノ理ハ先ヅ「ス、パ、リ、ー、ダ」ノ表皮ヲ通ジテ侵入スルヤ真皮及
乳嘴體部ニ圓形細胞ノ浸潤ヲ來シ組織膠樣質ノ充實ト共ニ乳嘴體及網
狀層ニ於ケル靜脈ヲ壓迫シ先ヅ乳嘴體ニ於ケル毛細管ニ鬱血ヲ起サシ
メ次テ表皮ノ營養ヲ障害シ浸潤一層著大高度トナルニ從テ該部表皮ニ
對スル壓開緊張一層強烈トナリ表皮ノ剝離糜爛ヲ起サシメ其進ムニ從
テ當該上皮圓錐體ヲモ壓上破壊シ浸潤面外部ニ露出スルニ至ルモノニ
シテ要スルニ硬性下疳ハ表面ニ於ケル糜爛潰瘍ヲ本來トスルモノニア
ラズシテ寧ロ此ノ如キハ單ニ初期硬結ナル一腫瘍ノ表面ニ露出シ來
リシ結果ト見ルヲ至當トス(第四表第一圖ヲ見ヨ)之ヲ以テ假令強烈ナル
頓挫的手段ヲ取リ其糜爛面ヲ燒灼又ハ腐蝕スト雖原因的病竈タル深部
浸潤ノ吸收セラレザル限リ表皮營養ノ恢復ハ到底望ムベカラズシテ從
テ上皮ハ發生ヲ遂ゲシムル能ハザルハ見易キハ理ナリ之レヲ事實ニ徵

混合下疳

スルモ軟性下疳ニ於テハ此ノ如キ頓挫法ヲ以テシテ容易ニ早ク上皮ノ發生ヲ促シ得ベキニ反シ初期硬結ニ於テハ其糜爛面軟性下疳ニ比シ甚ダ淺在輕症ナルニ關セズ尙モ其浸潤ノ去ラザル限リ頑固ニ治療ニ抵抗スルヲ實驗スルヲ常トス之ヲ以テ吾人ハ初期硬結ニシテ普通ノ状態ヲ保ツ場合ニ於テハ寧ロ此ノ如キ腐蝕燒灼法ヲ取ラズシテ極メテ緩和ナル普通療法ヲ取ルヲ良トス然レモ彼ノ混合下疳 (Genischer Schanker) ニ於テハ硬性浸潤ノ結果前ニ述ベタルガ如キ局部ノ營養障害ヲ來セル場合ニ軟性下疳ノ破壞性ヲ帶ビ來ルヲ以テ其組織ノ破壞甚ダ激シク恰カモ彼ノ侵蝕性下疳 (Phagedanischer Schanker) ニ見ルガ如キ狀況ヲ呈スルニ至ルヲ以テ此ノ如キ際ニハ初メニ腐蝕燒灼ヲ加ヘテ其侵蝕性ヲ頓挫セシムルヲ可トス

初學者ハ混合下疳ナルモノハ初メヨリ混合下疳特有ノ特徴ヲ以テ來ルモノ、如ク考フレモ決シテ初メヨリ混合下疳特有ノ状態ヲ呈シ來ルモノニアラズ其初メ同時ニ感染シタル場合ニ於テハ先ヅ軟性下疳特有ノ潜伏期一日乃至三日ヲ經テ軟性下疳特有ノ潰瘍ヲ生ジ其經過

初期硬結ノ處理

スルニ從テ二週若クハ十數日ヲ經過シ初期硬結發生ノ時期ニ近ツクニ從テ硬性下疳特有ノ性質ヲ混シ來リ凡ソ三週ニ達ノ初メテ混合下疳特有ノ状態ヲ呈スルニ至ルモノニシテ若シ軟性下疳ノ經過中ニ傳染シ又之ニ反シテ初メニ硬性下疳ヲ患ヒ其經過中ニ軟性下疳ヲ發セル片ニ於テハ其傳染ノ時期ニ從テ相當程度ヲ異ニセル混合下疳ヲ生ズルモノナルコトヲ顧慮セザルベカラズ

單純ナルモノハ昇汞水ノ洗滌ヲ行ヒ沃度吻ヲ撒布シ且ツ之ヲ昇汞濕布「ガ」ニテ卷キ制腐繃帶ヲ一日、二、三回、交換スルニヨリ容易ニ漸次治ニ就カシメ得ベシ然レモ表皮ノ新生セザル間ハ疼痛ヲ感ズルト共ニ時トシテ蜂窩織性炎症 (Phlegmonöse Entzündung) ヲ發スルナキニアラザルヲ以テ可及的速カニ上皮ヲ發生セシムル手段ヲ取ラザルベカラズ殊ニ包皮ノ内面就中繫帶ノ兩側ヨリ冠溝ニ沿ヒタル部分及腔口ニ於ケルモノハ其不潔ニナリ易キ點ヨリ自然ニ治期ヲ遷延スルコト多キヲ以テ常ニ之等部位ニ於ケルモノニ就テハ其清潔ニ勉メ且ツ適當ノ治療ヲ以テ上皮ノ發生ヲ速カナラシメザルベカラズ沃度吻ノ代用藥トシテ用ヒラル、

沃度吻ノ代用藥

之等代用藥ハ沃度
吻チ用ヒ能ハザル
場合ニ代用シ得ル
ノミ
膿様崩壞若シクハ
脂肪被蓋ヲ有セ
ル場合

モノ其種類甚ダ多シ「ライロフェン」(Europhen)「キセロフォルム」(Xeroforn)
「ゾイラフォルム」(Vioform)「イゾフォルム」(Isoform)「アイロール」(Aircol)「エド
ル」(Edol)「デルマトール」(Dermatol)等之ナリ然レモ之等ハ皆其効力ニ於
テ之レヲ沃度吻ニ比シ未ダ必ズシモ優レルモノト認ムル能ハズ世人往
々之等新藥ノ用フベキヲ唱フル人尠ナカラズト雖著者ハ沃度吻ノ最モ
確實ニシテ且ツ有力ナルヲ信ジテ疑ハザルモノニシテツアイスル氏ハ
之等代用藥中「ライロフェン」ヲ沃度吻ニ次グモノトシフインゲル氏ハ「ヨ
ドール」ヲ沃度吻ヨリ僅カニ弱キモノト認メリ要スルニ之等新藥ハ皆沃
度吻ノ代用藥 (Ersatzmittel) トシテ沃度吻ヲ用ヒ能ハザル場合例ヘバ其臭
氣ヲ嫌フハ若クハ沃度吻ニ特異關係アリテ用ヒ能ハザルハ等ニ代用シ
得ベキモノトス著者ハ好シク初メニ沃度吻ヲ用ヒ其稍ヤ肉芽可良トナ
レルモノニ「アイロール」(Dermatol)ノ等分ヲ用ヒ其上皮ノ發生ヲ認ム
ルヤ直チニ「アイロール」軟膏ヲ塗用スルヲ常トス
膿様崩壞若クハ脂肪被蓋 (Der eitrige Zerfall, spackige Beleg) ヲ形成セル
モノハ一%昇汞水又ハ鹽酸加里五・〇 餛水五〇・〇或ハ硫酸銅五〇 餛水

五〇・〇ノ液ヲ温メ之ヲ以テ浴療法ヲ行ハシメ硫酸銅三・〇 餛水三〇・〇
又ハ硫酸銅一・五ヲゼリン三〇・〇ノ合劑ヲ木綿ニ浸シ若クハ塗り之ヲ一
日二回交換セシムベク假令疼痛ヲ感ズルヲ著シキモノト雖忍ンデー〇
%昇汞アルコール又ハ一〇%昇汞エーテルヲ糜爛面ニ塗布セシメ後チ
沃度吻撒布制腐繃帶ヲ行フヲ可トス此ノ如クシテ尙其破壊崩壞相次イ
テ來ルモノニハ次ノ沃度劑ヲ賞用ス

沃度加里 一・〇

純沃度 〇・一

餛水 五〇・〇

右液ヲ「ガーゼ」ニ濕シ繃帶シ尙二三日毎ニ一回宛沃度丁幾ヲ崩壞面

ニ塗布ス

沃度吻末 一・〇

「ワレーフ」油 一〇〇・〇

又ハ

沃度吻末 一・〇

硫酸エーテル

七〇

「フレー」油

七〇

右木綿ニ濕シ用フ

沃度吻末

五〇

硫酸エーテル

三五〇

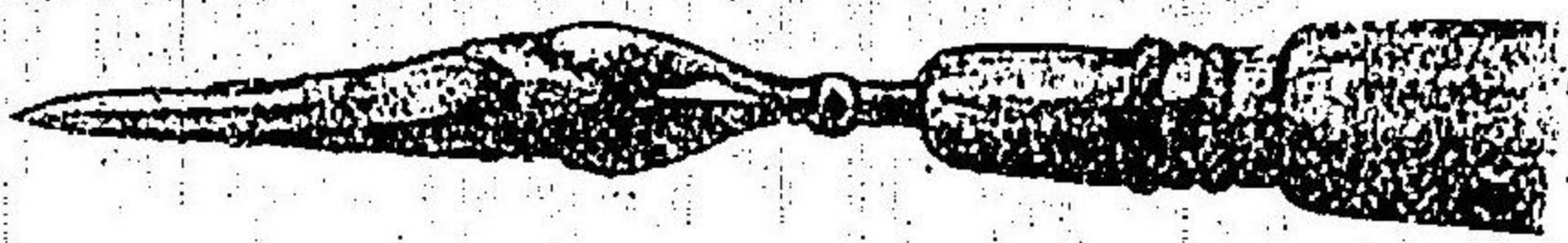
右リカルドソン氏霧撒器ヲ以テ下疳面ニ撒布ス

侵蝕性崩壊ヲ呈セル場合

侵蝕性崩壊 (Phagedenischer Zerfall) ヲ呈セルモノニハ前ニ述ベタル燒灼法
 腐蝕法ヲ應用シ兼テ前法ニ從テ處置スベシ腐蝕法中最モ至便ニシテ有
 効ナルハ石炭酸腐蝕法ナリ之ヲ行フニハ可成吸收性ニ富ム木片例ヘバ
 杉箸ノ如キヲ撰ミ之ヲ恰モ「ペン」狀第二十圖ノ如クニ削リ先ヅ之ヲ以テ
 石炭酸ノ一小滴ヲ局部ニ塗布シ暫ク其深部ニ及ビテ腐蝕スルヲ待ツベ
 シ疼痛ハ塗布ノ一瞬時ニシテ敢テ後ニ疼痛ヲ感ゼザルヲ常トスレドモ
 若シ患者神經過敏ニシテ激シキ疼痛ヲ感スル者ニハ「アコイシ」ノボカイ
 「ニコカイン」等ノ局所麻醉藥一二滴ヲ點滴スルモ可ナリ然シ其點滴餘リ
 早キニ失スル片ハ石炭酸ノ濃度ヲ稀釋ナラシメ其効力ヲ弱カラシムル

旅行其他ノ事情アル場合

第十二圖



石炭酸腐蝕器

ニ至ルヲ以テ患者若シ餘リニ過敏性ナル片ハ寧ロ
 塗布前ニ注射スルカ若クハ點滴スルカ何レカノ手
 段ヲ以テ局部ヲ麻痺セシメ置クヲ可トス而シテ石
 炭酸ノ塗布後ハ其浸潤部ノ深サ如何ニ從テ深ケレ
 バ深キ丈ヨリ多ク其塗布面ヲ靜カニ注意シテ輕摩
 シン、腐蝕ヲヨリ深部ニ及ボサシムルニ勉ムベシ
 旅行其他ノ事情上一定ノ方法ニ從テ處置スル能ハ
 ザルトキ、若クハ可及的簡單ノ治療ヲ必要トスル場
 合ニ於テハメチニコフ氏ノ一〇%乃至三〇%ハ廿
 五軟膏ヲ用ヒシムルヲ可トス其他「アイロール」軟膏
 又ハ制腐的軟膏ヲ用ヒシムルモ可ナリ
 上ノ發生ヲ認ムルニ至レバ撒布藥ノ適用ヲ中止シ軟膏劑若クハ油劑
 ヲ用フベシ之レ撒布藥ハ創液ヲ吸收シテ「ガーゼ」等ニ固着シ恰モ下疳面
 ヲ被蓋スルガ如キ狀態ヲ呈スルニ至リ内ニ分泌液ヲ貯留セシメ以テ新
 生セントスル上皮膚ヲ崩落破壞ニ陥ラシムルハミナラズ繃帶交換ニ際シ

治療上ノ注意
上皮ノ發生ヲ認ム
ルニ至リタル場合

テ之等新生セル上皮細胞ヲ剝離セシムル傾キアレバナリ之ニ反シテ軟膏又ハ油劑ハ盛シニ上皮ノ發生ヲ促進スルハミナラズ反テ此ハ如キ弊害ヲ防グト同時ニ一面纖弱ナル上皮細胞ヲ保護シテ上皮ノ治癒機轉ヲ迅速ナラシムル利益アリ軟膏若クハ油劑ノ塗貼材料トシテ脱脂綿ヲ用フル人アレモコハ大ナル誤リナリ之レ脱脂綿ハ脂肪ヲ吸收シテ軟膏若クハ油劑ハ働キヲ不充分ナラシムルヲ以テナリ宜シク殺菌セル常綿ヲ用フベキナリ軟膏又ハ油劑トシテ次ノ如キ製劑用ヒラル

アイロール

三〇〇

豚脂

三〇〇

右軟膏トナシ用ユ

キセロホルム

二〇〇

ワゼリン

八〇〇

右同前

カロメル

五〇〇

ワゼリン

五〇〇

上皮完成セルカ若クハ新生上皮ノ強固ナル場合

遺殘セル浸潤性硬結ノ處置

右同前

沃度ホルモーゲン

三〇〇

オレトフ油

三〇〇

右同前

既ニ上皮完成セルカ若クハ上皮ノ新生強固ニシテ既ニ其大部ヲ被蓋シ終レル場合ニハ水銀石鹼硬膏ヲ賞用ス

灰白硬膏

一五〇

石鹼硬膏

一五〇

右合劑麻布ニ塗り又ハ常綿ニ塗り用ユ

遺殘セル浸潤性硬結ニ對シテハ水銀軟膏ノ塗擦ヲ良トシ其頑トシテ感ゼザルモノニハ

昇汞

二〇〇

硫酸エーテル

二〇〇

又ハ

昇汞

二〇〇

アルコール 二〇〇〇

右液ヲ時々硬結部ニ塗附シ刺戟ヲ與ヘテ吸收ヲ促ス

著者ハ「テール」劑ノ皮下浸潤ヲ吸收セシムル作用ヲ利用シ次ノ處方ヲ用ヒ良果ヲ得タリ

灰白軟膏 三〇〇〇

アントラゾール 一〇〇

右一日二回硬結部塗擦

包莖ナルカ若クハ病的變化ノ爲包莖状態ニ陥リ爲ニ硬性下疳面ニ直接シ能ハザルモノニシテ侵蝕性ヲ帶ベルモノハ一時的只下疳面ニ直接シ得ル程度ニ手術シ以テ下疳面ノ治療ヲ行ヒ其治スルヲ待テ第二次ニ再ビ整形的手術ヲ行フベシ初メヨリ創面ヲ大ニスルハ傳染創面ヲ大ナラシムル理ヨリ害有テ益ナシ其侵蝕性ヲ帶バザルモノニハ特ニ切開手術ヲ加フル要ナク適當ナル藥物的療法ヲ以テ治ニ就カシメ得ベシ全身的療法ハ可及的行ハザルヲ可トス

包莖其他ノ場合

二、無痛性横痃 Indolenter Bubo

特別ニ治療ヲ加ヘザルモ自然ニ消散治癒スルヲ常トス然レモ混合下疳ニ續發セル者ハ化膿スルヲ稀ナラズ宜シク一般ノ横痃手術法ニ則リ治療ヲ加フベキナリ兩側ノ瘰癧様横痃(Struöse Bubonen)ニ對シ其淋巴腺ノ全摘出ヲ行フハ往々包皮陰囊大陰唇等ノ象皮腫(Elephantiasis)ヲ發セシムルコトアリ注意ヲ要ス

水銀劑ノ應用ハ可成的避ケザルベカラズ之レ局部ニ於ケル水銀硬膏貼用ト雖一面ニ於テハ早期療法ノ意味ヲ與フベケレバナリ若シ止ヲ得ズンバ沃度劑等ヲ用フベシ然レモ混合下疳ニ續發シ其經過不良ナルモノニハ之レガ局所療法上時宜ニヨリテハ水銀劑ノ塗擦水銀石鹼硬膏等ノ貼用殊ニ沃剝ノ併用ヲ必要トスルヲアルベシ

三、生殖器及肛門ニ於ケル丘疹 (Papeln am

Genitale und Anus)

局部ヲ清潔ニシテ浸潤ハ吸收ヲ促シ上皮ハ發生ヲ速カナラシムルヲ本

水銀劑ノ應用ハナ
ルベク避ケベシ

治療上ノ本旨

旨トス

糜爛増殖性ノ丘疹(Erodierte luxurierende Papeln)ニ對シテハラバラク氏ノ綿帶ヲ賞用ス

「クロール」液 一〇〇〇

餛水 一〇〇〇

右塗布用

カロメル 二五〇〇

澱粉 五〇〇〇

右撒布用

先ヅ塗布藥ヲ以テ丘疹ヲ濕シ次ニ撒布藥ヲ撒布シ濕布「ガーゼ」置キ丁字帶ヲ以テ固定ス然ルキハ丘疹面ニ生ゼル鼻汞ハ疹ニ向テ有力ニ作用ス

四、口腔粘膜ノ丘疹 Papeln an der Mundschleimhaut

口腔粘膜ニ於ケルモノハ時トシテ危険重症ナル症狀ヲ發セシムルヲ

フインゲル氏法

ルヲ以テ注意シテ處置セザルベカラズフ「インゲル」氏ハ次ノ液ヲ以テ腐蝕シ

鼻汞 一〇〇

硫酸「エーテル」 二〇〇〇

又ハ

鼻汞 一〇〇

アルコール 二〇〇〇

後チ弱度ノ鼻汞水含嗽ヲ命ジ又ハ次ノ含嗽劑ヲ與フ

鼻汞 〇〇一

アルコール 一五〇〇

餛水 一五〇〇

右一茶匙ヲ「コップ」ノ水ニ混ジ含嗽用トス

「ツイスル」氏ハ次ノ沃度「グリチェリン」ヲ塗布スベキヲ賞用セリ

純沃度 〇〇五

沃度加里 〇〇五

ツイスル氏法

グリチエリン

一〇〇

其他硝酸銀棒ヲ以テ腐蝕スルモ良効アリ然レモ口腔ノ内部ニハ應用シ難キ不便アリ著者ハ常ニ純石炭酸ヲ以テ輕ク腐蝕スルヲ賞用ス小兒ニハ次ノ液賞用セラル

純單寧末

三〇

グリチエリン

三〇〇

右塗布用

五、手掌及足蹠ノ鱗屑疹 Psoriasis Palmaris u.

Plantaris.

治療的要旨ニニア

先ヅ第一ニ鱗屑ヲ柔カニシ之ヲ除去スルヲ要シ次デ其丘疹ハ吸收ヲ促スニアリ

以上ノ目的ヲ達スルニハ温濕布若クハ温浴ヲ行ハシメ單軟膏ヘブラ氏軟膏ヲ塗布シ又硬護謄性「プラスチック」水銀硬膏ヲ日夜通ジテ貼用セシメ或ハ水銀軟膏、白降汞軟膏等ヲ塗擦ス

表皮剝離糜爛セル者ニハ

硝酸銀

〇・一

ペリユーバルサム

一〇〇

ワゼリン

一〇〇〇

右貼用シテ甚ダ効アリ局部ノ腐蝕及過度ノ刺戟ハ往々「ゴム」腫ニ變化セシムル恐アリ注意ヲ要ス

六、有毛部皮膚ノ膿胞性浸潤 Die pustulösen

Infiltrate der behaarten Haut.

有毛部殊ニ頭部等ニ於ケル膿胞ハ痂皮ヲ形成シ浸潤ヲ起シ以テ治療ニ頑固ニ抵抗スルモノナレバ先ヅ油劑ヲ用ヒテ其痂皮ヲ除キ其病竈面ヲ露出セシメ甚ダシク毛根ヲ侵セルモノハ「ビール氏」ノ拔毛「ピンセット」(第二十一圖)ヲ以テ毛髮ヲ拔去シ以テ軟膏劑ヲ其浸潤セル糜爛面ニ直接ニ適用スルニ勉ムベシ次ノ軟膏ハ

第二十一圖



トツセンビ毛拔氏ルービ

髮油

髮油 (Pomade) ト唱へ賞用セラル

- 白降汞 一〇〇
- 昇汞 〇・一
- ワゼリン 一〇〇〇
- 薔薇油 三滴

七、皮膚護膜腫 Kutane Gummata

第三期症ニ屬スルモノハ多ク皆崩壞ノ傾向ヲ有スルモノニシテ皮膚護膜腫モ初メハ健全ナル皮膚ニテ被ハルト雖後チニハ多ク崩壞シテ瘻孔ヲ形成スルニ至ルヲ常トス其皮膚健全ナルモノニハ水銀硬膏ヲ晝夜持續的ニ適用スルヲ最モ可トシ又灰白軟膏ノ塗擦ヲ行フコトアリ其皮膚破壊シ護膜腫ヲ露出セルモノニハ白降汞一〇ワゼリン一〇〇ノ軟膏ヲ貼用シ其瘻孔ヲ形成セルモノニハ昇汞水洗滌ヲ加ヘ灰白軟膏ヲ周圍ニ塗擦シ又瘻孔内ニ白降汞ヲ擦入シ昇汞濕布罌法ヲ施スヲ可トス其瘻孔治ニ就キ唯浸潤硬結ヲ殘スハミニ至レルモノニハ水銀硬膏ヲ貼用ス護

護膜腫ハ比較的モク驅微法ニ應ズルモノナリ

護膜腫ハ比較的ヨク驅微法ニ應ジテ吸收セララルモノナルヲ以テ假令波動ヲ呈セルモノ若クハ其軟化セル者ト雖可及的外科的手術ヲ加ヘズシテ水銀劑ニ沃度劑ヲ併用シテ嚴重ニ驅微療法ヲ試ミテ其經過ヲ監視スルヲ良トス殊ニ昇汞ノ護膜腫ノ如キハ既ニ瘻孔ヲ形成セルモノト雖比較的善良ニ吸收セラル、ト多キヲ以テ可及的摘除術 (Castration) ヲ避ケ其經過ヲ監視シ可成の驅微療法ヲ勉ムベシ多クノ場合合併シ來ル陰囊水腫 (Hydrocele) ニ對シテハ穿刺シテ其容水ヲ排除シ其他増殖ノ傾向ヲ有スルモノニハ特ニ硝酸銀棒ノ腐蝕ヲ行フ此ノ如キ場合ニ於ケル石炭酸及苛性加里ノ腐蝕ハ其力硝酸銀ニ遙カニ及バズ然レモ廣部ニ亘リ又皮膚ニ侵蝕性潰瘍ノ傾向ヲ伴ヘル場合ニハ昇汞石炭酸苛性加里等ノ腐蝕ヲ寧ロ可トス軟口蓋顔面其他貴重部ニ來レルモノニハ勉メテ有力ナル腐蝕藥ヲ用ヒ其進行増大ヲ停止セシメザルベカラズ

八、微毒性「ナツ」 Ozaena Syphilitica

「ラツ」ナハ微毒ノ遺殘症トシテ比較的永ク殘ルコアリ宜シク全身療法ヲ行フト共ニ稀薄食鹽水「コロルカルク」水又ハ過滿俺酸加里水ノ洗滌ヲ加フベシ洗滌時急壓ヲ加フル時ハライスタヒー氏管ニ洗滌液ヲ壓入スル恐アリ緩徐ニ他側鼻腔ヨリ反流スル如ク洗滌スルヲ要ス

九、骨膜ノ有痛性浸潤 Die Periostealen

schmerzhaften Infiltrate

疼、痛、ヲ、緩、解、シ、浸、潤、ヲ、吸、收、セ、シ、ム、ル、藥、物、ヲ、必、要、ト、ス、水、銀、硬、膏、二、〇、〇、貫、若、越、幾、斯、一、〇、ヲ、混、ゼ、ル、者、ハ、局、部、貼、用、ト、シ、テ、極、メ、テ、良、効、アリ、其、他、沃、度、丁、幾、「ラタニヤ」丁幾ノ等分液、及沃度加里沃度ノ等分液モ著効ヲ有ス之等ノ液ハ一日數回褐色ニシテ乾燥セル痂皮ヲ剝脱スルニ至ルマデ連續塗布スルヲ要ス烈シキ疼痛ト雖多クハ本劑ノ使用ニヨリ比較的早ク治ニ至ルモノニシテ近時沃度「ゾ」ト「ゲン」水銀「ゾ」ト「ケン」等亦賞用セラハ

比較的ヨク治療ニ應ズ

洗滌時ノ注意

十、骨膜炎、骨炎、腐骨 Periostitis Ostitis u.

Karies

膿、汁、組、織、崩、壞、產、物、及、ビ、腐、骨、ノ、除、去、ヲ、行、ヒ、一、般、創、傷、療、法、ニ、從、テ、處、置、ス、ベ、シ、咽、鼻、腔、ノ、手、術、ニ、對、シ、テ、ハ、殊、ニ、注、意、ヲ、拂、ハ、ザ、ル、ベ、カ、ズ、時、ニ、氣、管、切、開、術、ノ、必、要、ナ、キ、ニ、非、ズ、洗、滌、藥、ト、シ、テ、ハ、石、炭、酸、昇、汞、ノ、外、ハ、ヒ、ド、ロ、ール、過、滿、俺、酸、加、里、賞、用、セ、ラ、レ、又、吸、入、劑、ト、シ、テ、ハ、次、ノ、液、賞、用、セ、ラ、ル

洗滌藥

吸入劑

沃度加里 二・〇

純沃度 〇・〇二

餛水 一〇〇・〇

右吸入用

昇汞 〇・〇二

老利兒水 一〇・〇

餛水 一〇〇・〇

右吸入用

十一、關節、粘液囊、腱、腱鞘、 Gelenk, Schleimbeutel, Sehnen u. Sehenscheiden.

沃度丁幾、沃度、グリチエリン、沃度、ワゾーゲン等賞用セラ
其他外部ヨリ到達セシメ能ハザル深部ノ器臟ニ對シテハ一般全身療法
ヲ以テ其局所ノ療法トセザルヲ得ズ

最近黴毒療法終

圖解 (Erklärung der Abbildung)

第一表

- 第一圖 S. P. 「スピロヘーテ・パルリダ」(Spirochaete Pallida)
S. R. 「スピロヘーテ・レフリンゲンス」(Spirochaete Refringens)
扁平「コンジローム」(Condilomata lata)ノ刺戟血清(Reizserum)ヲ「ギ
ームザ」氏液一滴縮水一〇ノ混合液ニテ染色シ(Giemsa-Färbung)「ライツ」
氏油浸千倍ニテ檢シタル視野
- 第二圖 S. P. 「スピロヘーテ・パルリダ」(Spirochaete pallida)
S. R. 「スピロヘーテ・レフリンゲンス」(Spirochaete Refringens)
扁平「コンジローム」(Condiloma latata)ノ刺戟血清(Reizserum)ヲ 0.5%
ノ石炭酸墨汁ニテ處置シタルモノニシテ(Bullische Tuschverfahren)「ライ
ツ」氏油浸千倍所見

第二表

- 第一圖 a. 「ス・パルリダ」(Spirochaete Pallida)
b. 浸潤細胞(Infiltrationszellen)
c. 膠質纖維(Kollagene Fasern)
腹部皮膚ニ於ケル傳染後五週間ノ若キ初期硬結(Junge Primäraffekt)ノ切
片標本ニシテ膠質纖維間(Zwischen die Kollagenen Fasern)ニ「ス・パルリ
ダ」ノ浸入セルヲ見ル(Levaditi-Färbung)ホフマン氏ニ據ル
- 第二圖 a. 擴張セル角質層(Verbreiterte Hornschicht)ニ膿球(Eiterkörperchen)ノ
侵入セル部
b. 「ス・パルリダ」(Spirochaete pallida)
c. 粗大ナル「スピロヘーテ」(Große Spirochaeten 即チ非黴毒性ノ諸多ノ
「スピロヘーテ」)
d. 諸多ノ細菌(Bakteriengemenge)
陰部肥大性丘疹(Eine hypertrophische Papel ad Genitale)ヲ「レバヂャー」
氏法ニテ鍍銀セル切片(Lebaditi-Färbung)フインゲル氏ニ據ル

第三表

- 第一圖 a. 天疱瘡被蓋(Pemphigusblasendecke)
b. 天疱瘡内容(Pemphigusblaseninhalte)
c. 「ス・パルリダ」(Spirochaete Pallida)
遺傳黴毒(Hereditäre Lues)ニ於ケル天疱瘡ノ切片標本(Lebaditi-Färbung)
フインゲル氏ニ據ル
- 第二圖 a. 蜂窩織ノ壁ニ於ケル(In der Wand eines Alveolus)多數ノ「ス・パル

表 圖 一 第

圖 一 第

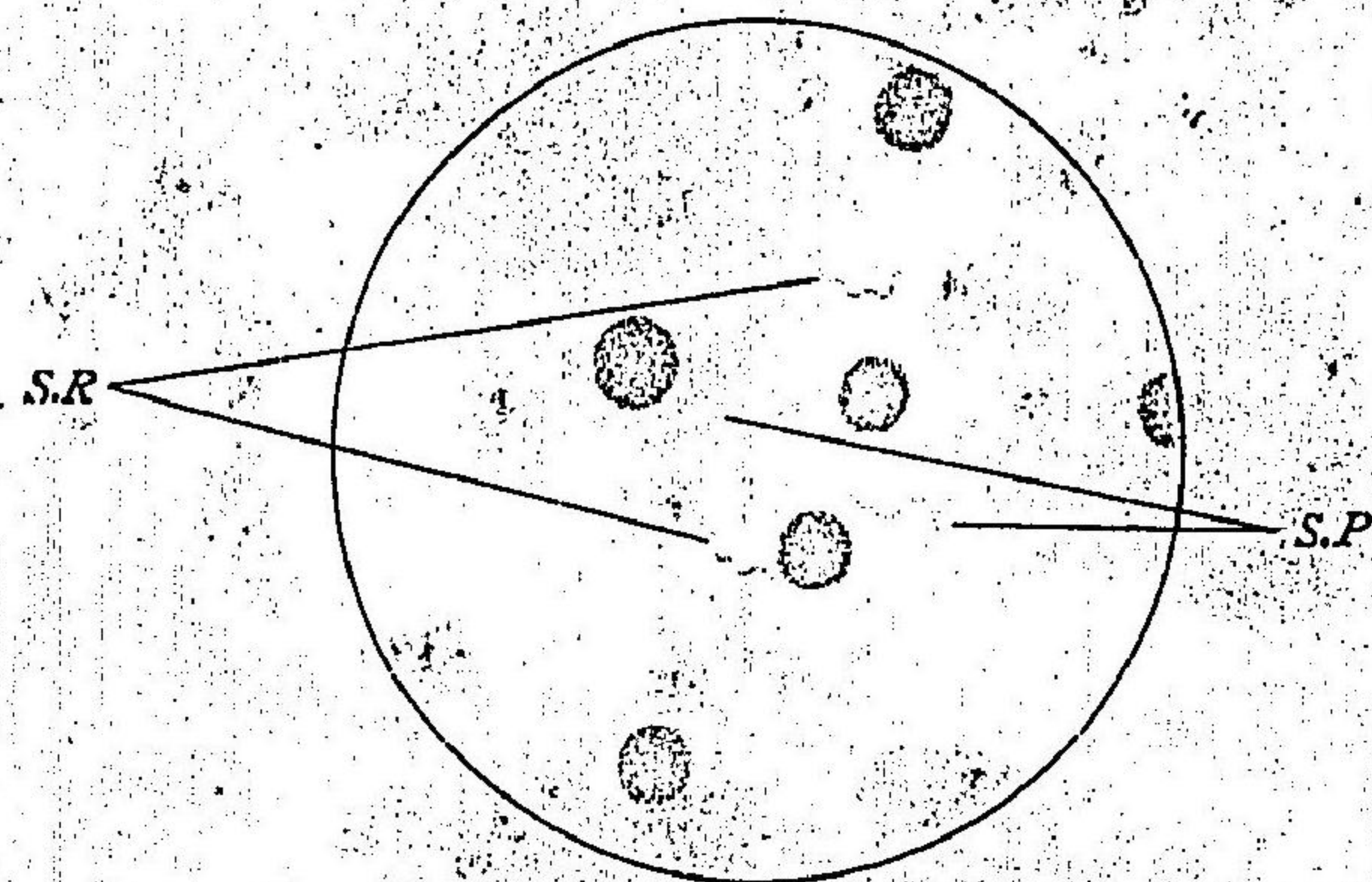
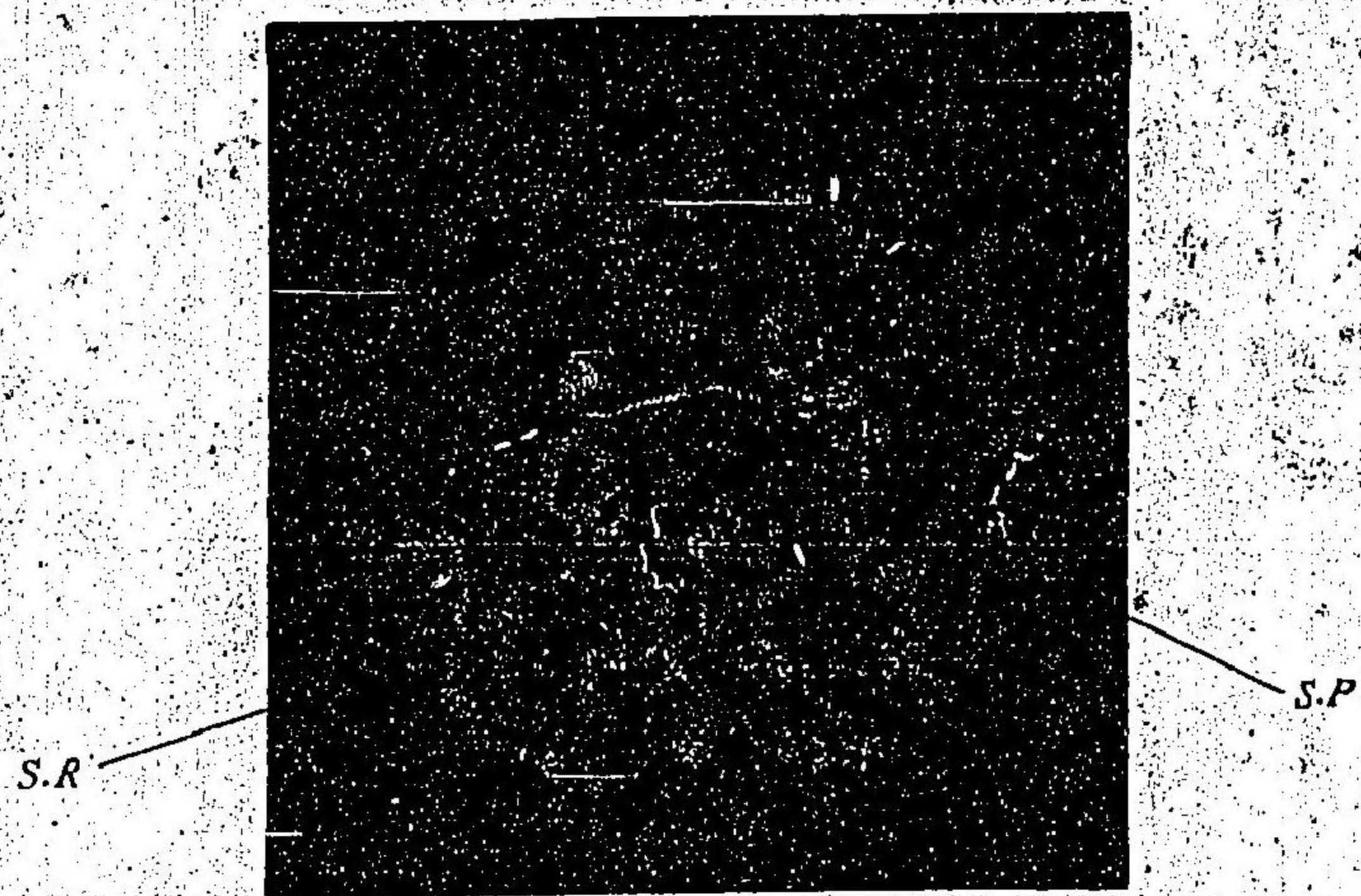


圖 二 第



リーダ」

b. 「ス. パルリーダ」ヲ有スル浸潤性ノ蜂窩織 (Infiltrierten Alveolus mit Spirochacten)

小兒ノ遺傳梅毒性肺炎ノ肺組織ヲ「レバヂー」氏法ニテ鍍銀セルモノ (Lebaditi-Färbung) フィンゲル氏ニ據ル

第 四 表

第 一 圖

- a. 初期硬結性浸潤部 (Induration) ノ外皮ヲ壓開シテ外表ニ露出セル部
- b. 「マルピギー」氏層 (St. malpighii) ノ壓迫ヲ受ケ壓縮セラレタル部
- c. 健康ナル表皮層 (normale Epidermis)
- d. 初期硬結性浸潤部ト健康部トノ境界 (比較的判明ナルヲ特異トス)
- e. 定型的梅毒性浸潤部 (Die typische Form syphilitischen Induration)
- f. 健康ナル真皮層 (Normale Cutis)
- g. 「コルベン」状ニ腫脹シタル境界ノ表皮突起 (Kolbig geschwellte Grenzzapfen)

包皮ニ於ケル初期硬結ノ切片標本 (Haemalaun-Eosin)

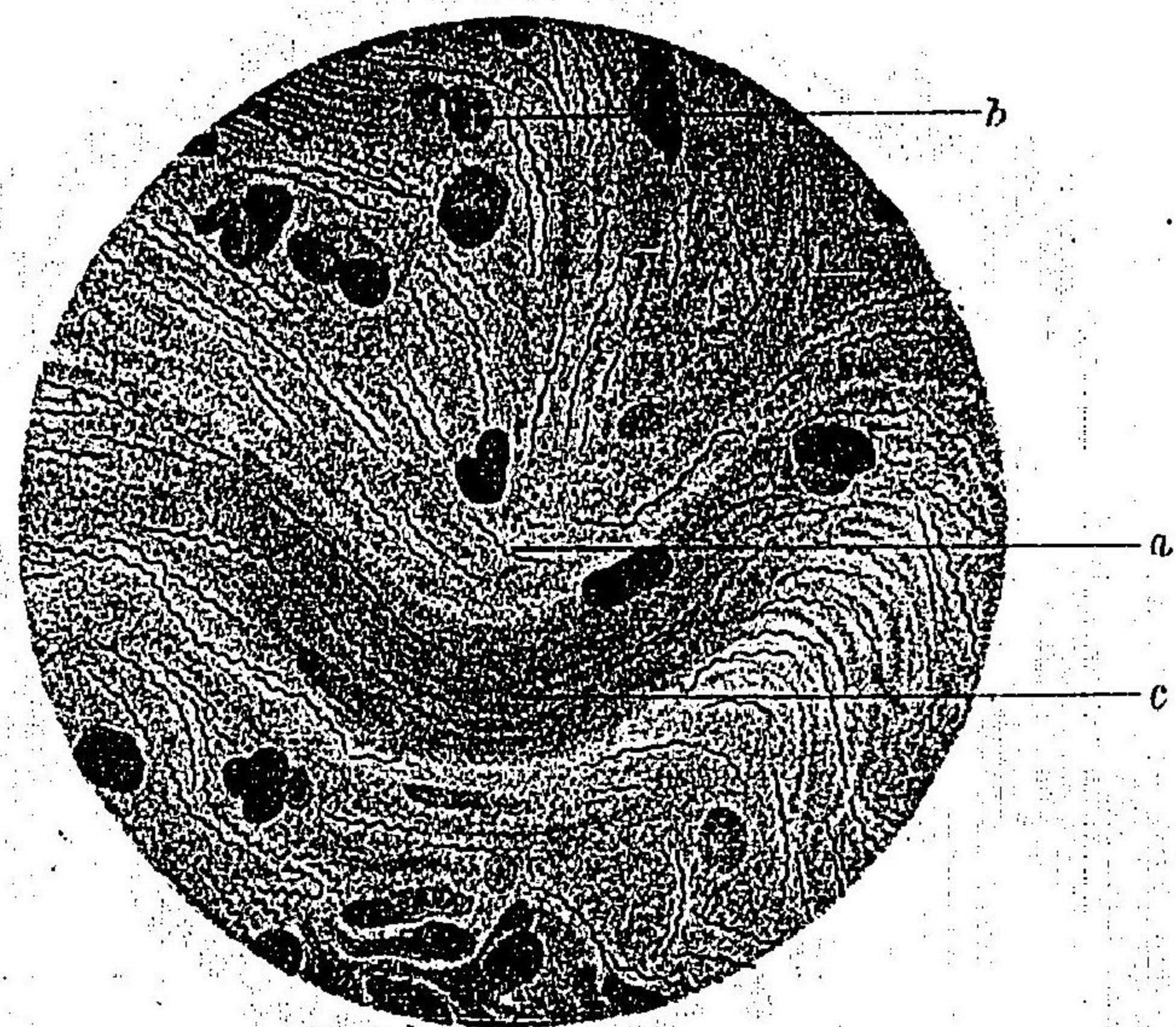
第 二 圖

- a. 軟性下疳ノ基底 (Grund)
- b. 壓迫セラレタル縁 (Minierter Rand)
- c. 「コルベン」状ニ腫脹セル「マルピギー」氏層 (Kolbig geschwellte St. Malpighi)
- d. 健康部皮下組織 (Normale Subcutis)

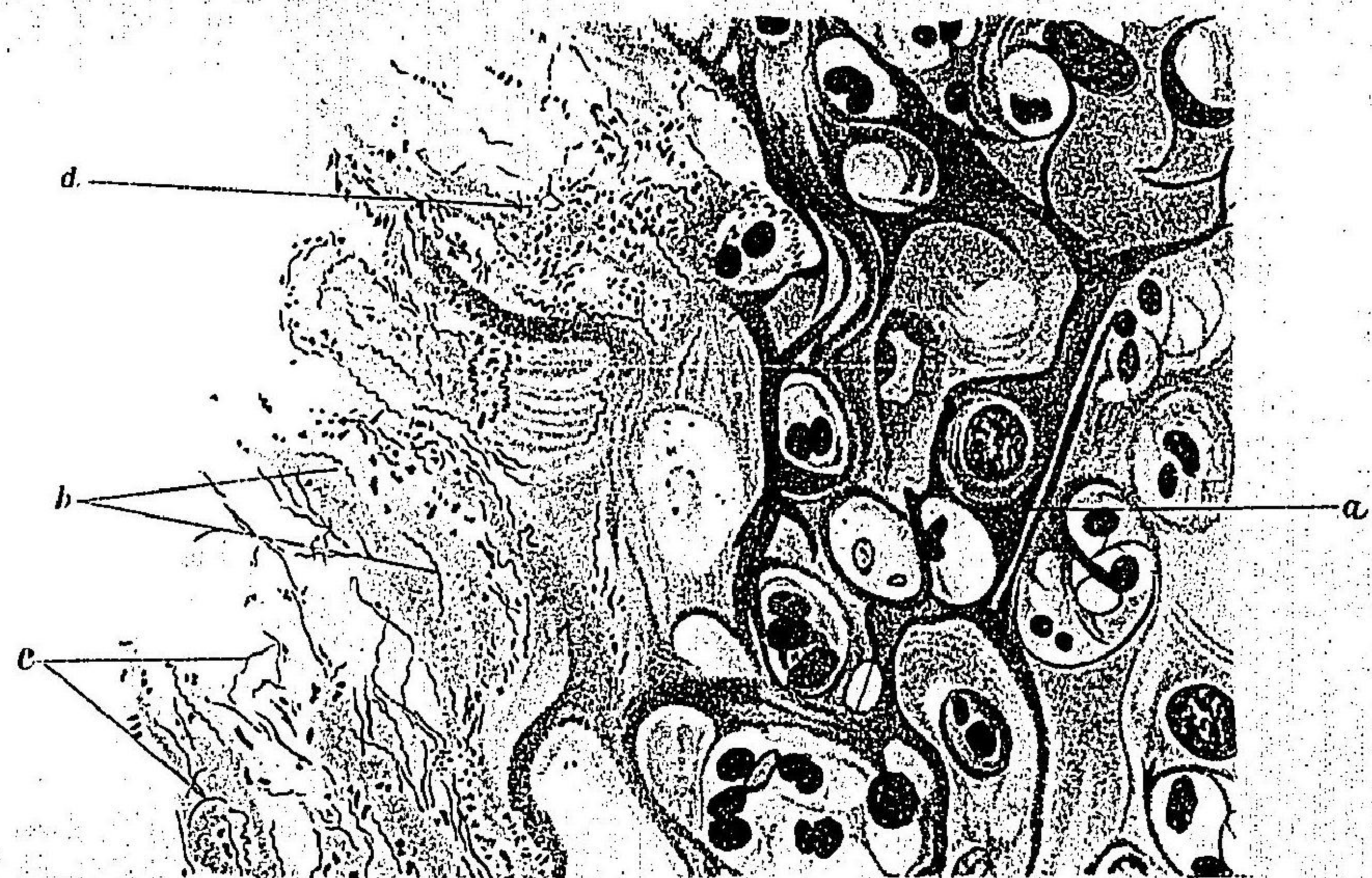
包皮ニ於ケル軟性下疳ノ切片標本 (Haemalaun-Eosin)

表圖二第

圖一第

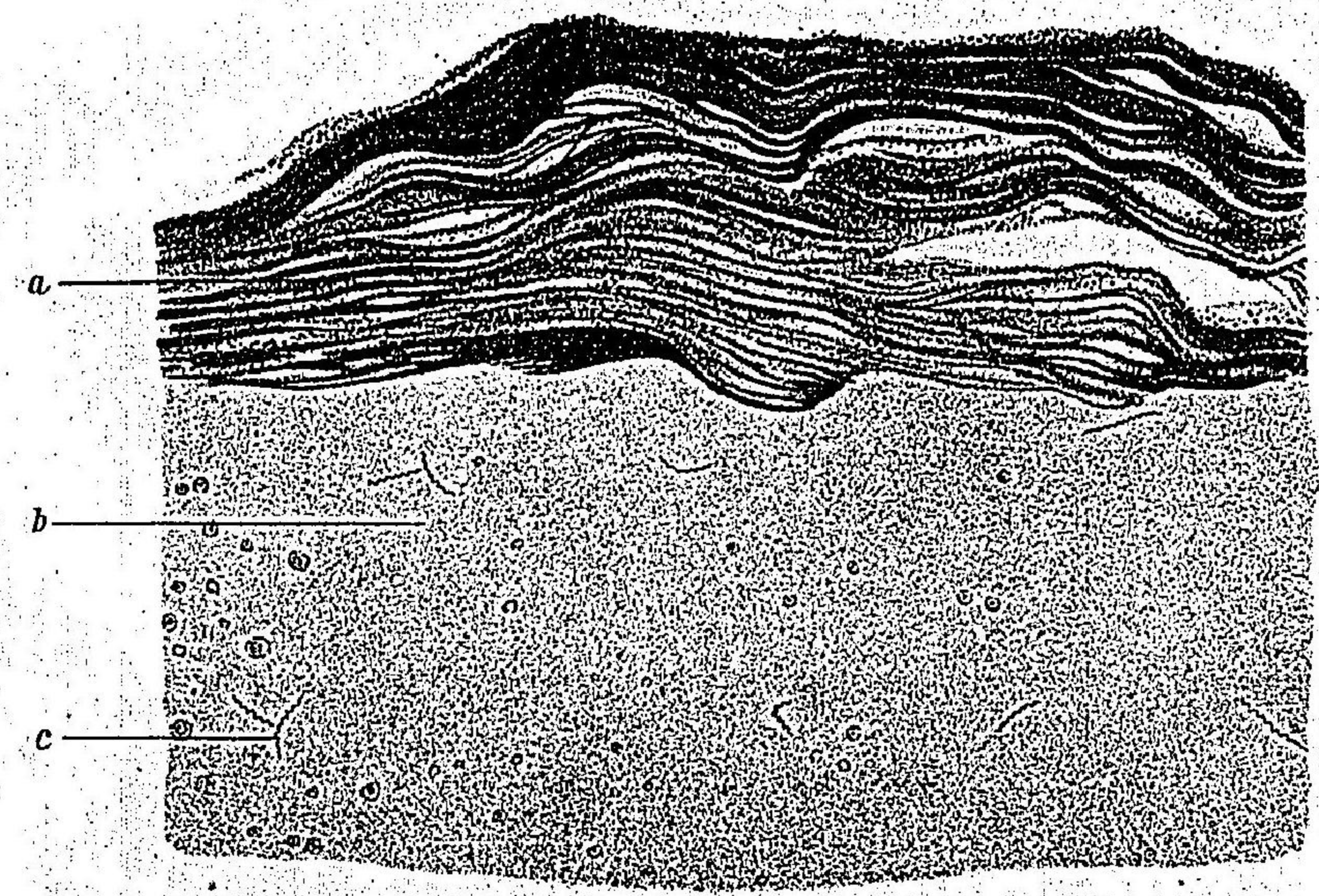


圖二第

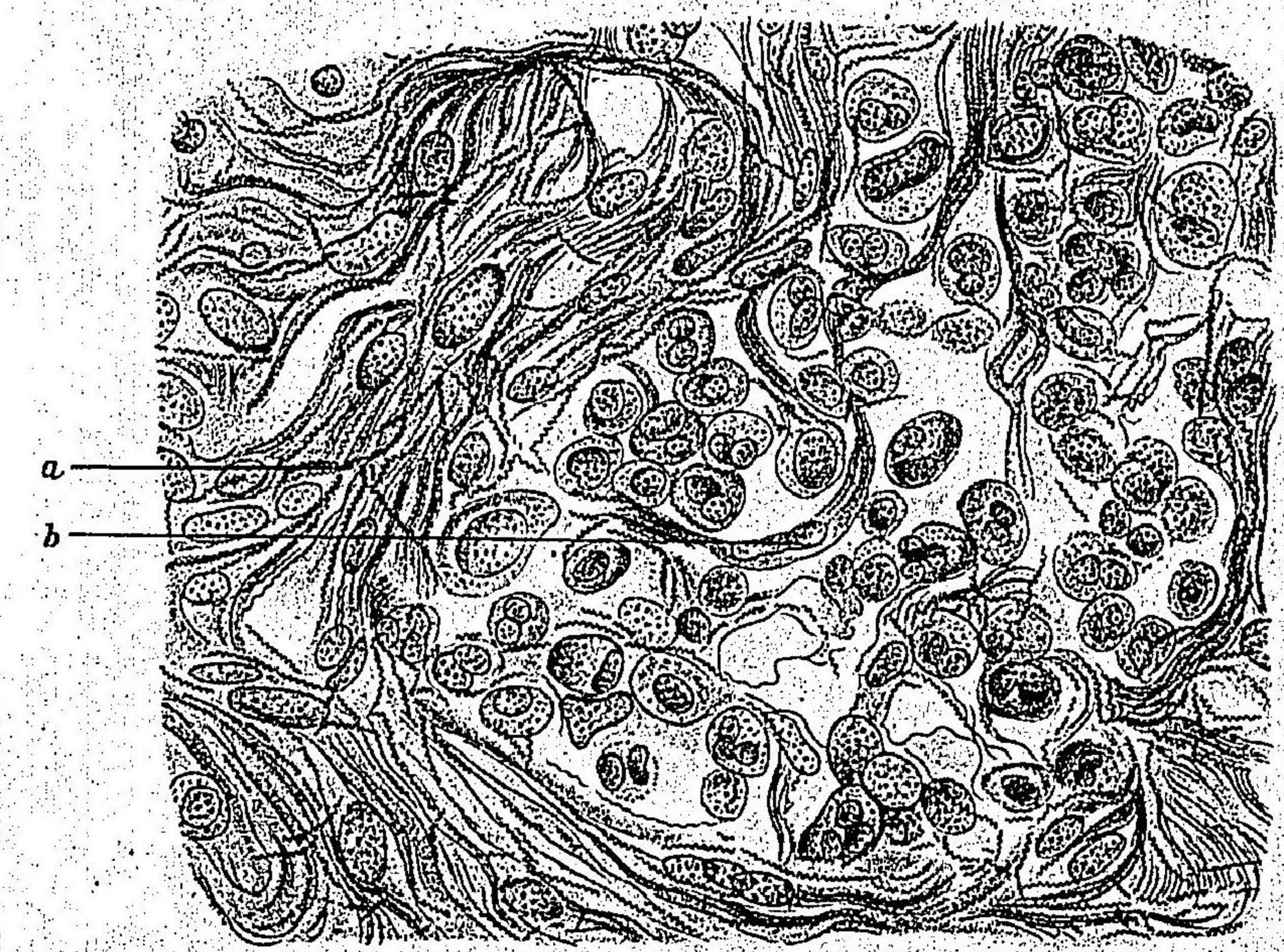


表圖三第

圖一第

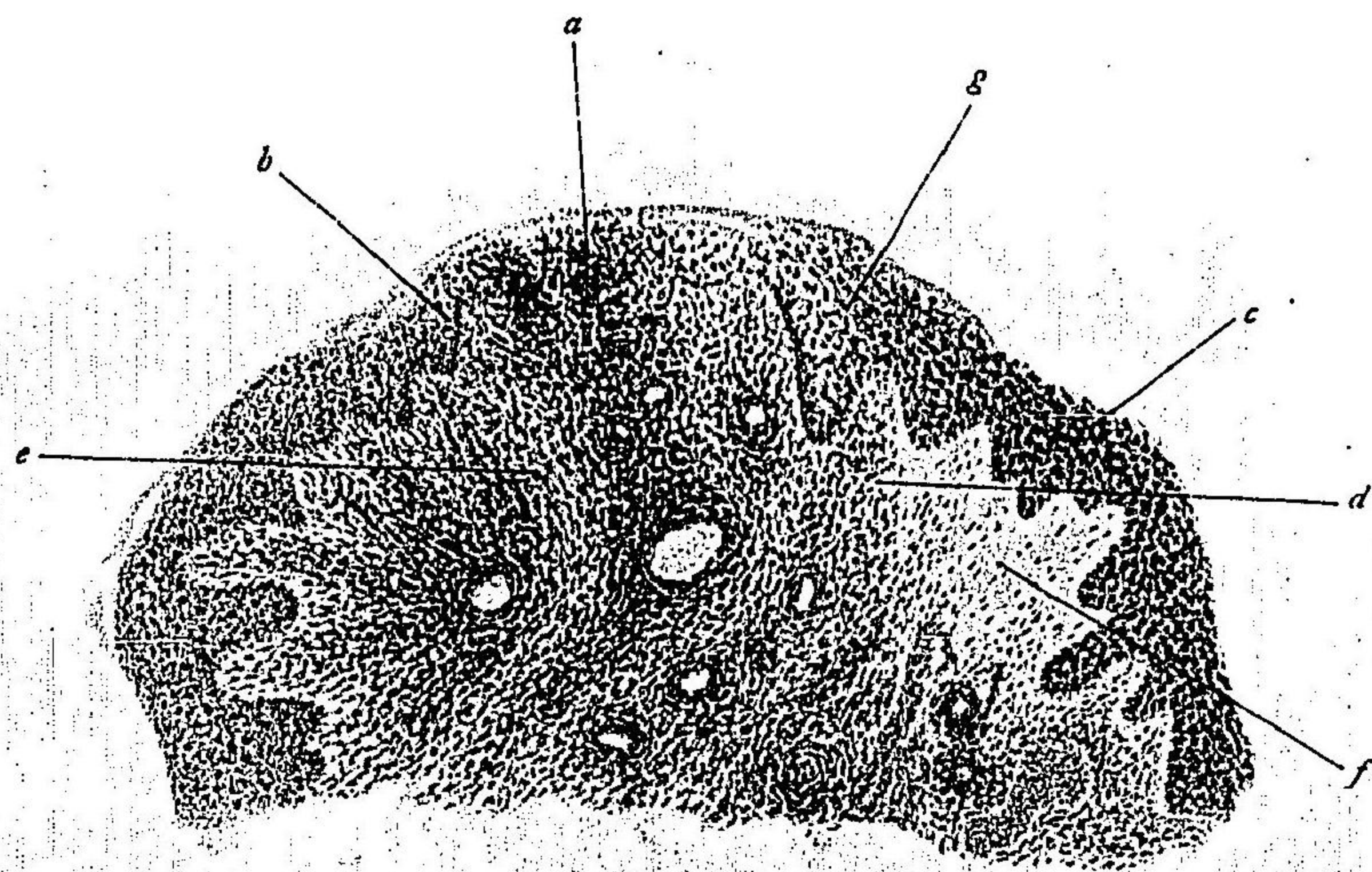


圖二第

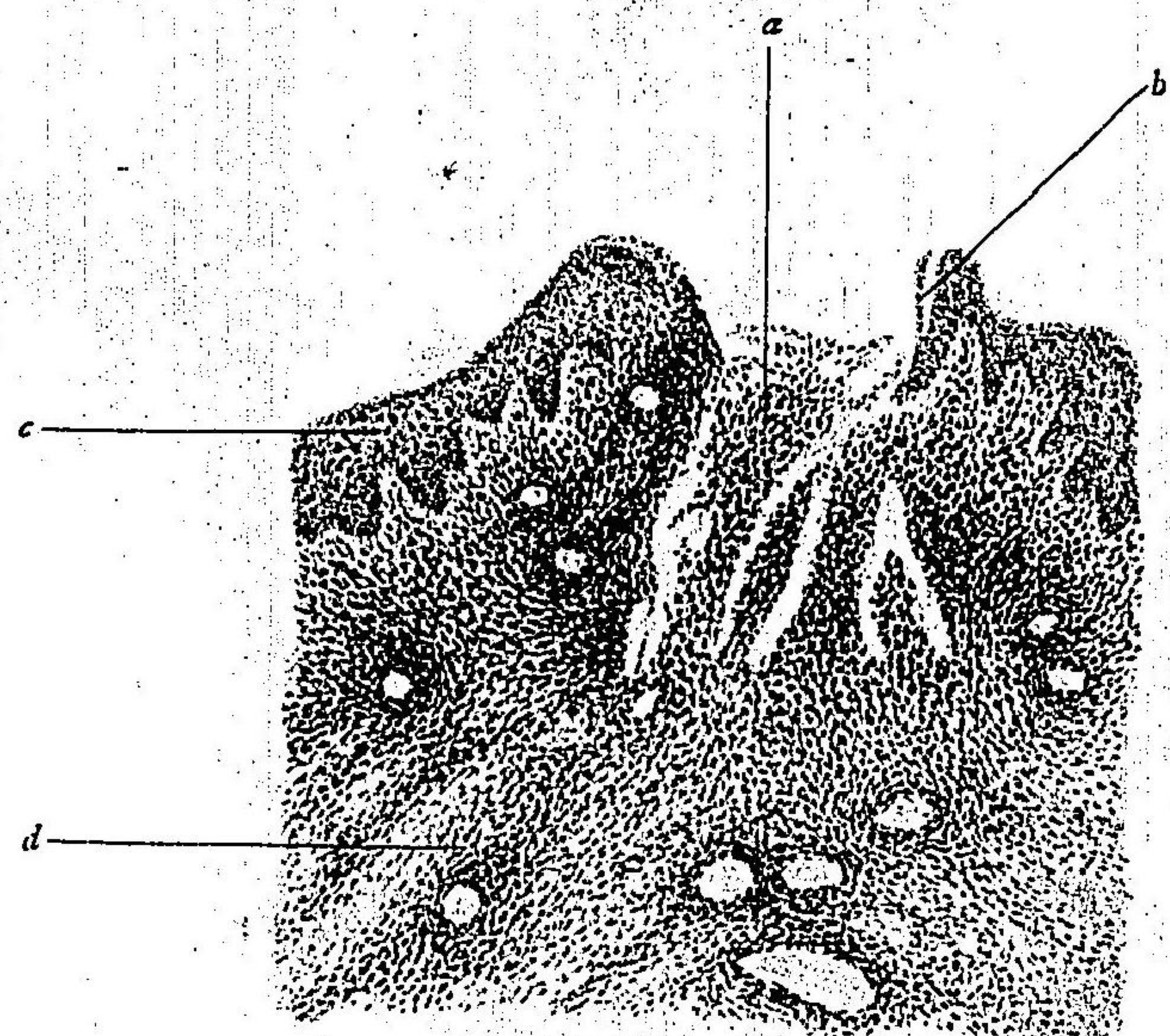


表圖四第

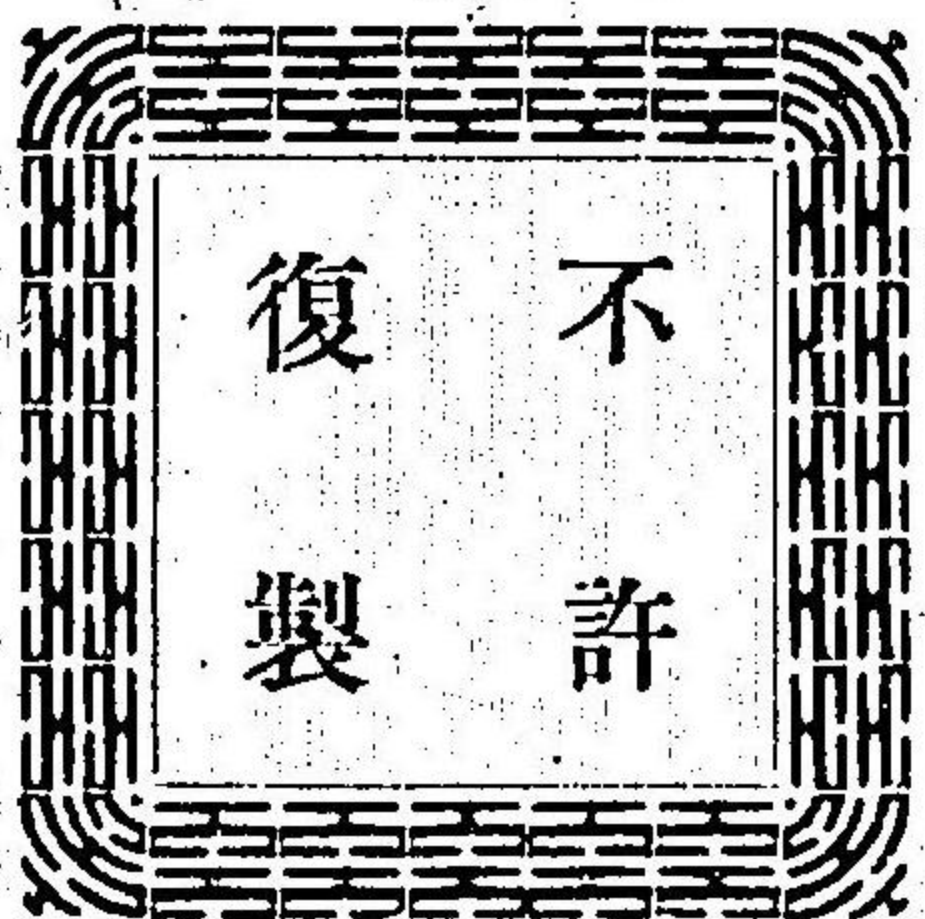
圖一第



圖二第



明治四十三年六月廿八日印刷
明治四十三年七月一日發行



編著者

發行者

印刷者

印刷所

正價金貳圓貳拾五錢

青木大勇

東京市牛込區神樂町一丁目六番地

山口徳次郎

東京市本郷區春木町二丁目廿二番地

矢部政吉

東京市本郷區湯島切通坂町五十一番地

正文舍

右同所 電話下谷一三六〇番

發兌元

醫藥學書及一般醫療器械專賣店
東京帝國醫科大學御用
農商務省認可各種度量衡販賣

東京市本郷區春木町二丁目角
半田屋醫籍商店

(電話)下谷二〇〇八番
(振替貯金)口座東京三四六四番

目書兌發屋田半

肆書捌賣

全	東京市日本橋區通三丁目	丸善株式會社書店	東京市京橋區南傳馬町	目黒書店	
全	本郷區湯島切通坂町	南江堂書店	全	日本區大傳馬町	文林堂書店
全	神田區鍛冶町	朝香屋書店	全	日本區通三丁目	林平次郎
全	本郷區湯島切通坂町	金原書店	京都市河原町通	大黒屋書店	
全	本郷區春木町三丁目	南江堂支店	京都市寺町通二條	若林茂一郎	
全	本郷區龍岡町	吐鳳堂書店	京都市三條通狹屋町	丸善支社	
全	本郷區本宮土町	文光堂書店	大坂市南區末吉橋通	同濟號書店	
全	本郷區本宮土町	明文館書店	大坂市中ノ島玉江町	角屋書店	
全	本郷區春木町二丁目	積運堂書店	長崎市引地町	安中集榮堂	
全	本郷區龍岡町	朝陽堂書店	熊本市新町二丁目	長崎次郎	
全	本郷區龍岡町	根津書店	金澤市片町	宇都宮書店	
全	本郷區龍岡町	南山堂書店	仙臺市新傳馬町	金英堂書店	
全	本郷區湯島切通坂町	文榮堂書店	岡山市上ノ町	渡邊宗次郎	
全	神田區表神保町	宮澤書店	千葉縣千葉町	明文館支店	
全		東京堂書店			

關西大賣捌

大坂市心齋橋筋博勞町(電話東二百五十八番) 松村九兵衛
 大坂市心齋橋筋一丁目(電話東八十四番) 丸善株式會社支店
 名古屋市本町三丁目(電話九百八十五番) 丸善書店

▲新訂增補第十六版全備完成▼

醫學博士佐藤勤也先生著

新訂實用產科學

全二冊

美裝木綴 正價 四圓 小包料 二十四錢
 前卷 後卷 各冊 正價 二圓 小包料 十八錢
 總紙頁一千餘頁 著色石版圖、緻密寫真版、精巧木版圖、三
 十五表 著色精圖、五十個 精巧寫真圖六十個、密畫四百二
 十一圖挿入

本書十六版後卷印刷成り終ニ完成ナ告グ(前版ニ比スレバ圖畫七
 十二個、紙數百十頁増加)木版ニ於ケル改訂ノ要領ハ前卷ノ出デ
 シ時已ニ踏彦ニ告ケタリ、後卷ニツキ特ニ一言ヲ報シ置キタキハ
 産婦熱論ヲ殆ド全ク改訂シタルニアリ、同論ハ斯界ノ泰斗エルン
 ストプム教授ノ新講演ニ基キ聊カ著者ノ意見ヲ加ヘテ編述シタル
 モノニシテ前卷トハ全ク面目ヲ改メタリ、斯科ノ進歩ニ後レザラン
 ンチ期スルノ士ニハ豈ニ一讀ノ價值ナシトセンヤ(著者自告)

▲新訂第十一版全備完成▼

醫學博士佐藤勤也先生著

新訂實用婦人科學

全貳冊

總紙頁一千三百餘頁正價五圓小包料廿四錢
 頗美裝金文字入木綴
 ▲前卷 正價貳圓三十錢 郵稅十八錢
 ▲後卷 正價貳圓七十錢 郵稅二十錢
 ▲鮮明著色石版木版寫真版廿八表及
 十個◎墨刷精圖貳百九十個計約 五百個挿入

近時婦人科學の發行せらるゝもの甚だ尠なるにも關らず實用
 婦人科學の需用は益々増加し年々幾々改版に次ぐに改版を以てし
 今後卷第十一版を出し其全部完成を告るに至
 るの進歩發達に因るに雖も本書が他に超越する所
 あるにあらずんば焉ぞ克く此盛況を呈するを得んや本版は例
 り佐藤博士が豊富なる實驗に基き綿密多數の新圖書
 を追加せられたるものにして之れを前版に比すれば其内容に於て
 著しく面目を改めたり伏して庶幾は層一層の愛讀を賜はらんを